

Arcserveシリーズ ハンズオン トレーニング

Arcserve UDP <後編>

災害対策、業務継続を適切なコストで実現

2025 年 5 月

Arcserve Japan

Rev.1.2

arcserve®

本日の内容

1. Arcserve UDP で可能な簡単統合バックアップ

[実習] シナリオ1：演習環境の構築 [実習] シナリオ2：バックアップ プランの作成

2. Arcserve UDP による仮想化統合基盤の最適バックアップ

[デモ] エージェントレス バックアップ

3. Arcserve UDP だから実現できる低価格な災害対策と業務継続

[実習] シナリオ3：レプリケート [デモ] 仮想スタンバイ

4. Arcserve UDP の便利機能

[実習] シナリオ4：アシュアード セキュリティ スキャン

5. ライセンス

6. 参考情報

ご案内

付録：インスタントVMの作成手順の紹介

Arcserve UDP のフォーカスエリア



簡単！でも 柔軟に バックアップ

簡単なだけでなく、小規模・大規模、物理・仮想・クラウド、Windows・Linuxを問わず、柔軟なバックアップやリストアを実現



仮想化統合基盤に関わる要件をまとめて対応

大規模な仮想化統合基盤やクラウドサービス、仮想基盤に統合できない物理サーバの保護、などもまとめて解決！



災害対策を適切なコストで実現

ストレージやネットワークを効率的に利用し、全体コストを抑えてシステムの遠隔地保存や業務継続を実現

1. Arcserve UDP で可能な 簡単統合バックアップ

統合管理を実現する Arcserve UDP のコンポーネント

Arcserve Unified Data Protection

エージェント

物理・仮想マシンのバックアップを実行



コンソール (統合管理サーバ)

スケジュール管理
および操作画面を提供



復旧ポイント サーバ

バックアップデータの格納庫を提供



環境に合わせて構成の組みあわせが可能

コンソール (統合管理サーバ)

様々な環境のバックアップの**各種設定**や**ステータスの確認**ができる

仮想マシン
(エージェントレス)



物理サーバ
(Windows/Linux)



クラウド
仮想マシン



クライアントPC



その他、
共有フォルダ、
Microsoft 365 など

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

更新サーバを使用できません。 | メッセージ (1) | administrator | ヘルプ

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: すべてのノード

ノード	アクション	ノードの追加	フィルタ	ステータス	ノード名	VM 名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果	前回のバックアップ時刻
すべてのノード			(フィルタ適用なし)							
プランのないノード										
Hyper-V グループ										
Linux ノード										
プラン グループ										
Linux バックアップ サーバ グループ										
プラン										
すべてのプラン										
デスティネーション										
復旧ポイント サーバ										
Arcserve Backup サーバ										
共有フォルダ										
クラウド アカウント										

最新のジョブ (タスク別)

バックアップ (増分)
2024/10/09 17:13:11
期間: 00:01:26

バックアップ - フル
2024/10/07 15:24:50

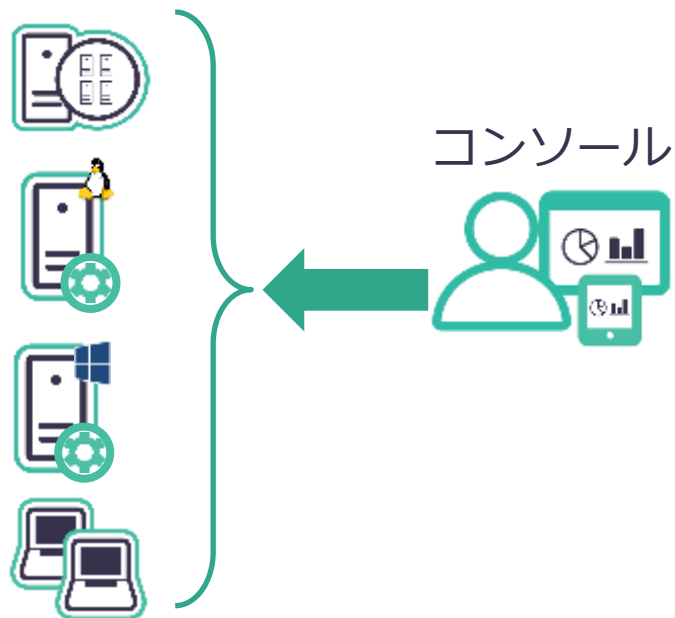
ブラウザ (Edge / Chrome / Firefox) を
使って**どこからでもアクセス**できる

コンソールの機能とメリット

大規模や混在環境などでの運用を簡単にし、**管理者の負担を軽減**

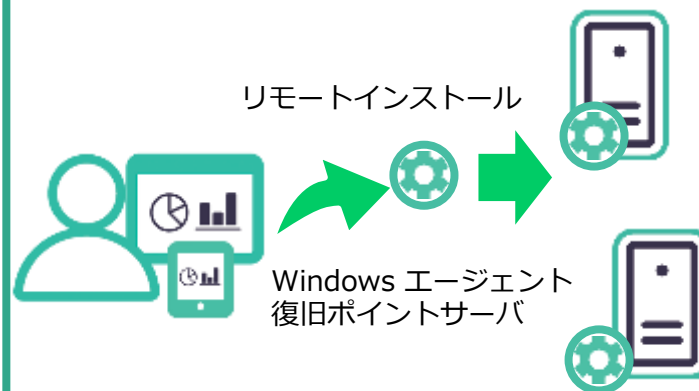
Windows/Linux/仮想環境 などを一括管理

WindowsやLinux、仮想環境などを集中管理が可能



手間いらずの簡単導入

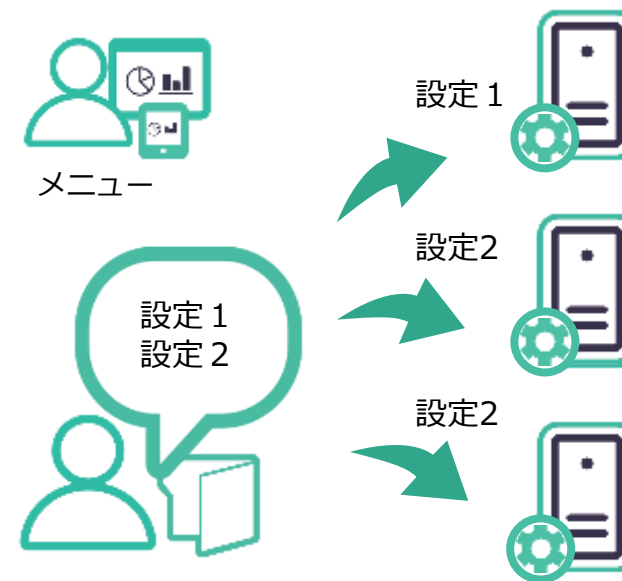
コンソールからUDPコンポーネントの導入*や設定が可能
導入作業にかかる手間を削減



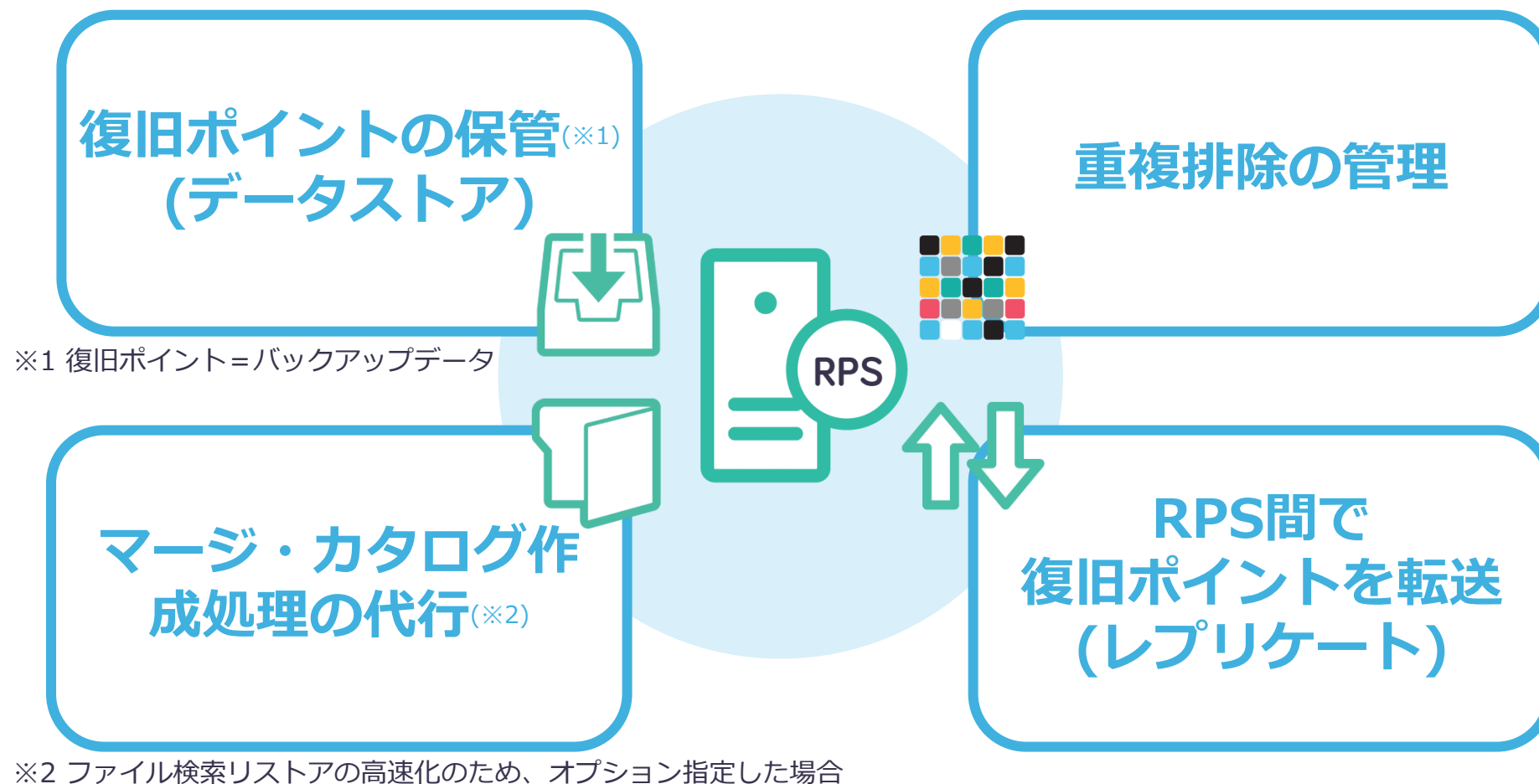
* Linux は1台のみにローカル インストールが必要

効率的なバックアップ設定

作成済みのバックアップ設定を展開し、設定や設計を簡素化



復旧ポイントサーバ (Recovery Point Server : RPS)



バックアップ サイズの低減と災害対策を実現する高機能なデータ格納庫を提供

要件にあわせて作成できる2種類のデータストア

データストアは RPS 上の**バックアップデータ格納領域**
復旧ポイント（バックアップ データ）は**データストアに格納**

重複排除データストア（デフォルト）



バックアップ データ サイズを**低減**

重複排除なしデータストア

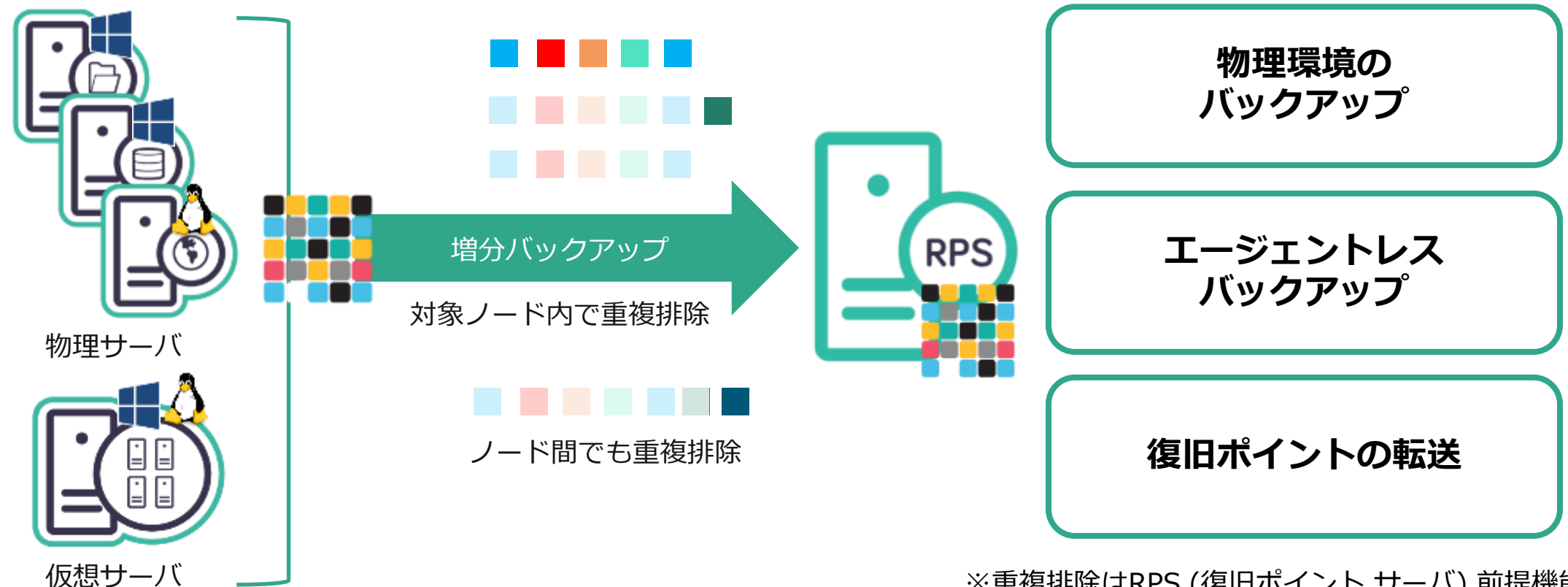


RPS に重複排除用の**メモリ追加が不要**※

※重複排除に必要なメモリ量については後述します

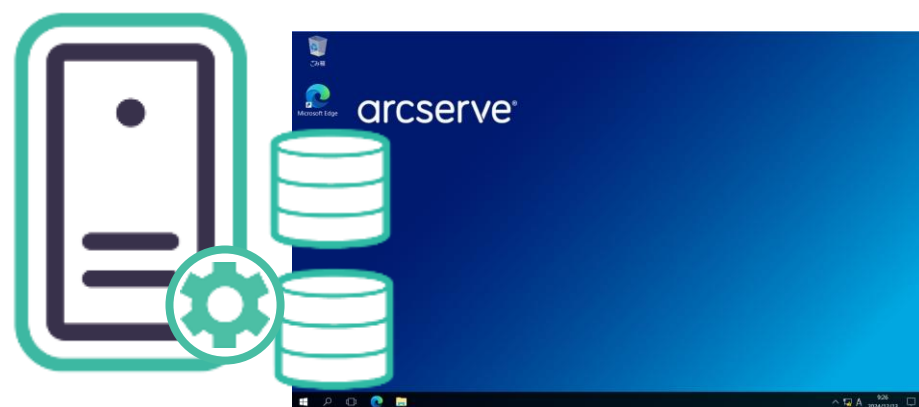
バックアップデータの重複排除 (デデュプリケート)

バックアップデータをソース側で重複排除、ネットワーク負荷軽減
対象ノード内/異なるノード間、世代間でも重複排除を実施 ※

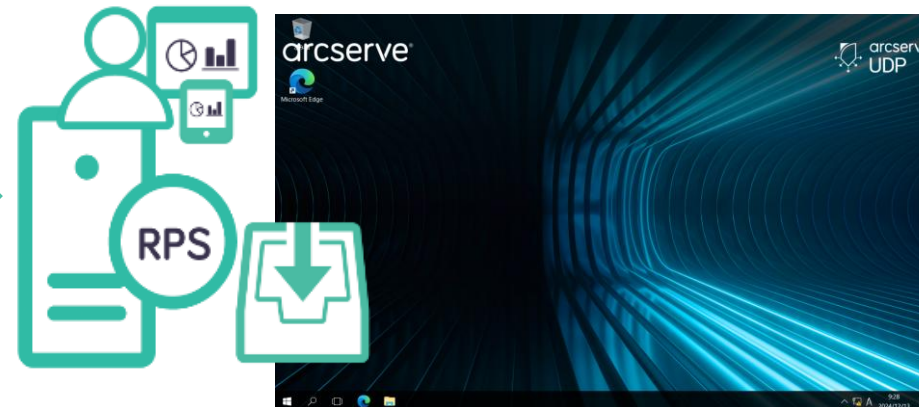


演習環境

※ 各演習では「統合管理サーバ/復旧ポイントサーバ」のみを操作します



バックアップ



■ バックアップ対象サーバ (ブルーの壁紙)

コンピュータ名 : win-agt

- Arcserve UDP エージェント
- Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ ※

※ 次の演習のため、復旧ポイントサーバがインストールされていますが、この演習では必要ありません

■ 統合管理サーバ/復旧ポイントサーバ (UDPの壁紙)

コンピュータ名 : udp-svr

- Arcserve UDP エージェント
- Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ
- Arcserve UDP 管理コンソール

【事前操作】

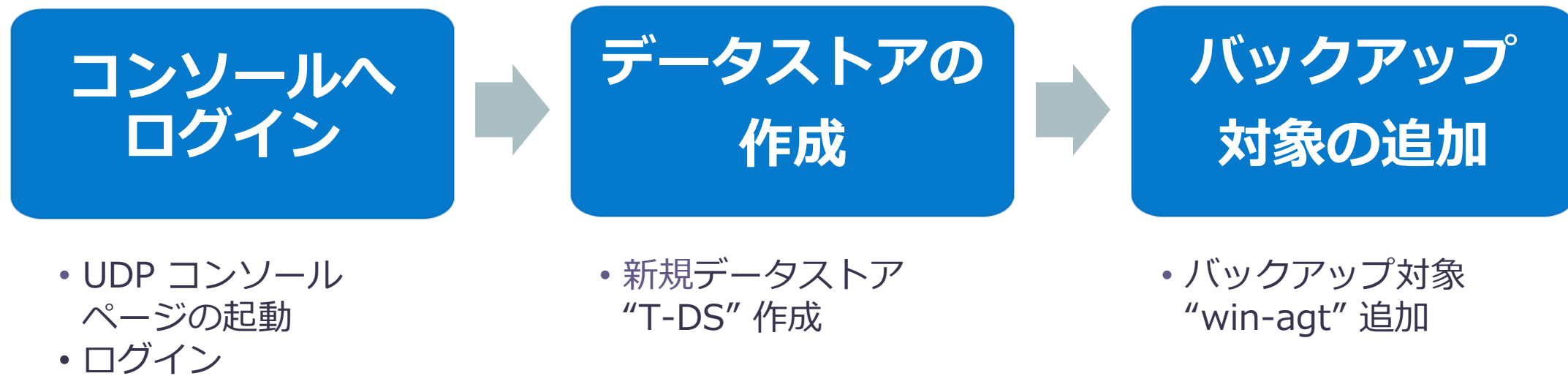
1. 画面になにも表示されていない場合はマウスを動かしてください
2. 画面上部にある VMware Workstation ツールバーの "udp-svr" タブをクリックして画面を表示してください



演習内容：演習環境の構築 データストアの作成とバックアップ対象の追加

Arcserve UDP コンソールにログインし、バックアップ設定に使用する RPS データストアとバックアップ対象ノードを追加します

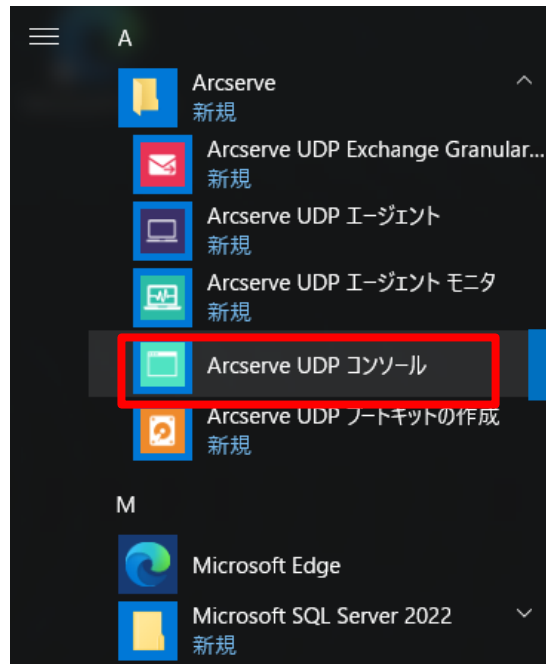
前編と同様 **【チェックポイント】**のスライドまで進めてお待ちください



① UDP コンソールへのログイン

「udp-svr」のスタートメニューから [Arcserve] をクリックし、[Arcserve UDP コンソール] をクリックします。

[接続がプライベートではありません] の画面では [詳細設定] から [localhost に進む \(安全ではありません\)](#) をクリックし、ログイン画面が表示されたらユーザ名「**administrator**」、パスワード「**arcserve**」を入力してログインをクリックします。



このサーバーは **localhost** であることを証明できませんでした。セキュリティ証明書は、コンピューターのオペレーティングシステムから信頼されていません。構成に誤りがあるか、接続が攻撃者によって妨害されている可能性があります。

[localhost に進む \(安全ではありません\)](#)



ユーザ名 : **administrator**
パスワード : **arcserve**

※ 「udp-svr」にて操作します

② 復旧ポイントサーバへのアクセス

ログインすると、ダッシュボード画面が表示される [リソース] をクリックし、左ペインの [復旧ポイントサーバ] をクリックします。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

更新サーバを使用できません。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

最終のタスク ステータス

すべてのノード

すべてのタスク タイプ

ステータス	数
成功	0
失敗	0
キャンセル	0
未実行	0
未接続	0
未完了	0

表示するデータがありません

目標復旧時間 (RTO)

1 (0%) 個中 0 個のノードに

100%

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

デスティネーション: 復旧ポイントサーバ

アクション | 復旧ポイントサーバ の追加

名前	ステータス	プラン数	保存されたデータ	デデブリケーション
udp-svr				
M-DS	✓	0	25.39 GB	10%

ノード

- すべてのノード
- プランのないノード

プラン

- すべてのプラン

デスティネーション

- 復旧ポイントサーバ
- Arcserve Backup サーバ
- 共有フォルダ
- クラウド アカウント
- リモート コンソール

インフラストラクチャ

※ [M-DS] は次の演習で使用するために
予め作成したデータストアです。

③ データストアの追加

復旧ポイント サーバ「udp-svr」にデータストアを追加するため「**udp-svr**」を右クリックし、[**データストアの追加**] をクリックします。

The screenshot shows the Arcserve UDP web interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード', 'リソース', 'ジョブ', 'レポート', 'ログ', and '設定'. The main content area is titled 'デスティネーション: 復旧ポイントサーバ'. On the left, a sidebar menu shows 'ノード' (Nodes) expanded, with 'udp-svr' selected under '復旧ポイントサーバ' (Recovery Point Server). The main table lists nodes with columns '名前' (Name), 'ステータス' (Status), 'プラン数' (Plan Count), and '保存された' (Saved). The 'udp-svr' node is highlighted. A context menu is open over the 'udp-svr' node, showing options: '更新...' (Update...), '削除' (Delete), 'データストアの追加' (Add Data Store), 'データストアのインポート' (Import Data Store), 'RPS ジャンプスタート' (RPS Jump Start), '復旧ポイントサーバのインストール/アップグレード' (Install/Upgrade Recovery Point Server), and 'アドホックレプリケーション' (Ad-hoc Replication). The 'データストアの追加' option is highlighted with a red box.

名前	ステータス	プラン数	保存された
udp-svr			
M-DS			25.39 GB

④ データストア名とデータストア フォルダの設定

- ① データストアの作成画面内の [データストア名] に「**T-DS**」を入力
- ② [データ ストア フォルダ] 右端の [参照] をクリックし、ポップアップ表示されたウィンドウから「**D:¥T-DS¥1_DataStore**」を選択後 [OK] をクリックし、データストア フォルダパスを指定します。

データ ストアの作成

一般ルールを参照するか、デデブリケーションのストレージ容量要件を次で推定できます: [要件プランニングのクイックリファレンス](#)。

デデブリケーション、圧縮、暗号化を有効化または無効化する設定は、データ ストアの作成後は変更できません。

復旧ポイントサーバ	udp-svr
データ ストア名	T-DS
データ ストア フォルダ	D:¥T-DS¥1_DataStore
同時アクティブ ノードの制限	4

☒ デデブリケーションの有効化

デデブリケーション ブロック サイズ ☐ デデブリケーション ☐ テープ バックアップ ☐ リストア

ハッシュ メモリの割り当て MB (最大: 20479 MB、最小: 1024 MB)

バックアップ先のフルパス (ローカルパスまたはネットワークパス) を指定します。アプリケーションでネットワークパスが検出された後に、パスを参照して指定できます。

フォルダの選択

- C:¥
- D:¥
 - AS-Mount
 - M-DS
 - T-DS
 - 1_DataStore**
 - 2_DataDest
 - 3_IndexDest
 - 4_HashDest

フォルダ名:

⑤ 重複排除データストアの設定

[参照]をクリックし、**D:¥T-DS**配下のフォルダを以下の通り指定します。

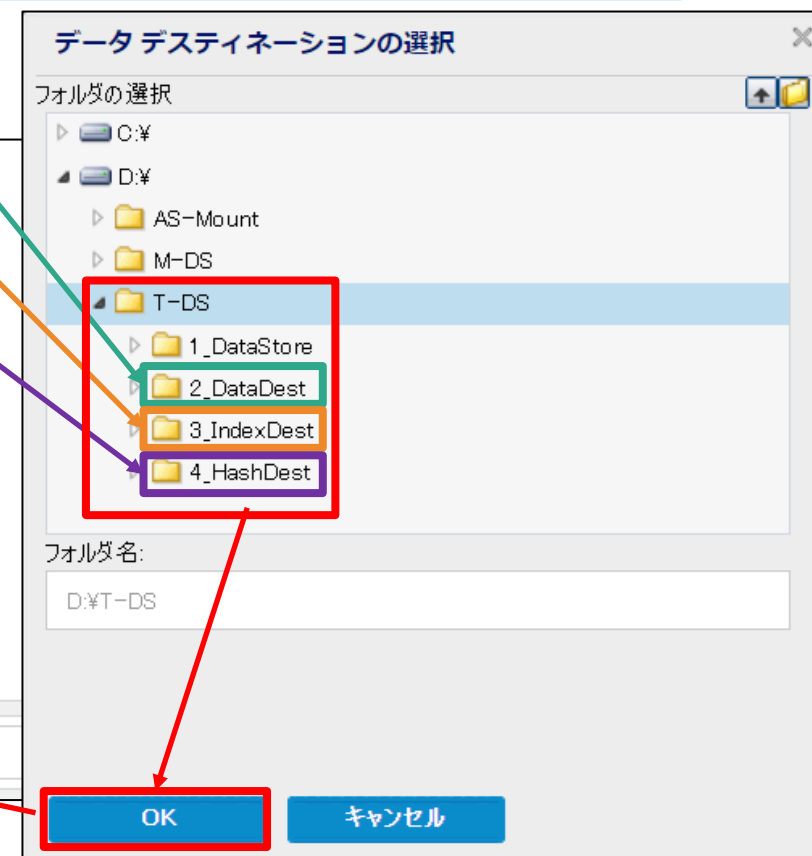
データ デスティネーション ➡ **D:¥T-DS¥2_DataDest**
インデックス デスティネーション ➡ **D:¥T-DS¥3_IndexDest**
ハッシュ デスティネーション ➡ **D:¥T-DS¥4_HashDest**

データ デスティネーション	D:¥T-DS¥2_DataDest	参照
インデックス デスティネーション	D:¥T-DS¥3_IndexDest	参照
ハッシュ デスティネーション	D:¥T-DS¥4_HashDest	参照

☒ 圧縮を有効にする
圧縮タイプ ☒ 標準 ☐ 最大

☐ 暗号化の有効化

☐ デスティネーションの容量が上限に近づくとき、電子メール アラートを送信する



⑥ 作成した重複排除データストアの確認

ステータスが緑色になり、データストアの新規作成が正常完了したことを確認します。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

◀ デスティネーション: 復旧ポイントサーバ

アクション | 復旧ポイントサーバ の追加

ノード

すべてのノード
プランのないノード

プラン

すべてのプラン

デスティネーション

復旧ポイント サーバ

Arcserve Backup サーバ

共有フォルダ

名前	ステータス	プラン数	保存されたデータ	デデュPLICATION	圧縮	全体でのデータ縮小
udp-svr						
M-DS	✓	0	25.39 GB	10%	29%	36%
I-DS	✓	0	0 バイト	0%	0%	0%

⑦ バックアップ対象の追加

- ① [ノード] -[すべてのノード] から [ノードの追加] をクリック
- ② [Arcserve UDP コンソールへのノードの追加] 画面で、[ノード名/IPアドレス]、[ユーザ名]、[パスワード] を入力後、[リストに追加] ボタンをクリック
- ③ バックアップ対象がリストに追加されたことを確認し [保存] をクリック

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: すべてのノード ①

ノード

すべてのノード

プランのないノード

プラン

すべてのプラン

デスティネーション

復旧ポイント サーバ

Arcserve Backup サーバ

アクション

ノードの追加

ステータス

ノード名

udp-svr

ノードの追加

Windows ノードの追加

ノード名/IP アドレス

ユーザ名

administrator

パスワード

.....

説明の追加

認証の種類

Windows 認証

ユーザ名

administrator

パスワード

.....

ポート

6054

リストに追加

win-agt

VM 名

ハイパーバイザ

保存

キャンセル

ヘルプ

③

ノード名/IPアドレス : win-agt
ユーザ名 : administrator
パスワード : arcserve

【チェックポイント】 ノード登録の確認

ノード [win-agt] が追加されていることを確認します。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定					
ノード: すべてのノード					
ノード	アクション	ノードの追加		フィルタ	(フィルタ適用なし)
すべてのノード					
プランのないノード					
プラン					
すべてのプラン					
デスティネーション					
復旧ポイント サーバ					
		ステータス	ノード名	VM 名	プラン
			udp-svr		
			win-agt		

バックアップ先(データストア) とバックアップ対象を追加して、バックアップ環境構築は完了

シナリオ1のハンズオンは以上で終了です

重複排除データストアの各フォルダの役割

データストアの作成

一般ルールを参照するか、デデブリケーションのストレージ容量要件を次で推定できます: [要件プランニングのクイックリファレンス](#)。

① デデブリケーション、圧縮、暗号化を有効化または無効化する設定は、データストアの作成後は変更できません。

復旧ポイントサーバ: udp-svr

データストア名:

データストアフォルダ: [参照](#)

同時アクティブノードの制限:

☒ デデブリケーションの有効化

デデブリケーション ブロック サイズ:

ハッシュ メモリの割り当て: MB (最大: 20479 MB、最小: 1024 MB)

☐ ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある

データ デスティネーション: [参照](#)

インデックス デスティネーション: [参照](#)

ハッシュ デスティネーション: [参照](#)

復旧ポイントサーバ: udp-svr

データストア名:

データストアフォルダ: [参照](#)

同時アクティブノードの制限:

☐ デデブリケーションの有効化

☒ 圧縮を有効にする

← 重複排除を無効にする場合は、データストアフォルダのみを指定します

1) データストア フォルダ

バックアップデータに関連する情報およびカタログを保存

2) データ デスティネーション

重複排除済みのバックアップデータを保存

3) インデックス デスティネーション

データのポインタ情報(インデックス)を保存

4) ハッシュ デスティネーション

重複を計算するために必要な情報(ハッシュファイル)を保存

※SSD上に設定した場合、「ハッシュデスティネーションはSSD (Solid State Drive) 上にある」にチェックします。

重複排除データストア利用時のポイント

1

インデックスやハッシュはローカルディスクに格納

インデックスやハッシュ デスティネーションを共有フォルダなどに設定すると重複排除のパフォーマンスが大幅に低下する

インデックスやハッシュはローカル ディスクに設定し、可能な限りデータ デスティネーションとは別ドライブにすることを推奨

2

保護対象データ 1 TBあたり 1 GB ~最大 2.5 GB の追加メモリを推奨

復旧ポイント サーバに必要なメモリ 8 GB に、ハッシュ値の格納用として、保護対象のデータ サイズが 1 TB 程度の場合、1 GB から最大 2.5 GB のメモリ搭載を推奨

(デフォルトブロック サイズ "16KB" 利用の場合)

3

SSDを利用するとメモリ使用量を抑えることができる

使用するメモリ サイズを抑えたい場合は、ハッシュ デスティネーションをソリッド ステート ドライブ(SSD)に配置

☒ ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある	
データ デスティネーション	
インデックス デスティネーション	
ハッシュ デスティネーション	

<参考> 重複排除時のメモリ使用量

バックアップ対象データとして500GBデータを使用

ブロックサイズ	4KB	8KB	16KB	32KB	64KB (推定ツールで算出)
① メモリ使用量 (ハッシュサイズ)	1660 MB	917 MB	571 MB	308 MB	208 MB
② 重複排除率	64.76 %	54.36 %	46.54 %	40.71 %	35 %
圧縮率	23.65 %	24.63 %	25.15%	25.17 %	25 %
データ縮減率	73.10 %	65.60 %	59.98 %	55.64 %	49 %

☒ デデブリケーションの有効化

デデブリケーション ブロック サイズ 16 KB

ハッシュ メモリの割り当て

☐ ハッシュ デスティネーションは SS

データ デスティネーション

16 KB
4 KB
8 KB
16 KB
32 KB
64 KB

ブロックサイズを2倍にすると、メモリ使用量は1/2になりますが（①参照）
重複排除率はそこまで低下しません（②参照、各10%程度の低下）
メモリ使用量と重複排除率のバランスを考慮し、ブロックサイズを選択してください

結果：ブロック サイズを大きくするとメモリ使用量を節約できる

<参考> 推定バックアップデータ量から算出する方法

UDPコンソールの [データストアの作成] - [[要件プランニングのクイックリファレンス](#)] から起動

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

データストアの作成

一般ルールを参照するか、デデュPLICATIONのストレージ容量要件を次で推定できます [要件プランニングのクイックリファレンス](#)。

i デデュPLICATION、圧縮、暗号化を有効化または無効化する設定は、データストアの作成後は変更できません。

復旧ポイントサーバ	udp-svr
データストア名	
データストアフォルダ	
同時アクティブノードの制限	4

メモリおよびストレージの要件の推定

格納されるデータ量の推定値、およびデデュPLICATIONおよび圧縮可能なデータの割合(%)を入力します。ツールは次に、必要なデータ デスティネーション スペース、ハッシュ デスティネーション スペースおよび、ハッシュ メモリ スペースの見積もりを行います。

[デデュPLICATIONおよび圧縮について](#)

保存されるデータの推定サイズ	20GB	<input type="range"/>	100000GB	10000
デデュPLICATION可能なデータの推定割合(%)	0%	<input type="range"/>	100%	60
圧縮するデータの推定割合(%)	0%	<input type="range"/>	100%	30
ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある	☐			
デデュPLICATION ブロック サイズ	16KB			

推定データ デスティネーション容量: 2800.0 GB

推定ハッシュ デスティネーション容量: 10.0 GB

推定ハッシュ メモリ割り当て最小値: 10240.0 MB

OK

※ このツールで算出される値のサンプルは、以下を参照してください。
[Arcserve UDP 10.x サーバ構成とスペック見積もり方法](#)

<参考> サーバスペックの見積もり (カタログセンター)

- ・ Arcserve UDP 10.x サーバ構成とスペック見積もり方法

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2024-10/udp-10x-serverspec-guide.pdf>

- ・ Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ (RPS) サイジング ツール

<https://www.arcserve.com/jp/udp-rps-sizing-tool.xlsx>

※ こちらでわかりやすく解説しています！

Arcserve ブログ記事：Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ (RPS) の容量計算が簡単になります！

<https://arcserve.txt-nifty.com/blog/2019/12/post-852c89.html>

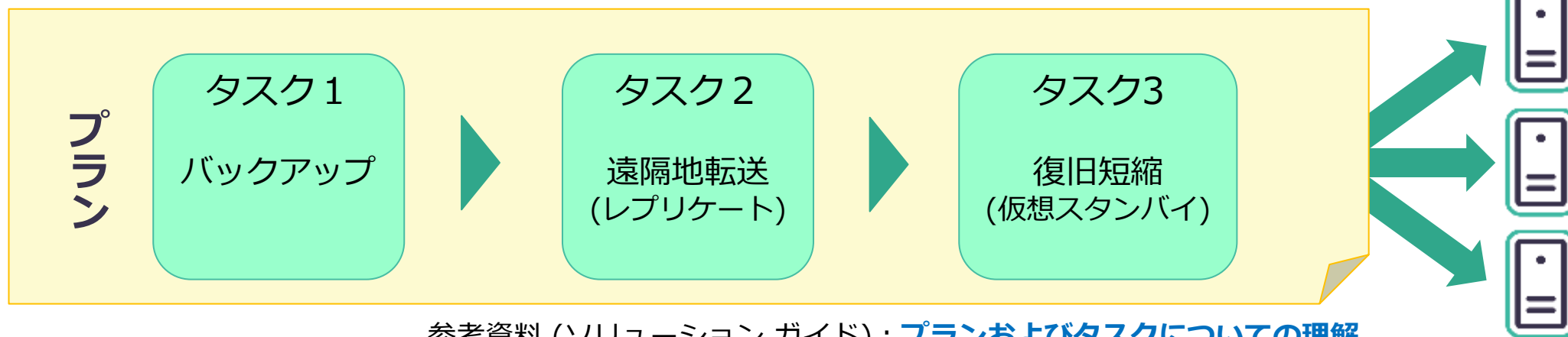
効率的なバックアップ設定

システム保護方法をひな形 “**プラン**” として定義

プランの特長

- 1つ以上の「**タスク**」（実行する処理の内容）で構成
- 複数のタスクは実行順序を設定
- 作成したプランを対象ノードに配布

3つのタスクを含むプラン例:



参考資料 (ソリューション ガイド): [プランおよびタスクについての理解](#)

演習内容：バックアップのためのプラン作成

物理サーバのバックアップ設定と実行を行います

プランの追加

- 新規プランの作成

バックアップ の設定 ※

- タスク1の作成
 - ✓ソース
 - ✓デスティネーション
 - ✓スケジュール

作成した プランの実行

- 手動実行

※ デフォルトのバックアップ設定

周期：日次(毎日)

時刻：22:00時開始

バックアップ方法：増分

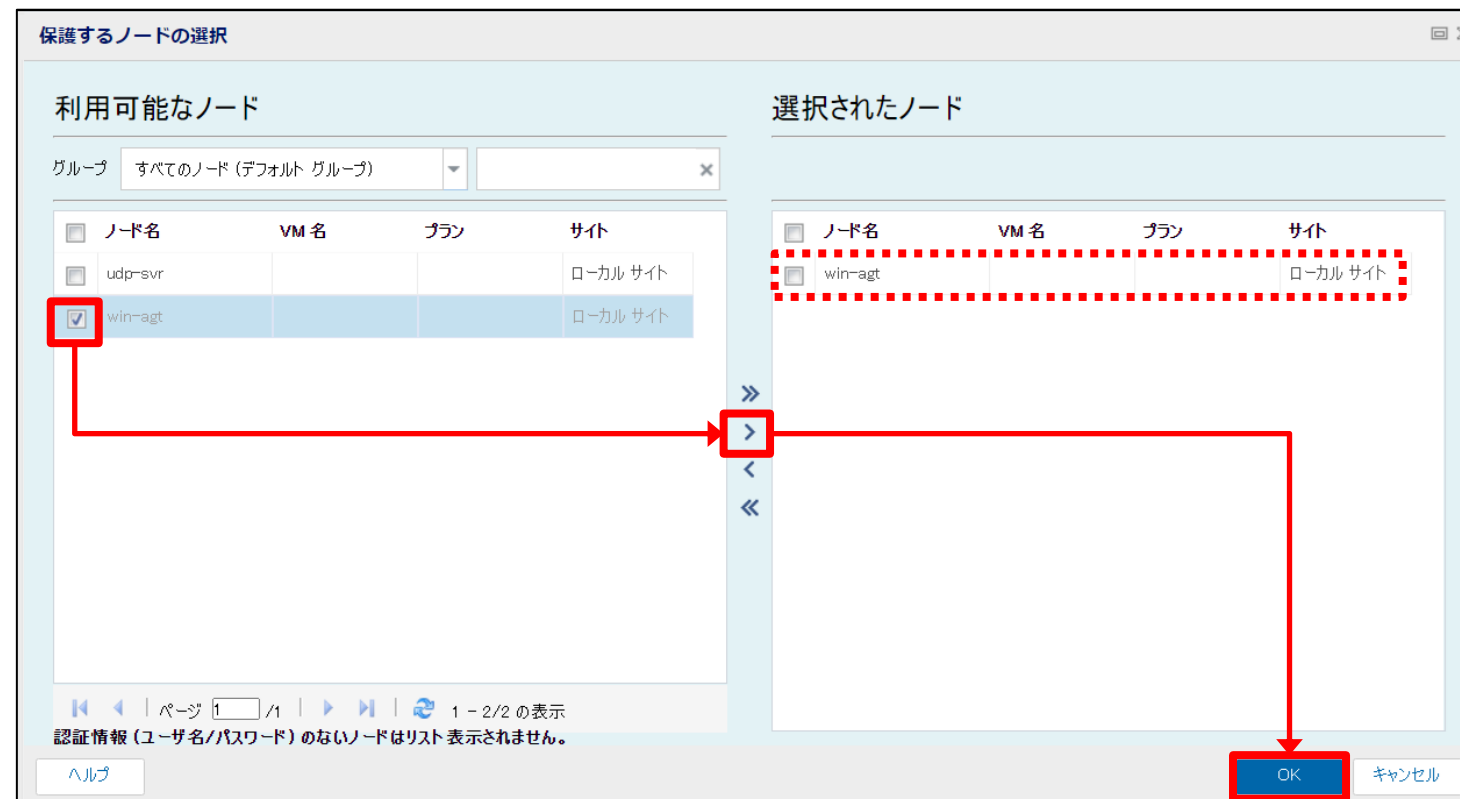
① 物理サーバのバックアップ プラン作成

[すべてのプラン] - [プランの追加] を選択し、プラン名に「**物理サーバのバックアップ**」を入力。
タスクの種類のドロップダウンリストから、[**バックアップ:エージェントベース Windows**] を選択

The screenshot illustrates the process of creating a backup plan in the Arcserve UDP console. It is divided into two panels. The left panel shows the main navigation menu with 'プラン' (Plans) selected, and 'すべてのプラン' (All Plans) highlighted. A red box highlights 'プランの追加' (Add Plan) in the top right of the 'プラン' section. A blue arrow points from this button to the right panel. The right panel, titled 'プランの追加' (Add Plan), shows a form where the plan name '物理サーバのバックアップ' (Physical Server Backup) is entered in a red-bordered field. Below this, the 'タスクの種類' (Task Type) dropdown menu is open, showing a list of options. The option 'バックアップ: エージェントベース Windows' (Backup: Agent-based Windows) is highlighted with a red box. Other options include 'バックアップ: Oracle データベース', 'バックアップ: UNC または NFS パス上のファイル', 'バックアップ: エージェントベース Linux', 'バックアップ: ホストベース エージェントレス', and 'リモートで管理されている RPS からレプリケート'.

② ソースの選択

[ソース] タブから、[⊕追加] - [Arcserve UDPで保護するノードの選択] を選択。
[保護するノードの選択] 画面で [**win-agt**] をチェックし、[>]で右側のペインに登録されたことを確認し、[OK] をクリック



③ デスティネーション/スケジュールの選択、プランの保存

[ソース] タブのノード名に [win-agt] が追加されていることを確認
[デスティネーション] および [スケジュール] などその他はデフォルトのまま、プランを [保存] をクリック

物理サーバのバックアップ

物理サーバのバックアップ ☐ このプランを一時停止

タスクの種類 バックアップ: エージェントベース Windows

タスクの種類 バックアップ: エージェントベース Windows

タスクの種類 バックアップ: エージェントベース Windows

ソース デスティネーション スケジュール 拡張

ソース デスティネーション スケジュール 拡張

デスティネーションの種類 ☐ ローカルディスクまたは共有フォルダ

復旧ポイント サーバ udp-svr

データストア M-DS

追加 削除

タイプ 説明 日 月 火 水 木 金 土 時刻

タイプ	説明	日	月	火	水	木	金	土	時刻
☒	日次増分バックアップ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	22:00

最初のバックアップが次より前でない 2024/12/13 14 : 09

復旧ポイントの保存

日次バックアップ 7

週次バックアップ

月次バックアップ

カスタム/手動バックアップ 31

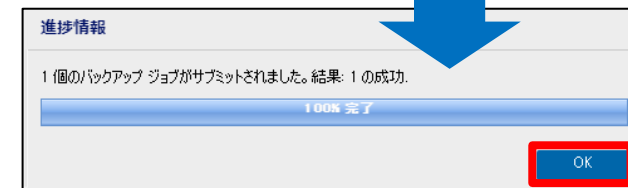
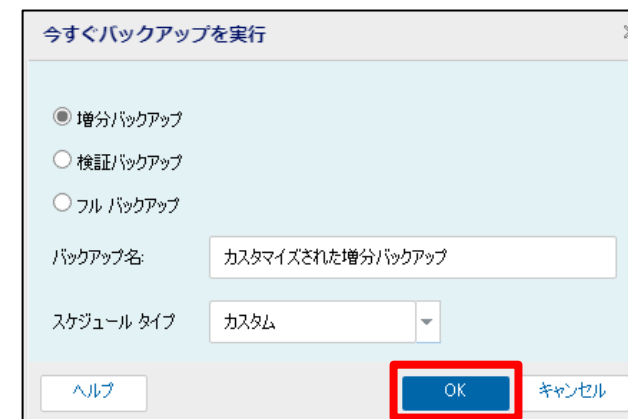
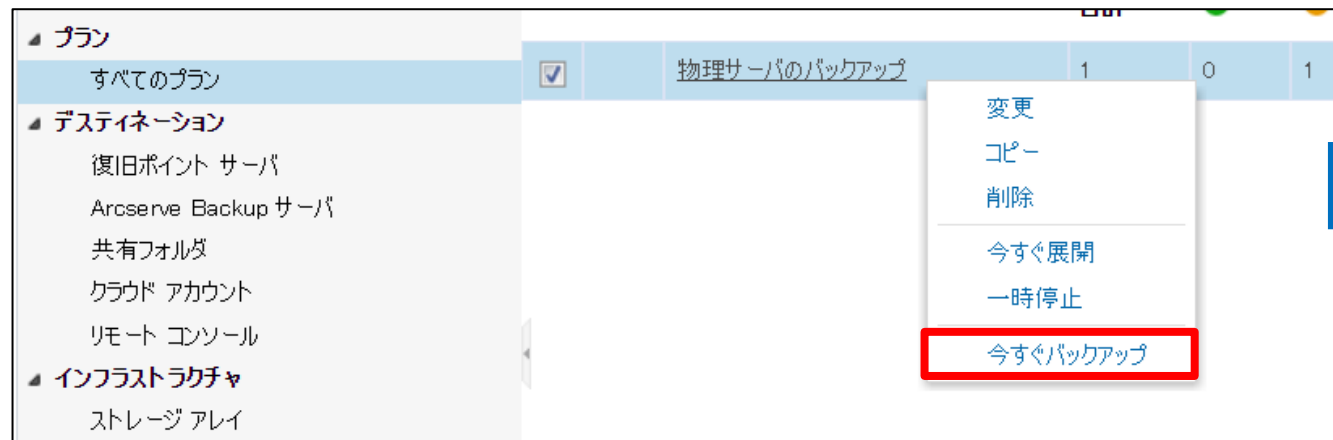
保存

④ プランの実行

作成されたプランが展開されたことを確認後、プランの右クリックから **[今すぐバックアップ]** を選択し、**[増分バックアップ]** が選択されていることを確認し、**[OK]** をクリック



※ 初回バックアップは、自動的にフル バックアップに変更されます。今回の実習環境では、既にバックアップが実行されていますので、増分バックアップが実行されます。



[進捗情報]も[OK] をクリック

⑤ 進捗状況の確認

[すべてのノード] から、[win-agt] のみ ☒ **チェック**し、ステータスを確認
[最近のイベント] にて **[詳細]** をクリックし、実行中のバックアップを確認

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: すべてのノード win-agt

アクション | ノードの追加 フィルタ (フィルタ適用なし)

ノード	アクション	ノードの追加	フィルタ	ノード名	VM 名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果
すべてのノード	☒			win-agt		物理サーバのバックアップ		ノード 'win-agt' で警告が発生しました

環境設定ウィザード

ステータス

ジョブが進行中です。

最近のイベント ログの表示

ノード名: win-agt

バックアップ: 2024/12/13 14:23:11

0% (0 バイト / 225.84 MB)

経過時間: 00:00:20

詳細

バックアップ ステータス モニタ - win-agt

バックアップ - 増分

進捗状況

フェーズ スナップショットの削除中

100% (225.84 MB / 225.84 MB)

開始時刻 2024/12/13 14:23:11

経過時間 00:00:02

推定残り時間 0

処理中 N/A

保護 暗号化なし

デデューPLICATION 有効

圧縮レベル 標準

デデューPLICATION率 (%) 73.61%

圧縮 (%) 51.24%

全体でのデータ縮小率 (%) 87.13%

ターゲット復旧ポイント サーバ udp-svr

ターゲット データ ストア名 M-D5

スループット

ディスク読み取りスロットル 制限なし

ディスク読み取りスループット 0 MB/分

ネットワーク スロットル 制限なし

ネットワーク スループット 0 Kbps

閉じる ヘルプ

【チェックポイント】 実行結果の確認

右ペインの [ステータス] で、増分バックアップが正常に完了していることを確認

ノード: すべてのノード

win-agt

環境設定ウィザード

アクション	ステータス	ノード名	VM 名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果
☐	!	udp-svr				
☒	✓	win-agt		物理サーバのバックアップ		完了

物理サーバのバックアップ

ノード 'win-agt' で警告が発生しました

最新のジョブ (タスク別)

✓ バックアップ (増分)
2024/12/13 14:23:11 期間: 00:00:27

最近のイベント ログの表示

✓ バックアップ - 増分 2024/12/13 14:23:11

警告

ノード 'win-agt' で警告が発生しました。(Arcserve UDP 復旧ポイントサーバデータストアはボリューム D: 上で設定されません。このボリュームはバックアップされません。)

OK

※ 実習環境では、[win-agt] サーバは復旧ポイントサーバが導入され、バックアップデータがDドライブに保存されています。UDPはバックアップ先として指定されているドライブをバックアップ対象から自動的に除外するため、警告メッセージが表示されますが、[シナリオ2] の演習には影響ありません。

シナリオ2のハンズオンは以上で終了です

<参考> 既存プランのコピー

プランはコピーをすることが可能です。
コピーしたプランを修正して、別のノードに利用することが可能です。
コピー先のプランにて、バックアップ ソースは再設定する必要があります。

The screenshot displays the Arcserve UDP management console. On the left, a navigation tree shows categories like 'ノード' (Nodes), 'プラン' (Plans), 'デステイネーション' (Destinations), and 'インフラストラクチャ' (Infrastructure). The main panel is titled 'プラン: すべてのプラン' (Plans: All Plans). It features a table with columns for 'プラン名' (Plan Name) and '合計' (Total). One plan, '物理サーバのバックアップ' (Physical Server Backup), is listed with a total of 1. A context menu is open over this plan, offering actions: '変更' (Change), 'コピー' (Copy), '削除' (Delete), '今すぐ展開' (Deploy Now), '一時停止' (Pause), and '今すぐバックアップ' (Backup Now). The 'コピー' option is highlighted with a red rectangular border.

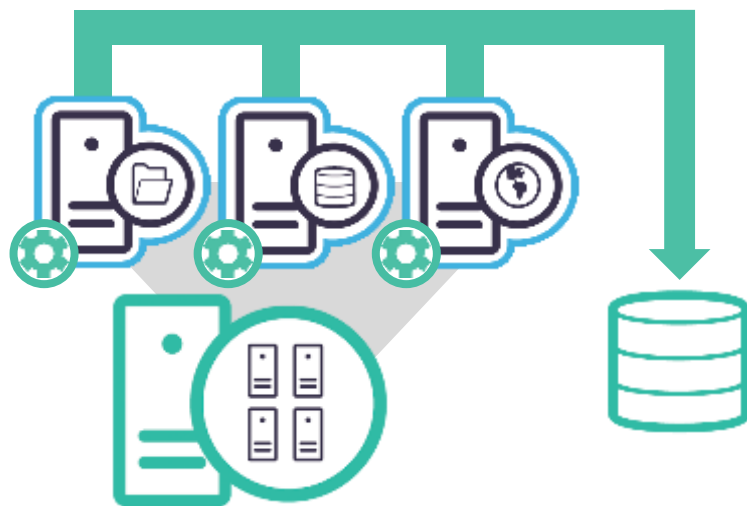
プラン名	合計
物理サーバのバックアップ	1

2. Arcserve UDP による 仮想化統合基盤の最適バックアップ

仮想マシンのバックアップ ～ 2つの方法～

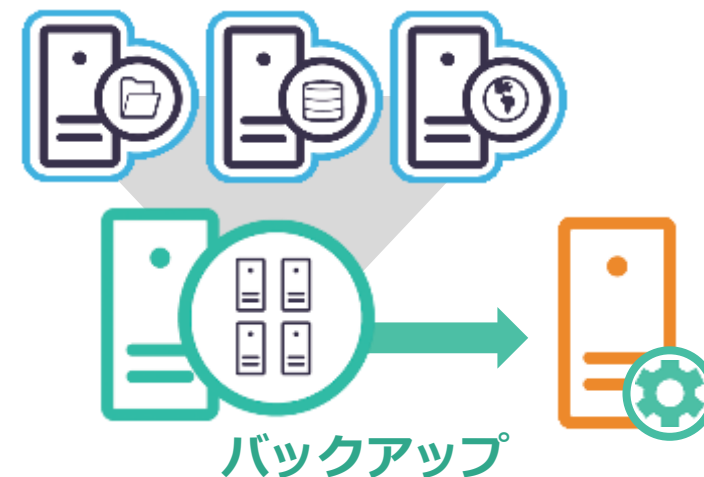
仮想マシンにエージェントを導入する（エージェント ベース）

バックアップ



物理サーバと同じバックアップ
運用ができる

仮想マシンにエージェントを導入しない（エージェント レス）

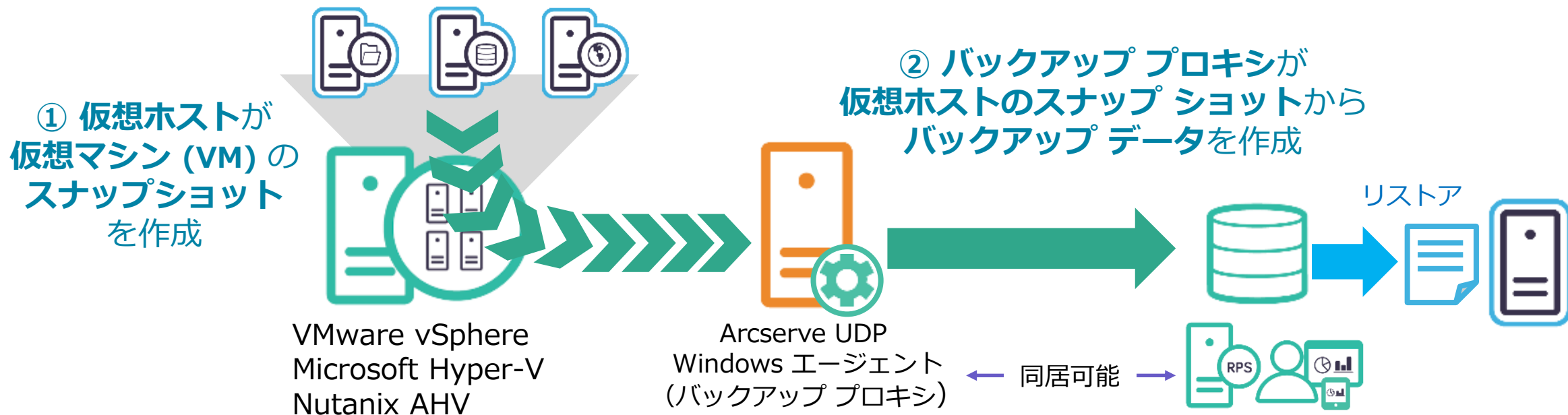


エージェントを導入する手間が
かからない

仮想マシンのエージェントレス バックアップ

タスク名

バックアップ：ホストベース エージェントレス



継続増分/重複排除
運用可能

Windows/Linuxとも復旧は
仮想マシン/ファイル単位

VM 上のアプリケーション(※)
もオンライン バックアップ

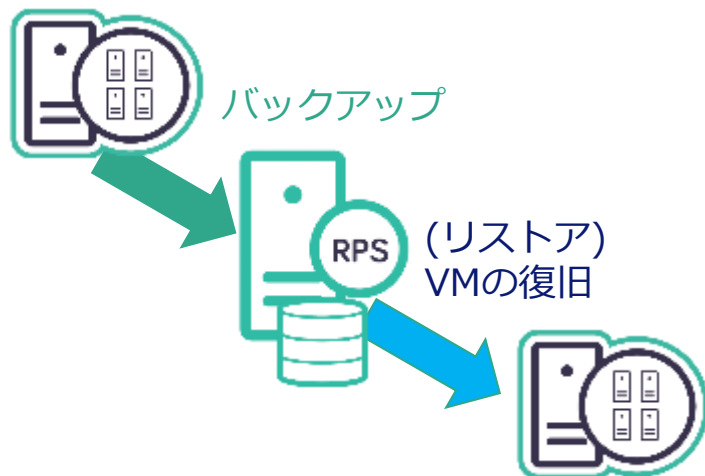
※ MS SQL Server、Oracle DB、Exchange Server、SharePoint Server をサポート
仮想環境に合わせ VMware Tools、Hyper-V 統合サービス、Nutanix Guest Tools を VM に導入

その他、仮想化統合基盤に関わる様々な要件にも対応

仮想環境のバックアップ運用で求められる多くの機能を盛り込みました

VMの簡単復旧

元の場所以外に、別の場所およびバージョンが異なる同一のハイパーバイザへリカバリが可能



簡単操作のファイルリストア

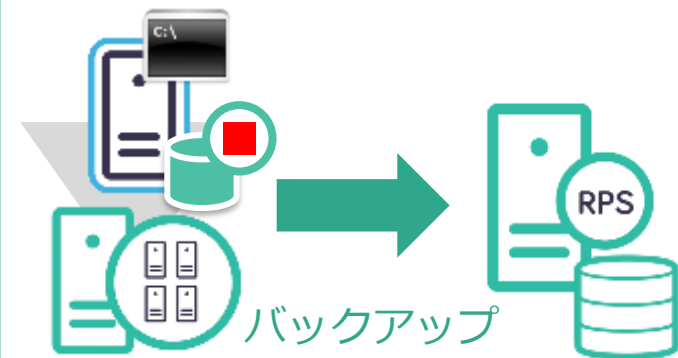
エージェントレス バックアップでもファイル単位でリストアが可能



※停止中の仮想マシンをバックアップしてもファイル単位リストアが可能

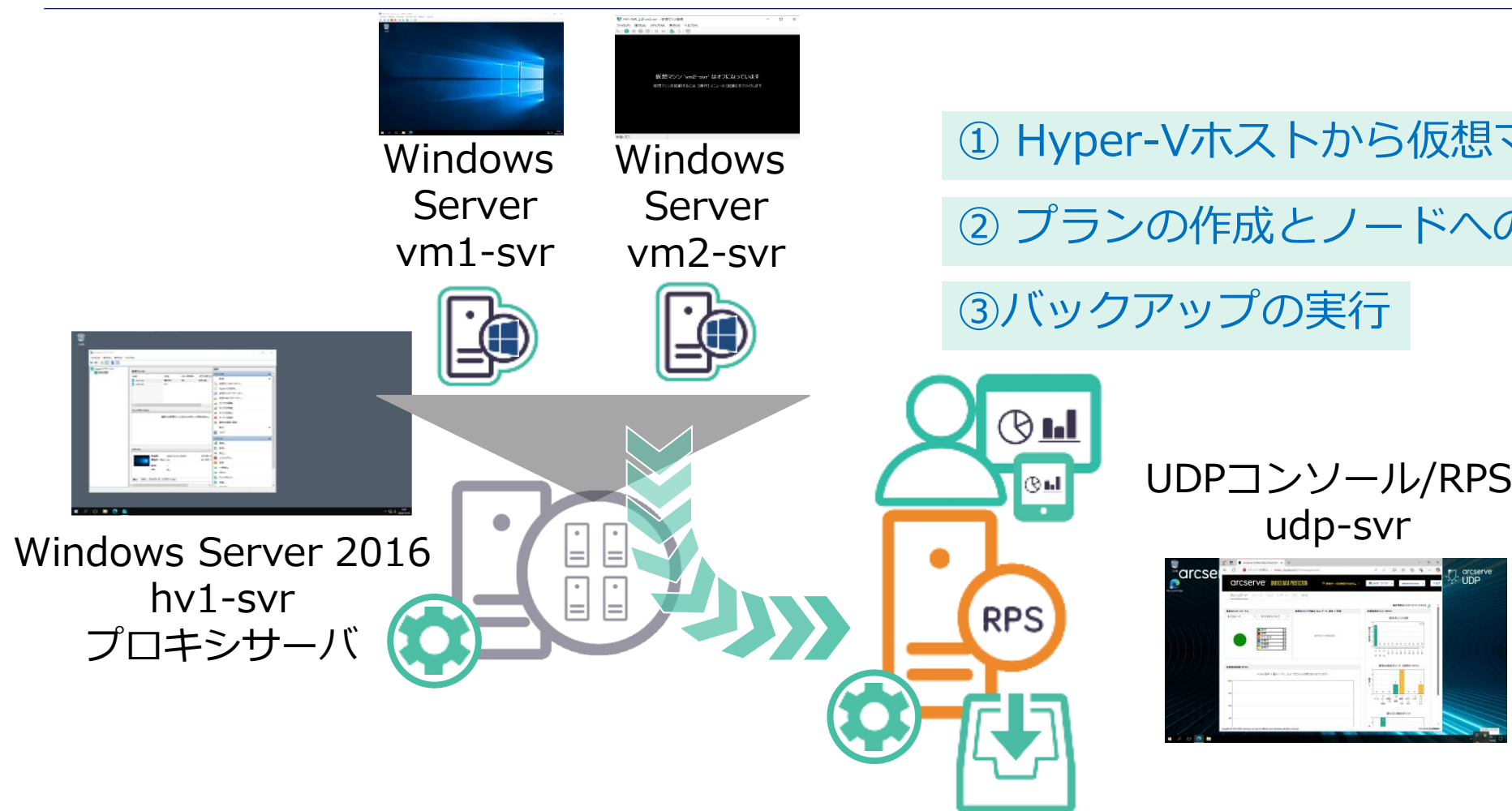
VM内のスクリプト連携

Windows ゲストOS内に配置したスクリプトをバックアップ前後、またはスナップショット取得後のタイミングで実行し、アプリケーションなどを停止した上でバックアップ



※ 各仮想マシンに VMware Tools か Hyper-V 統合サービス、または Nutanix Guest Tools の導入が必要

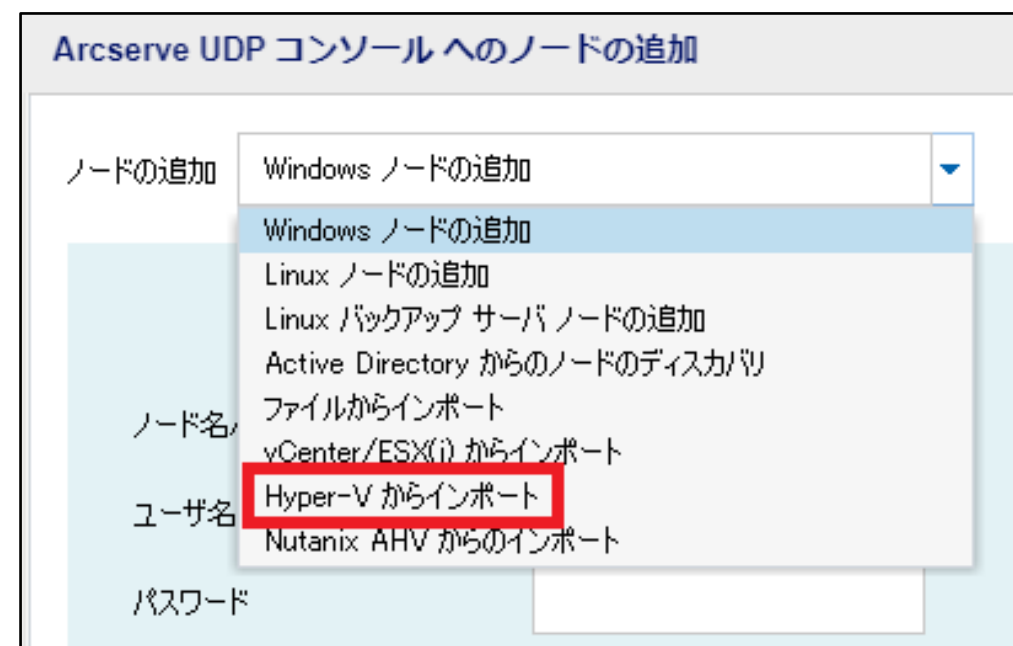
デモンストレーション1： エージェントレス バックアップの実行



※ このデモンストレーションでは、UDP コンソールおよび RPS が 1 台のサーバに共存し、Hyper-Vホストにインストールされた Arcserve UDP Windows Agentをプロキシサーバとして指定します。

① 仮想マシンノードの追加

バックアップ対象となる仮想マシンを追加するため、[ノードの追加] をクリックし、ノードの追加画面で [Hyper-V からインポート] を選択



② 仮想ホストへのアクセスと仮想マシンの選択

Hyper-V ホスト “**hv1-svr**” を指定し、認証情報を入力後、[接続] をクリック。
表示された仮想マシンのリストから対象のノードを指定し、「選択したノードの認証情報を指定します…」にチェックを入れて対象ノードの認証情報を入力後、[リストに追加] をクリック。

The image shows two screenshots of the Arcserve UDP interface, connected by a blue arrow indicating a sequence of steps.

Left Screenshot: The 'ノードの追加' (Add Node) window is set to 'Hyper-V からインポート' (Import from Hyper-V). A red box highlights the 'Hyper-V ホスト名/IP アドレス' (Hyper-V Host Name/IP Address) field with the value 'hv1-svr', the 'ユーザ名' (Username) field with 'administrator', and the 'パスワード' (Password) field. A red button labeled '接続' (Connect) is at the bottom right.

Right Screenshot: After clicking '接続', a list of virtual machines is displayed. A red box highlights the list, which includes 'hv1-svr', 'vm1-svr', and 'vm2-svr', all with checkboxes. Below the list, a red box highlights a checkbox labeled '選択したノードの認証情報を指定します。ノードの認証情報は、プレフライト チェック (PFC)、アプリケーション ログの切り捨て、および実行前/実行後/バックアップ コマンドなどの機能に必要です。' (Specify authentication information for the selected node. Node authentication information is required for pre-flight checks (PFC), application log truncation, and pre/post-execution/back-up commands, etc.). Below this, the 'ユーザ名' (Username) is 'administrator' and the 'パスワード' (Password) field is visible. A red button labeled 'リストに追加' (Add to List) is at the bottom right.

② 仮想ホストへのアクセスと仮想マシンの選択

チェックしたバックアップ対象ノードの左側にそれぞれ仮想マシンのステータス“緑”（起動）および“オレンジ”（停止）が表示され、ノードが追加されたことを確認し、[保存] をクリック

Arcserve UDP コンソール へのノードの追加

ノードの追加: Hyper-V からインポート

フィルタ テキストを入力します

- ☒ hv1-svr
 - ☒ vm1-svr 
 - ☒ vm2-svr 

☒ 選択したノードの認証情報を指定します。ノードの認証情報は、プレフライトチェック (PFC)、アプリケーション ログの切り捨て、および実行前/実行後/バックアップ コマンドなどの機能に必要です。

ユーザ名: administrator パスワード:

設定の参照 リストに追加 削除

ノード名	VM 名	ハイパーバイザ
VM(vm2-svr)	vm2-svr	hv1-svr
vm1-svr	vm1-svr	hv1-svr

ヘルプ 保存 キャンセル

③ ノードが追加されたことを確認

登録した仮想マシンがノードとして追加されていることを確認

arcserve® **UNIFIED DATA PROTECTION**

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: すべてのノード

ノード	アクション	ノードの追加	フィルタ
すべてのノード			
プランのないノード			
Hyper-V グループ			
プラン			
すべてのプラン			
デスティネーション			
復旧ポイント サーバ			

ステータス	ノード名	VM 名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果
!	VM(vm2-svr)	vm2-svr		hv1-svr	
!	udp-svr				
!	vm1-svr	vm1-svr		hv1-svr	

④ プランの追加

[プランの追加] をクリック、プラン作成画面から、プラン名 [仮想マシンのバックアップ] を入力。
[タスクの種類] から [バックアップ: ホストベース エージェントレス] を選択

The screenshot displays the Arcserve UDP web interface. On the left, the 'Plans' section is expanded, and 'Add Plan' is highlighted. The main area shows the 'Add Plan' form. The plan name is '仮想マシンのバックアップ'. The task type is 'Backup: Host-based Agentless'. The task name is 'タスク1'. The task type dropdown menu is open, showing the following options: 'Backup: Oracle データベース', 'Backup: UNC または NFS パス上のファイル', 'Backup: エージェントベース Linux', 'Backup: エージェントベース Windows', 'Backup: ホストベース エージェントレス', and 'リモートで管理されている RPS からレプリケート'. The 'Backup: ホストベース エージェントレス' option is highlighted.

⑤ バックアップ プロキシの設定

[ソース] タブの [バックアップ プロキシ] にて [追加] をクリックし、プロキシ サーバとして hv1-svrを指定し、認証情報を入力後 [OK] をクリック

プランの追加

仮想マシンのバックアップ ☐ このプランを一時停止

タスク1: バックアップ: ホストベース エージェントレス

タスクの種類 バックアップ: ホストベース エージェントレス

ソース デスティネーション スケジュール 拡張

バックアップ プロキシ **追加**

ホストベースエージェントレス バックアップ プロキシ サーバの追加

ホスト名/IP アドレス hv1-svr

ユーザ名 administrator

パスワード

ヘルプ **OK** キャンセル

ソース デスティネーション スケジュール 拡張

バックアップ プロキシ hv1-svr **追加**

※ プロキシ サーバがノード登録済みの場合、ドロップダウンリストから選択可能

⑥ ソースの選択

[⊕追加] のドロップダウン リストから [Arcserve UDP で保護するノードの選択] を選択後、バックアップ対象の仮想マシンを選択し、[OK] をクリック

仮想マシンのバックアップ

タスクの種類 バックアップ: ホストベース エージェントレス

ソース デスティネーション スケジュール

バックアップ プロキシ hv1-svr

⊕ 追加 削除

Arcserve UDP で保護するノードの選択

Hyper-V からのノードの追加

vCenter/ESX(i) からのノードの追加

Nutanix AHV からのノードの追加

保護するノードの選択

利用可能なノード

グループ すべてのノード (デフォルト グループ)

ノード名	VM 名	プラン	サイト
☒	VM(vm2-svr)	仮想マシンのバックアップ	ローカル サイト
☒	vm1-svr	仮想マシンのバックアップ	ローカル サイト

選択されたノード

ノード名	VM 名	プラン	サイト
☒	VM(vm2-svr)	仮想マシンのバックアップ	ローカル サイト
☒	vm1-svr	仮想マシンのバックアップ	ローカル サイト

ヘルプ OK キャンセル

⑦ デスティネーション/スケジュールの設定、プランの保存

[デスティネーション] タブで [復旧ポイントサーバ] および [データストア] を確認。
[スケジュール] タブでバックアップ曜日や時刻を確認した後、[保存] をクリック

仮想マシンのバックアップ ☐ このプランを一時停止

タスクの種類 バックアップ: ホストベース エージェントレス

ソース **デスティネーション** スケジュール 拡張

デスティネーションの種類 ☐ ローカル ディスクまたは共有フォルダ ☒ Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ

復旧ポイント サーバ udp-svr

データ ストア M-DS

パスワードによる保護 ☐

セッション パスワード

セッション パスワードの確認



仮想マシンのバックアップ ☐ このプランを一時停止 **保存** キャンセル ヘルプ

タスクの種類 バックアップ: ホストベース エージェントレス タスクの削除

ソース デスティネーション **スケジュール** 拡張

追加 削除

タイプ	説明	日	月	火	水	木	金	土	時刻
☒	日次増分バックアップ	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	22:00

最初のバックアップが次より前でない 2024/12/13 10 : 28

復旧ポイントの保存

日次バックアップ	7
週次バックアップ	
月次バックアップ	
カスタム/手動バックアップ	31

⑧ プランができたことを確認

作成したプランが展開されたことを確認



The screenshot displays the Arcserve Unified Data Protection web interface. The top navigation bar includes links for Dashboard, Resources, Jobs, Reports, Logs, and Settings. The main content area is titled 'プラン: すべてのプラン' (Plans: All Plans). On the left, a sidebar menu shows 'ノード' (Nodes) and 'プラン' (Plans) sections. The 'プラン' section is expanded, showing a list of plans. The plan '仮想マシンのバックアップ' (Virtual Machine Backup) is highlighted with a yellow box. The table below shows the status of this plan.

プラン名	合計	保護ノード	ステータス
仮想マシンのバックアップ	2	0	展開: 成功 (2)

⑨ バックアップの実行

[すべてのプラン] から「仮想マシンのバックアップ」プランを右クリック
[今すぐバックアップ] をクリック。増分バックアップを選択し、[OK] をクリック

The screenshot displays the Arcserve Unified Data Protection web interface. On the left, the 'プラン' (Plans) section is expanded, and 'すべてのプラン' (All Plans) is highlighted. In the center, a table lists available plans. The plan '仮想マシンのバックアップ' (Virtual Machine Backup) is selected, and a context menu is open with the option '今すぐバックアップ' (Run Backup Now) highlighted. A blue arrow points from this menu option to the '今すぐバックアップを実行' (Run Backup Now) dialog box on the right.

プラン: すべてのプラン

プラン名	合計	保護ノード
仮想マシンのバックアップ	2	0 2

今すぐバックアップを実行

☒ 増分バックアップ
☐ 検証バックアップ
☐ フル バックアップ

バックアップ名: カスタマイズされた増分バックアップ

スケジュール タイプ: カスタム

ヘルプ OK キャンセル

⑩ バックアップ結果の確認

[すべてのノード] をクリックし、バックアップ対象ノードを選択して [ステータス] 欄内の [最新のジョブ (タスク別)] に表示された処理が正常終了したことを確認

アクション		ノードの追加		フィルタ		環境設定ウィザード	
ステータス	ノード名	VM 名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果	前回のバックアップ時刻	アプリケーション
☐	VM(vm2-svr)	vm2-svr	仮想マシンのバックアップ	hv1-svr	完了	2024/12/13 10:44:01	
☐	hv1-svr						
☐	udp-svr						SQL
☒	vm1-svr	vm1-svr	仮想マシンのバックアップ	hv1-svr	完了	2024/12/13 10:44:01	

ステータス

最新のジョブ (タスク別)

バックアップ (増分)
2024/12/13 10:44:01 期間: 00:01:44

最近のイベント

エージェントレスバックアップであれば、シャットダウン状態の仮想マシンもバックアップ

アクション		ノードの追加		フィルタ		環境設定ウィザード	
ステータス	ノード名	VM 名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果	前回のバックアップ時刻	アプリケーション
☒	VM(vm2-svr)	vm2-svr	仮想マシンのバックアップ	hv1-svr	完了	2024/12/13 10:44:01	
☐	hv1-svr						
☐	udp-svr						SQL
☐	vm1-svr	vm1-svr	仮想マシンのバックアップ	hv1-svr	完了	2024/12/13 10:44:01	

ステータス

最新のジョブ (タスク別)

バックアップ (増分)
2024/12/13 10:44:01 期間: 00:01:30

最近のイベント

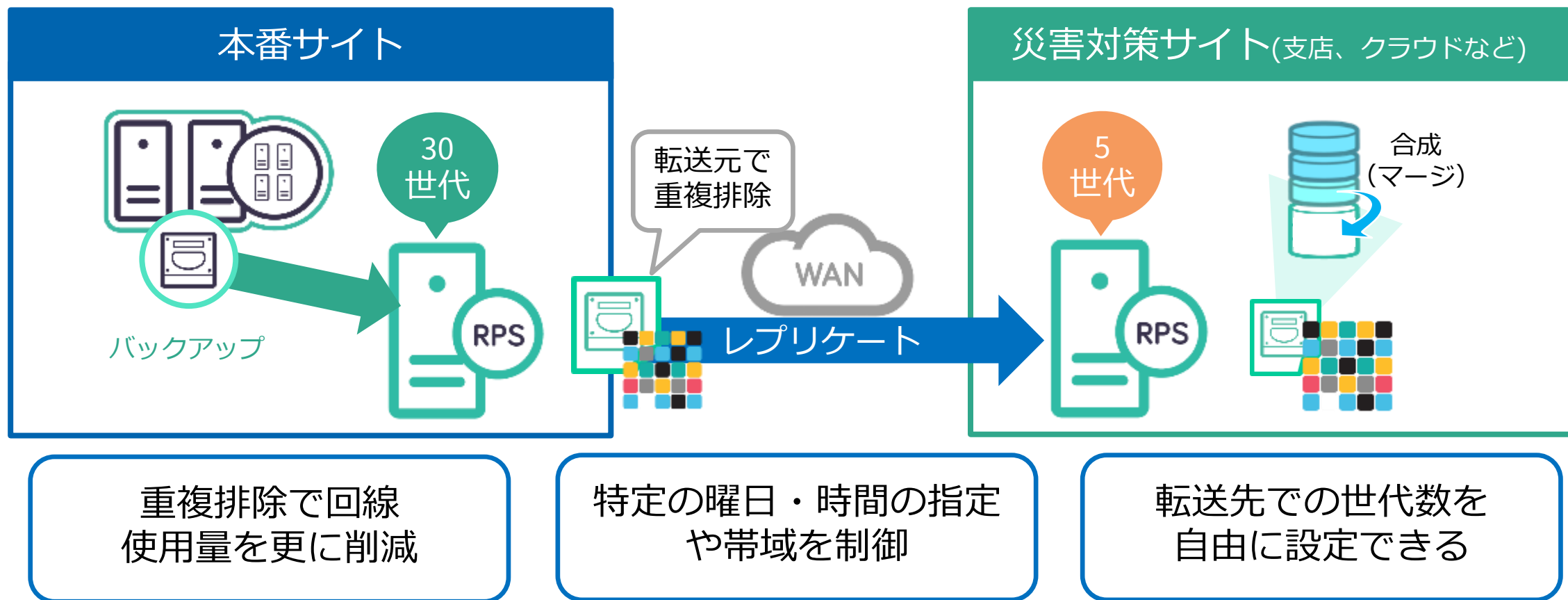
バックアップ - 増分 2024/12/13 10:44:01

デモンストレーション 1 は以上で終了です

3. Arcserve UDP だから実現できる 低コストな災害対策と業務継続

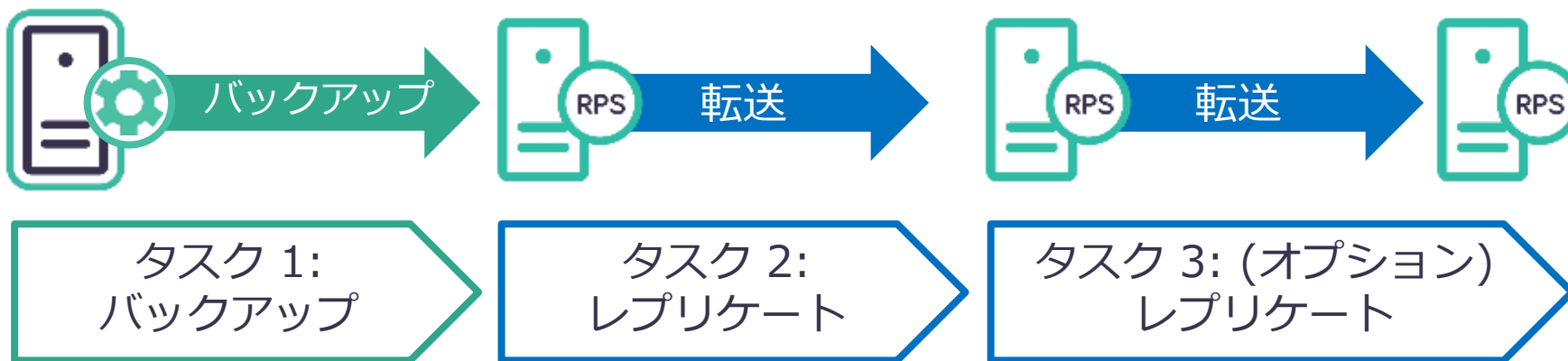
バックアップデータの遠隔地への転送

最小サイズで災害対策サイトに**レプリケート**
ネットワークの寸断/断線も考慮した安心の**リトライ機能付き**



バックアップデータの遠隔転送

タスク名 レプリケート



※転送されたデータを更に別のRPSに転送する場合

POINT

タスク 1 で設定したバックアップ タスクが完了してからレプリケート
タスクが実行される

バックアップ処理と並行して転送してしまうと、バックアップが失敗した場合に不完全な
データが転送されてしまうため

レプリケート タスクのよくある質問

質問①

帯域制御の設定はできるの？

スケジュール タブの「レプリケーション スロットル スケジュール」で曜日や時間帯で使用する帯域を指定できます

質問②

回線障害の際に復旧後に再送はされるの？

回線が不通になった際、10分後（最大60分）に再送を試行します。デフォルトでは再試行回数は 3回 ですが、最大99回 まで設定できます

質問③

転送が失敗するとどうなるの？

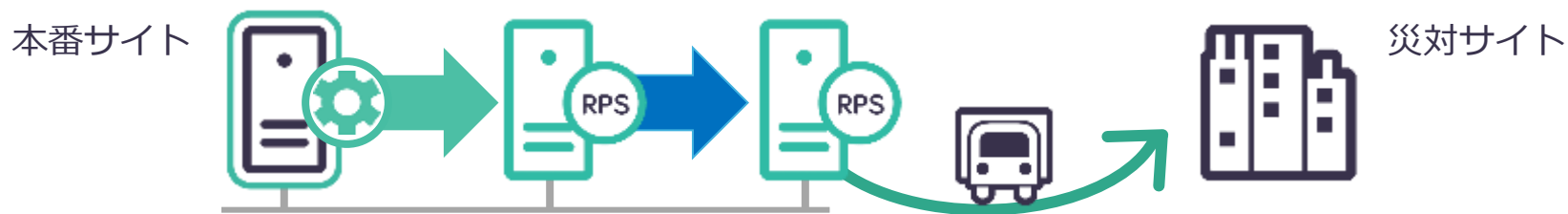
転送が中断したデータを把握しているので、次回レプリケーション ジョブの実行時に中断したデータから転送が再開され、全データの送り直しにはなりません

遠隔地へのバックアップデータ転送を開始する前のポイント

1

ローカル環境でバックアップ データを転送しておく

予めLANなど回線速度が速い環境でバックアップデータをサーバに転送し、そのサーバを遠隔地に搬送する



2

RPS ジャンプ スタート機能を利用する

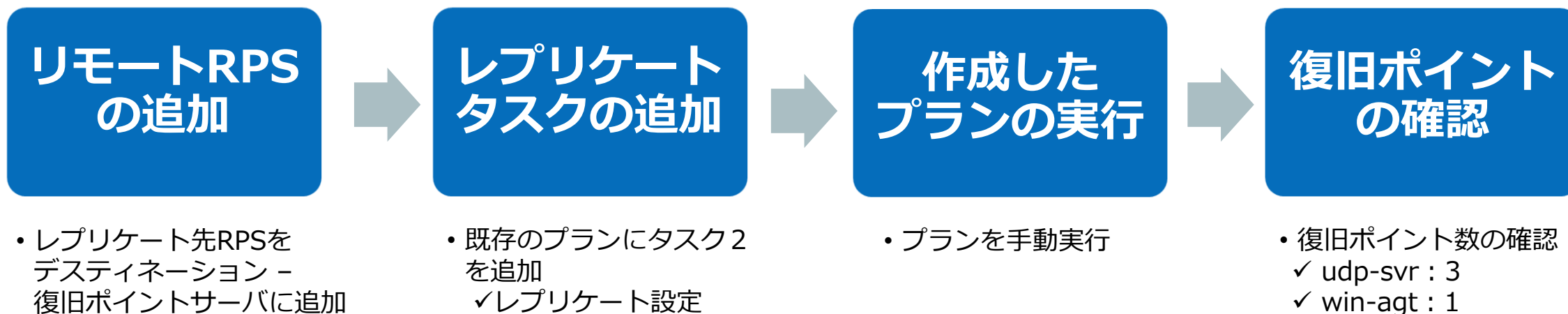
バックアップデータを外付けハードディスクやNASなど運びやすいディスク媒体にコピーし、媒体を遠隔地に搬送する



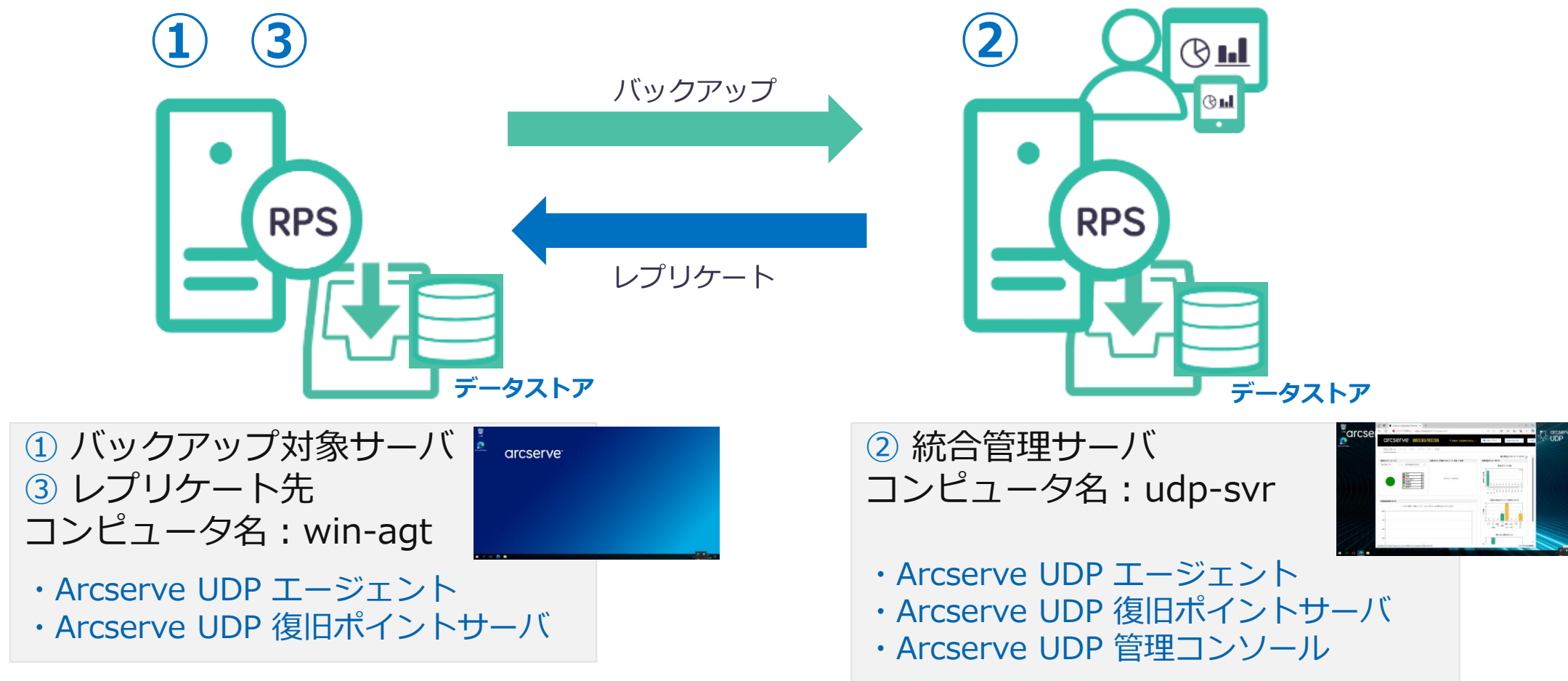
※ 参考ブログ：
『[Arcserve UDP のジャンプスタートを試してみる](#)』

演習内容：レプリケート

既存プランにレプリケート タスクを追加します



演習環境



※ 演習環境では、バックアップ対象とバックアップ データ転送先の RPS は同じサーバです。

① 転送先RPS の追加

[リソース] タブから [復旧ポイントサーバ] を選択し [復旧ポイントサーバの追加] をクリック。
転送先の [win-agt] を追加、ノード名/IPアドレス、ユーザ名、パスワードを入力後、[保存] をクリック

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

デスティネーション: 復旧ポイントサーバ

アクション: 復旧ポイントサーバの追加

名前	ステータス	プラン数
udp-svr		
M-DS	✓	1
T-DS	✓	0

ノード名/IP アドレス: win-agt
ユーザ名: administrator
パスワード: arcserve

保存 キャンセル ヘルプ

② 作成完了を確認

復旧ポイントサーバが追加され、データストアが実行中（緑色のチェック）であることを確認

ダッシュボード

リソース

ジョブ

レポート

ログ

設定

≪ デスティネーション: 復旧ポイントサーバ

▲ ノード

すべてのノード

プランのないノード

▶ プラン グループ

▲ プラン

すべてのプラン

▲ デスティネーション

復旧ポイントサーバ

Arcserve Backup サーバ

共有フォルダ

クラウド アカウント

リモート コンソール

▲ インフラストラクチャ

ストレージ アレイ

アクション ▼ | 復旧ポイントサーバ の追加

	名前	ステータス	プラン数	保存されたデータ	デデュPLICATION	圧縮	全体でのデータ縮小
▲	udp-svr						
	📁 M-DS	✓	1	24.77 GB	10%	30%	37%
	📁 T-DS	✓	0	0 バイト	0%	0%	0%
▲	win-agt						
	📁 R-DS	✓	0	22.43 GB	2%	30%	31%

※ 演習で使用するデータストア「R-DS」は予め作成済みです

③ 既存プランの変更

[リソース] タブから [すべてのプラン] を選択し、シナリオ2で作成したプランをクリック
プラン名を [物理サーバのバックアップ - レプリケート] に変更

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

プラン: すべてのプラン

アクション | プランの追加

プラン名	保護ノード	ステータス
物理サーバのバックアップ		

プランの変更

物理サーバのバックアップ - レプリケート ☐ このプランを一時停止

タスク1: バックアップ: エージェントベース Windows

タスクの種類 バックアップ: エージェントベース Windows

ソース	デスティネーション	スケジュール	拡張
-----	-----------	--------	----

タスクの追加

製品のインストール

追加 削除

④ レプリケート タスクの追加

[**タスクの追加**] をクリック、[タスクの種類] ドロップダウンリストから[**レプリケート**] を選択し、[デスティネーション] をクリック

The diagram illustrates the steps to add a replication task in Arcserve UDP:

- Step 1:** In the **プランの変更** (Plan Change) screen, click **タスクの追加** (Add Task).
- Step 2:** A new task, **タスク2**, is added. In the **タスクの種類** (Task Type) dropdown menu, select **レプリケート** (Replicate).
- Step 3:** The task is configured. Under **タスク2: レプリケート**, select **デスティネーション** (Destination) in the **ソース** (Source) section.

⑤ レプリケート先の指定

[復旧ポイントサーバ] のドロップダウンリストからレプリケート先となる **win-agt** を選択し、データストアの **R-DS** が自動で選択されていることを確認

プランの変更

物理サーバのバックアップ - レプリケート ☐ このプランを一時停止

タスク1: バックアップ: エージェントベース Windows ☒

タスク2: レプリケート

タスクの追加

製品のインストール

タスクの種類: レプリケート

ソース	デスティネーション	スケジュール	拡張
復旧ポイント サーバ	udp-svr		
データストア	win-agt		
レプリケーション ジョブ失敗時:			
再試行開始	10	分後 (1 ~ 60)	
再試行開始	3	回 (1~99)	

☐ レプリケート トラフィックに選択したネットワークを使用



ソース デスティネーション スケジュール 拡張

復旧ポイント サーバ

データストア

レプリケーション ジョブ失敗時:

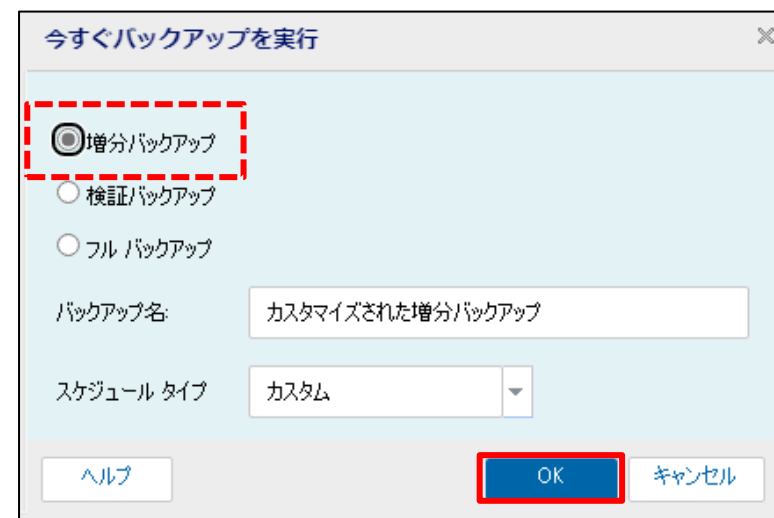
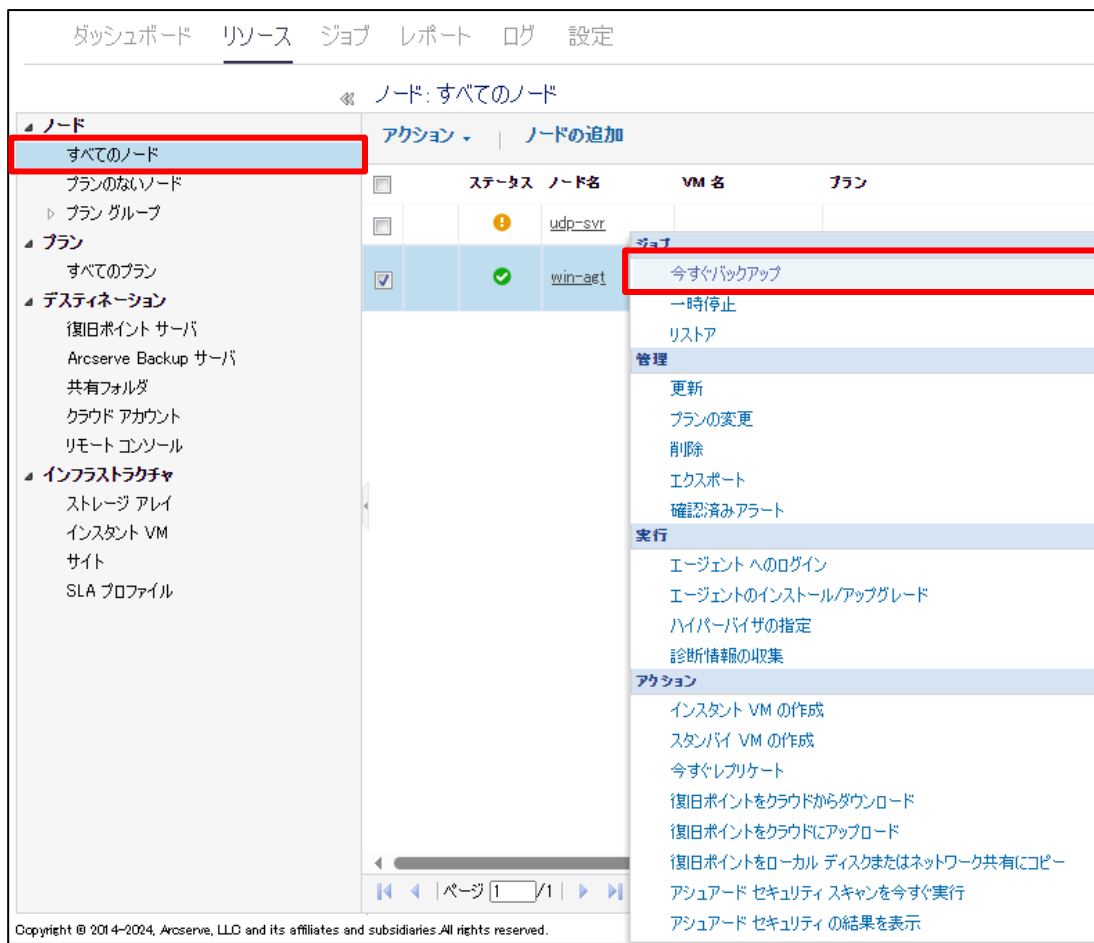
再試行開始

再試行開始

再試行開始

⑦ バックアップ+レプリケートの実行

[すべてのノード] から **win-agt** を右クリックし、[今すぐバックアップ] を選択。
[増分バックアップ] が選択されていることを確認し、[OK] をクリック



⑧ 進捗状況の確認

増分バックアップ終了後、レプリケートが実行されることを確認

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: すべてのノード

アクション | ノードの追加

フィルタ (フィルタ適用なし)

ステータス	ノード名	VM 名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果
🟡	udp-svr				
🟢	win-agt		物理サーバのバックアップ - レプリケート		ノード 'win-agt' で警告が発生しました

win-agt

環境設定ウィザード

ステータス

最新のジョブ (タスク別)

バックアップ (増分)
2024/12/13 15:51:00 未完了

最近のイベント ログの表示

ノード名: win-agt
レプリケーション (アウト): 2024/12/13 15:51:43
98% (21.80 GB/22.07 GB) 詳細

経過時間: 00:00:59

ノード名: win-agt
レプリケーション (イン): 2024/12/13 15:51:45
98% (21.81 GB/22.07 GB) 詳細

経過時間: 00:00:59

バックアップ - 増分 2024/12/13 15:51:00
バックアップ - 増分 2024/12/13 14:28:11

レプリケーション ステータス モニタ - win-agt

レプリケーション (アウト)

進捗状況

フェーズ データの転送中

98% (21.80 GB/22.07 GB)

開始時刻 2024/12/13 15:51:43
経過時間 00:01:17
推定残り時間 00:00:01
現在のセッション 3
セッションの開始 1
セッションの終了 8

圧縮レベル 標準
保護 暗号化なし
確保された帯域幅の割合 (%) 98%
ソース復旧ポイント サーバ udp-svr
ソース データ ストア名 M-DS
ターゲット復旧ポイント サーバ win-agt
ターゲット データ ストア名 R-DS

ネットワーク転送スループット

ネットワーク スロットル 制限なし
物理スループット 10.1 Mbps
論理スループット 3449.1 Mbps

閉じる ヘルプ

レプリケーション ステータス モニタ - win-agt

レプリケーション (イン)

進捗状況

フェーズ データの受信

98% (257.01 MB/259.22 MB)

開始時刻 2024/12/13 16:17:11
経過時間 00:00:14
推定残り時間 00:00:00
現在のセッション 8
セッションの開始 8
セッションの終了 8
圧縮レベル 標準
保護 暗号化なし
確保された帯域幅の割合 (%) 87%
ソース復旧ポイント サーバ udp-svr
ソース データ ストア名 M-DS
ターゲット復旧ポイント サーバ win-agt
ターゲット データ ストア名 R-DS

ネットワーク転送スループット

ネットワーク スロットル 制限なし
物理スループット 137.6 Mbps
論理スループット 1069.1 Mbps

閉じる ヘルプ

⑨ 実行結果の確認

[レプリケート] タスク終了後、右側ペインの [ステータス] 欄で正常終了（緑のステータス）を確認

The screenshot displays the Arcserve Unified Data Protection web interface. The top navigation bar includes the Arcserve logo, a notification for an update server, a message count, the user role 'administrator', and a help link. Below the navigation bar, the 'ダッシュボード' (Dashboard) tab is selected, showing a list of nodes. The 'win-agt' node is highlighted, and its details are shown on the right. The 'win-agt' node is in a 'ステータス' (Status) section, indicating a successful replication task. The '最新のジョブ (タスク別)' (Latest Jobs (Task Type)) section shows three tasks: 'バックアップ (増分)' (Backup (Incremental)), 'レプリケーション (イン)' (Replication (In)), and 'レプリケーション (アウト)' (Replication (Out)), all with green status icons and completion times. The '最近のイベント' (Recent Events) section shows four events, including 'レプリケーション (イン)' and 'レプリケーション (アウト)', all with green status icons and completion times.

アクション	ノードの追加	フィルタ	(フィルタ適用なし)
すべてのノード	ノード名	VM 名	プラン
プランのないノード	win-agt		物理サーバのバックアップ - レプリケート
プラン グループ	win-agt		ノード 'win-agt' で警告が発生しました

最新のジョブ (タスク別)	ステータス
バックアップ (増分) 2024/12/13 14:49:26 期間: 00:00:35	成功
レプリケーション (イン) 2024/12/13 14:50:17 期間: 00:00:55	成功
レプリケーション (アウト) 2024/12/13 14:50:13 期間: 00:01:00	成功

最近のイベント	ログの表示
レプリケーション (イン) 2024/12/13 14:50:17	成功
レプリケーション (アウト) 2024/12/13 14:50:13	成功
バックアップ - 増分 2024/12/13 14:49:26	成功
バックアップ - 増分 2024/12/13 14:41:44	成功

【チェックポイント】 復旧ポイント数の確認

[復旧ポイント サーバ] から[M-DS]をクリックし、**win-agt** の「復旧ポイントの数」を確認
右上の[終了]ボタンをクリックし、[R-DS]をクリックして **win-agt** の「復旧ポイントの数」を確認

The screenshot shows the Arcserve UDP interface. On the left, the 'ノード' (Node) tree is expanded to 'デスティネーション' (Destination), where '復旧ポイント サーバ' (Recovery Point Server) is selected. In the center, a list of destinations is shown: 'udp-svr', 'M-DS', 'I-DS', 'win-agt', and 'R-DS'. Red boxes highlight 'M-DS' and 'R-DS'. Blue arrows indicate the flow from 'M-DS' to the first summary screen and from 'R-DS' to the second summary screen.

<ローカル サイト> デスティネーション: udp-svr > M-DS

復旧ポイント

サマリ

ノード名	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
プラン:物理サーバのバックアップ - レプリケート		3
win-agt	2025/03/27 10:07:10	3

設定

- 圧縮タイプ: 標準
- バックアップ先: D:\M-DS\Data
- デデューPLICATION ブロック サイズ: 64 KB
- 同時アクティブ ジョブ: 4

<ローカル サイト> デスティネーション: win-agt > R-DS

復旧ポイント

サマリ

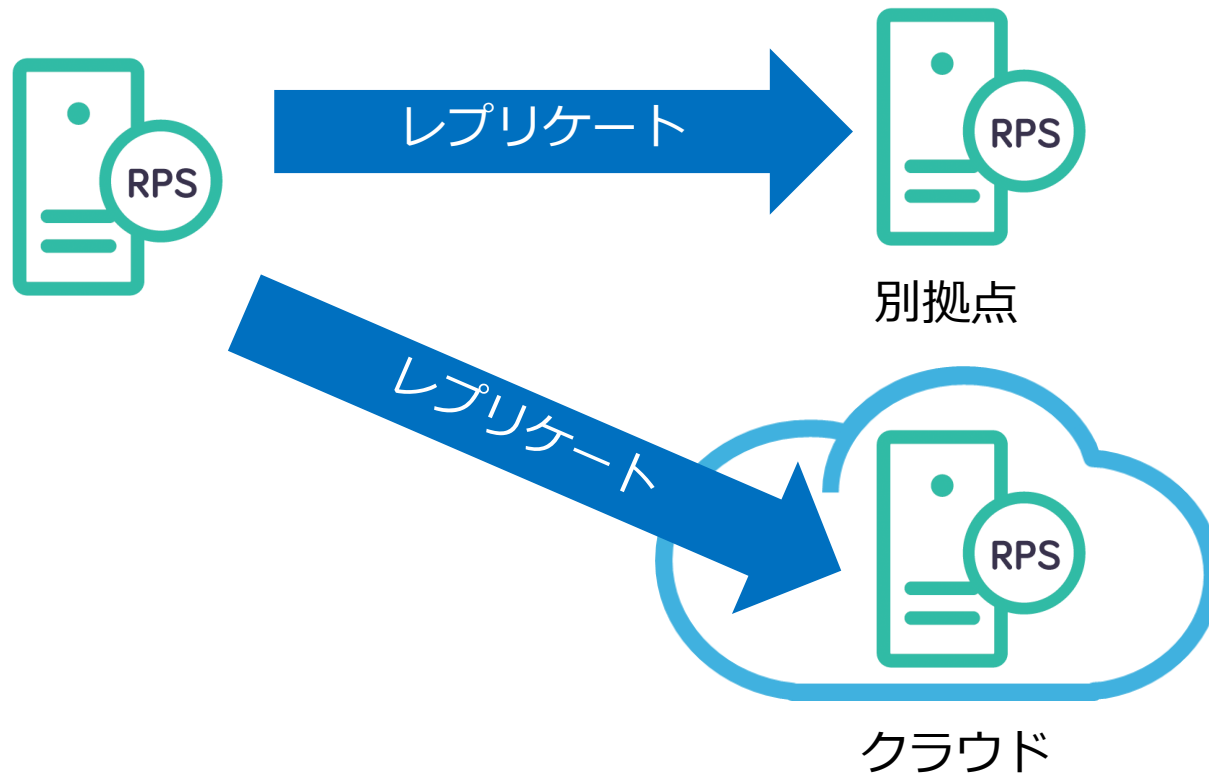
ノード名	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
プラン:物理サーバのバックアップ - レプリケート		1
win-agt	2025/03/27 10:07:10	1

シナリオ3のレプリケート先のwin-agtは最新の復旧ポイント1世代のみ保管

シナリオ3のハンズオンは以上で終了です

1 対多の RPS レプリケート

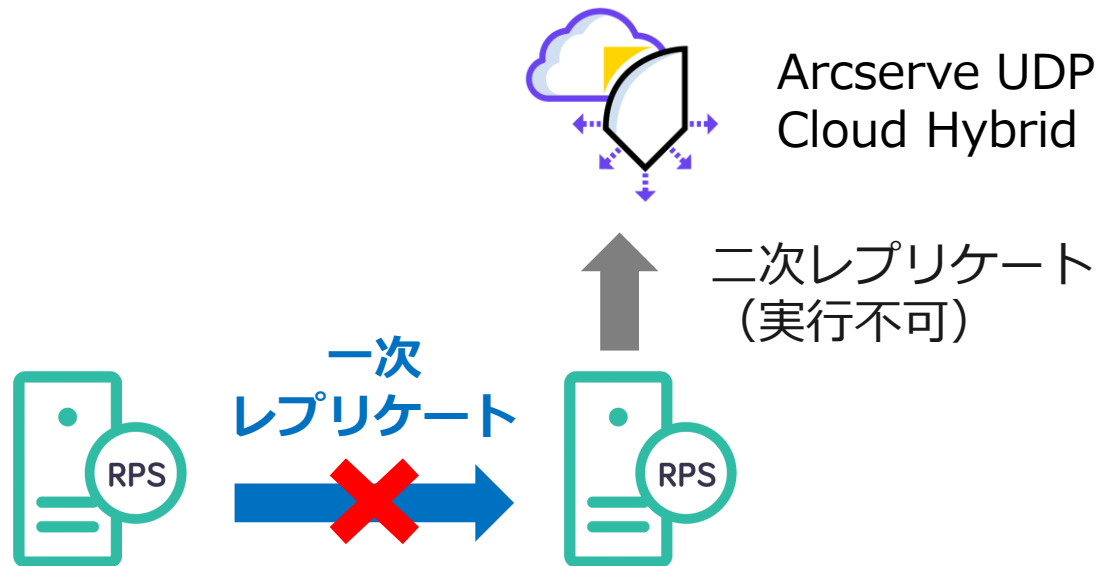
バックアップデータの複製先を柔軟に冗長化し、災害時の業務継続性の強化が可能



- ✓ 1台の復旧ポイントサーバ (RPS) から複数の RPS へレプリケートできる
- ✓ Arcserve UDP Cloud Hybrid など、異なるコンソールで管理される RPS へのレプリケートとも組み合わせられる
- ✓ 複数のレプリケート ジョブを順列で行うか、並列で行うかを設定可能

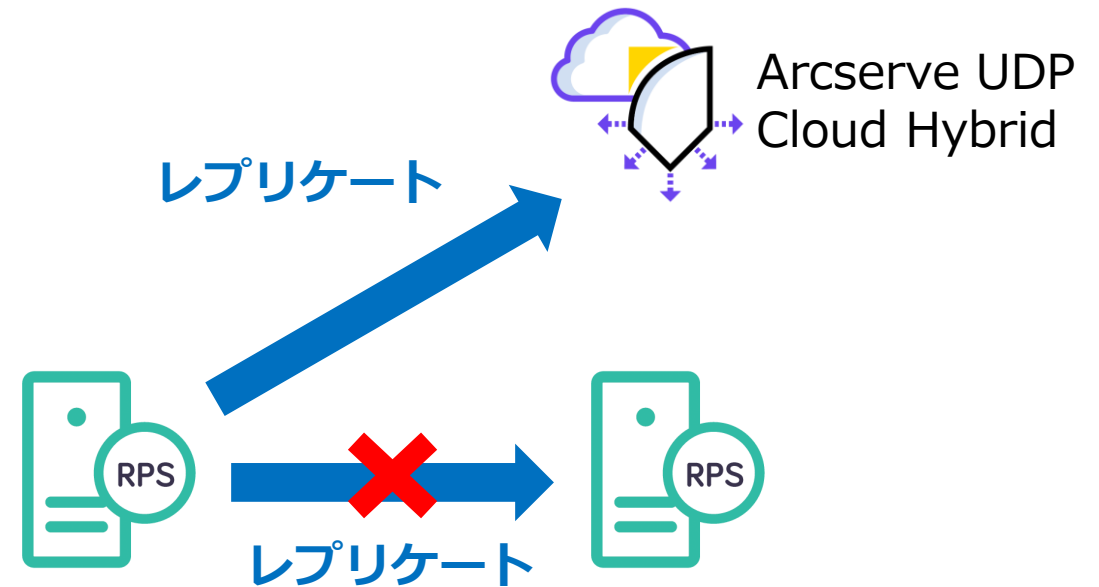
<参考> 1対多レプリケートの活用例 ～ ジョブ失敗時の挙動

1対1対1のレプリケート



一次レプリケート ジョブが失敗した場合、
二次レプリケート ジョブは**実行不可**

1 対多のレプリケート (Arcserve UDP 10.0 以降)



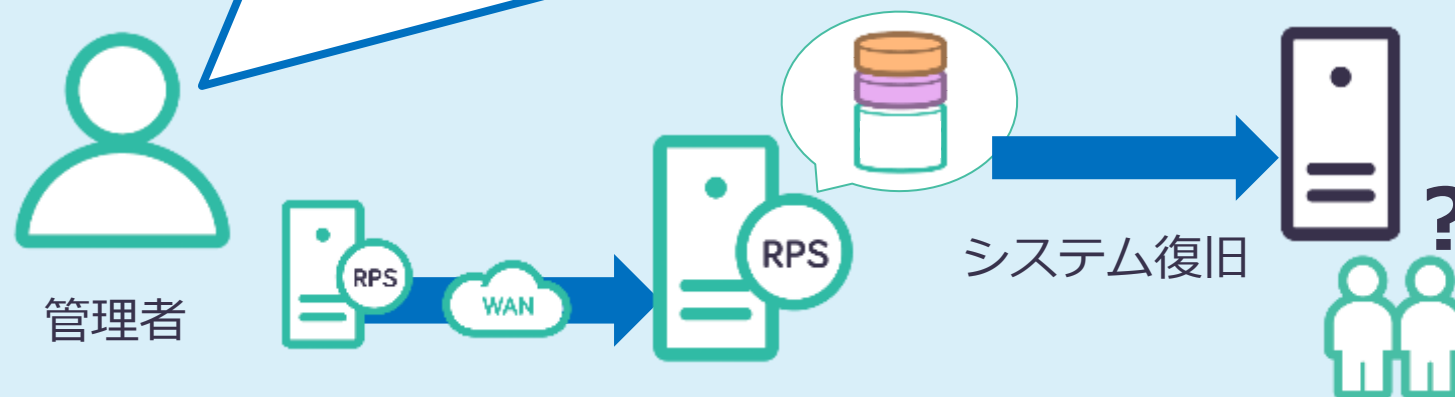
1か所レプリケートジョブが失敗しても
他のレプリケート ジョブは**継続実行**

災害時の業務継続に対する懸念

懸念. 災害時の遠隔地での復旧

バックアップデータを転送しておいても、復旧作業ができないと、結局業務の復旧までに時間がかかる。

誰でも簡単にシステムを復旧して業務継続ができないか？



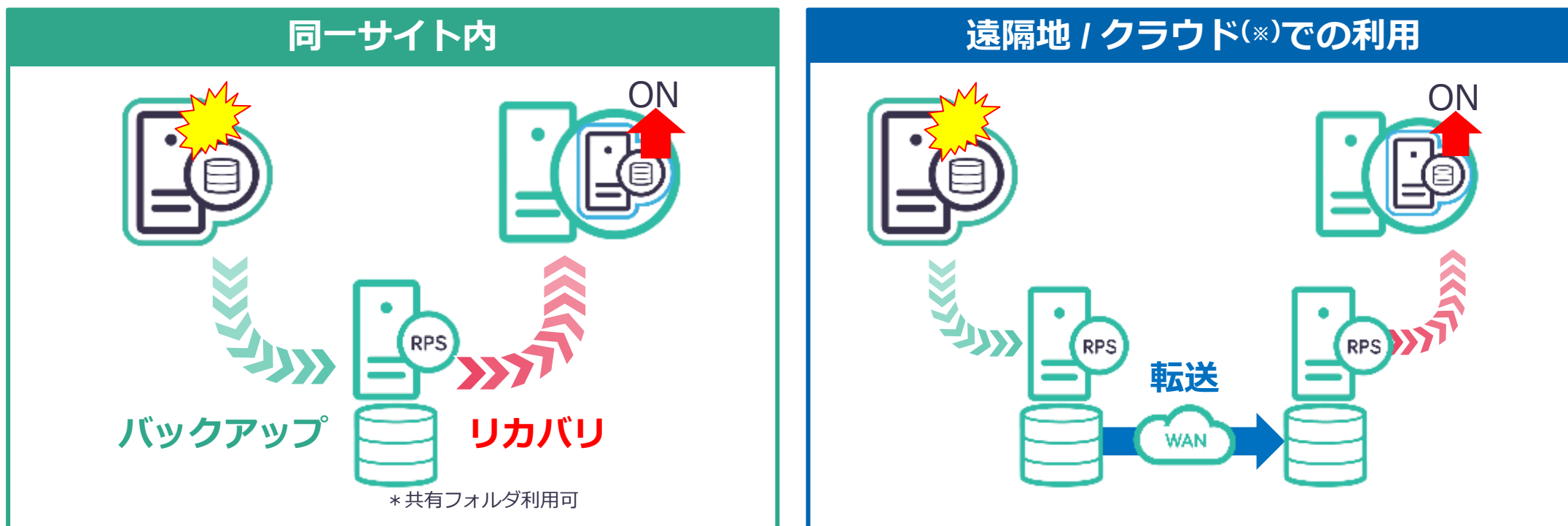
業務継続まで見据えた災害対策が必要

<解決策>

1. 仮想スタンバイ
2. インスタントVM

復旧済み仮想マシンによる業務継続（仮想スタンバイ）

本番サーバ障害後、予め復旧済みの Windows 仮想マシンを**即起動して業務再開**



復旧済みの仮想マシンで
素早く業務を再開

ローカル / 遠隔地でも構成
できる

複数のスナップショット
から適切な時点に戻せる

※ Microsoft Hyper-V、VMware vSphere、Nutanix AHV、Amazon EC2、Microsoft Azure、Google Cloud、Arcserve UDP Cloud Hybrid をサポート

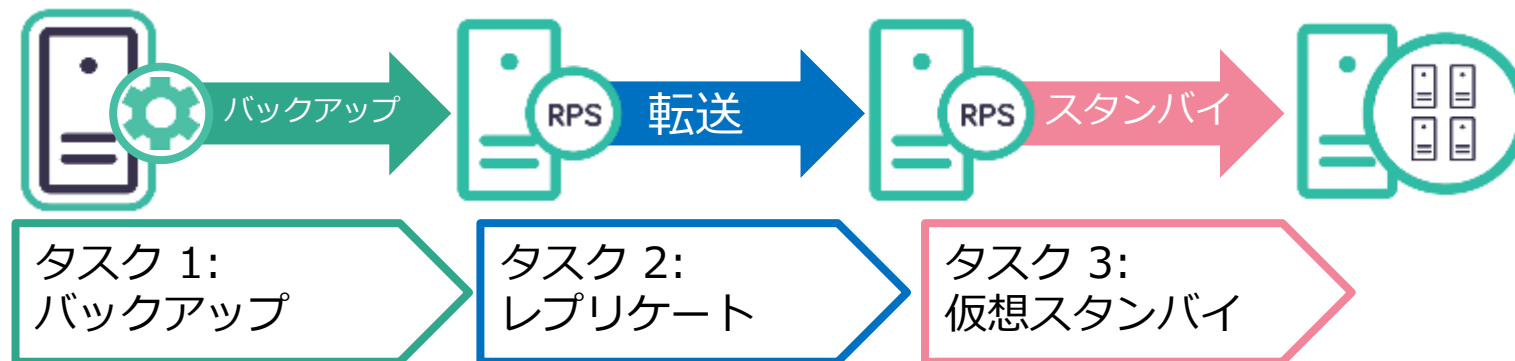
仮想スタンバイ サーバの自動作成

タスク名 仮想スタンバイ

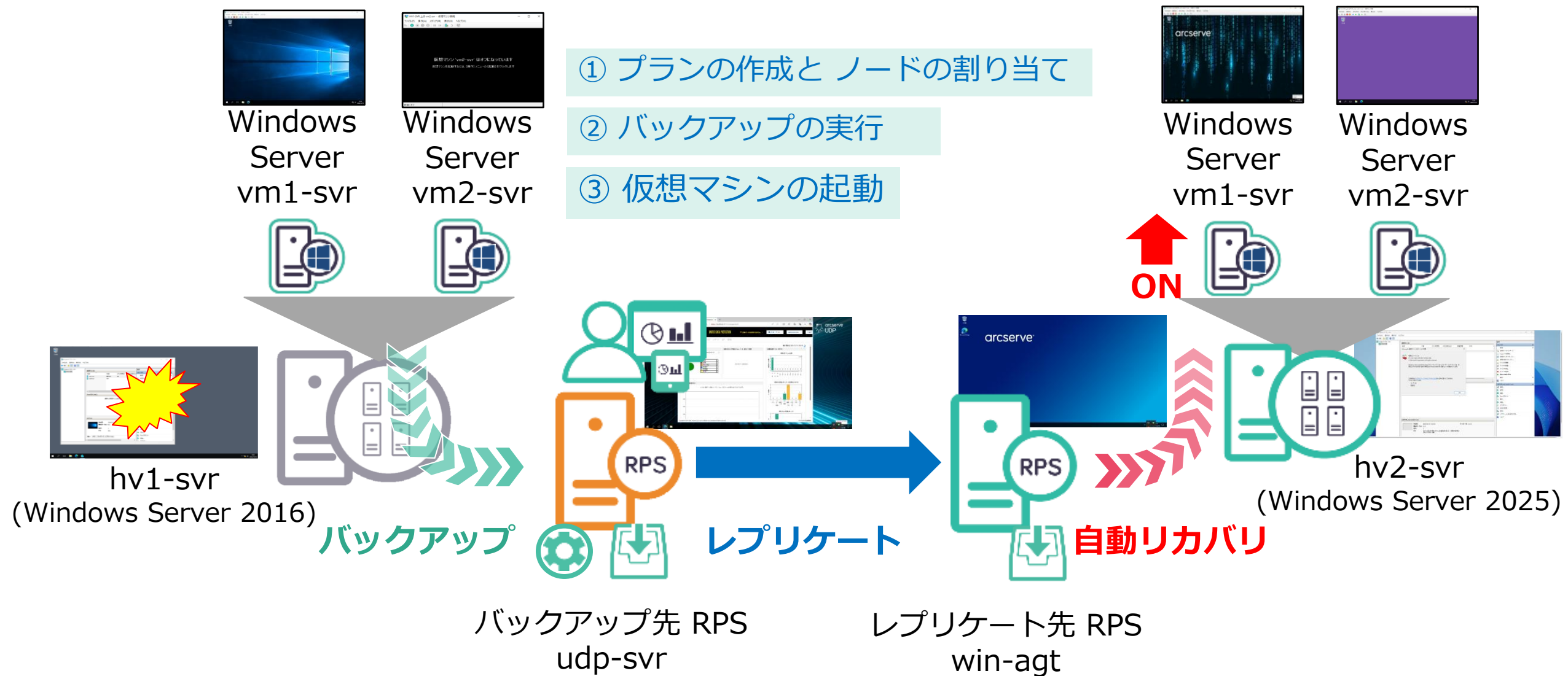
■ ローカル仮想スタンバイ プラン



■ リモート仮想スタンバイ プラン

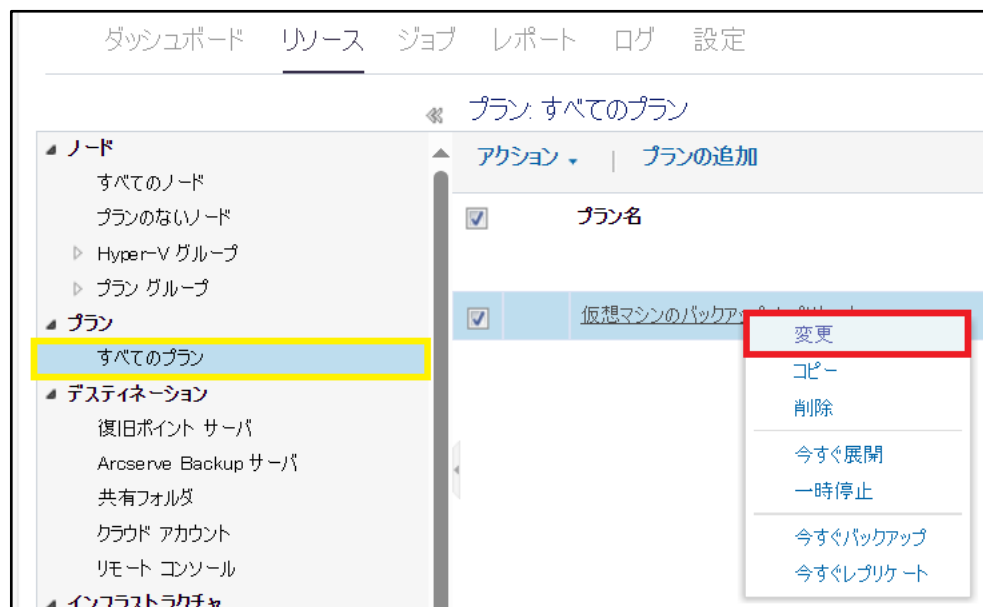


デモンストレーション2：仮想スタンバイ



① 既存プランの編集

リソース > すべてのプラン > 「仮想マシンのバックアップ - レプリケート」を右クリックして
[変更] をクリック。
プラン名を [仮想マシンのバックアップ - レプリケート - **仮想スタンバイ**] へ変更



② 仮想スタンバイ タスクの追加とソースの指定

左ペインから [タスクの追加] をクリックし、[タスクの種類] で **仮想スタンバイ** を選択
タスク3 : [ソース]タブ内の[仮想スタンバイ ソース] のプルダウンメニューから
タスク2: レプリケートのデスティネーション をクリック



③ 仮想スタンバイ作成先の仮想化サーバの指定

[仮想化サーバ] をクリックし、[仮想化の種類] から [**Hyper-V**] を選択
接続に必要な [Hyper-Vホスト名]、[ユーザ名]、[パスワード] といった認証情報を入力後 [接続]
をクリックし、確認画面で[OK]をクリック

仮想マシンのバックアップ・レプリケート・仮想スタンバイ ☐ このプランを一時停止

タスクの種類 仮想スタンバイ

ソース **仮想化サーバ** 仮想マシン 拡張

サイト名 ローカル サイト

仮想化の種類 VMware
VMware
Hyper-V
EC2
Azure
Nutanix AHV
Google Cloud

ESX ホスト/vCenter

ユーザ名

パスワード

プロトコル ☐ HTTP ☒ HTTPS

ポート 443

ESX ノード ESX/VC に接続します

モニタ

ユーザ名 administrator

パスワード



ソース 仮想化サーバ 仮想マシン 拡張

サイト名 ローカル サイト

仮想化の種類 Hyper-V

Hyper-V ホスト名 hv2-svr

ユーザ名 administrator

パスワード

プロトコル ☐ HTTP ☒ HTTPS

ポート 8014

接続



仮想スタンバイ

 Hyper-V ホスト接続は正常に実行されました。

OK

<参考> モニタ サーバの指定 (Hyper-V 以外の仮想環境)

仮想スタンバイを VMware または Nutanix AHV 環境などに作成する場合は、バックアップ対象ノードを監視するモニタ サーバ (以下 “モニタ サーバとは” 参照)を設定

(例) VMware 環境の場合

The screenshot shows the Arcserve UDP configuration interface. On the left, there are two tabs: 'タスクの追加' (Add Task) and '製品のインストール' (Install Product). The 'タスクの追加' tab is selected. The main area is divided into two sections. The top section is for 'VMware' and includes fields for 'ESXホスト/vCenter' (esxi-2), 'ユーザー名' (root), 'パスワード' (masked), 'プロトコル' (radio buttons for HTTP and HTTPS, with HTTPS selected), 'ポート' (443), and 'ESX ノード' (esxi-2.arcserve.jp). The bottom section, highlighted with a red box, is for the 'モニタ' (Monitor) and includes fields for 'モニタ' (win-agt), 'ユーザー名' (administrator), 'パスワード' (masked), 'プロトコル' (radio buttons for HTTP and HTTPS, with HTTPS selected), and 'ポート' (8014). At the bottom of the red box, there is a checkbox labeled 'データ転送にプロキシとしてモニタサーバを使用します' (Use monitor server as proxy for data transfer) which is checked. Below the red box is a blue button labeled '接続' (Connect).

モニタ サーバとは

対象ノードに対して ping を送信して死活監視を行う役割を持つサーバで、各仮想環境に合わせ Arcserve UDP Windows エージェントを導入したサーバを指定

- VMware : 物理または仮想マシン
- Hyper-V : 仮想スタンバイ作成先の仮想ホスト ※1
- Nutanix AHV : 仮想マシン
- Amazon EC2 : クラウド上(VSB ※2 クラウド プロキシ)
- Google Cloud : クラウド上(VSB ※2 クラウド プロキシ)
- Azure : 物理または仮想マシン

※1 Hyper-V 環境ではモニタ サーバの指定不要
(仮想ホストの UDP Windows Agent を自動選択)

※2 “VSB” は Virtual Standby (仮想スタンバイ)の略

④ スタンバイ仮想マシンの設定と保存

[仮想マシン] タブで仮想スタンバイの構成を定義
必要に応じてCPU数、メモリサイズ、仮想ディスクの保存先となるHyper-Vホストのフォルダや
接続する仮想ネットワークを選択し、[保存] をクリック

仮想マシンのバックアップレプリケート-仮想スタンバイ ☐ このプランを一時停止 保存

タスクの種類: 仮想スタンバイ

ソース: 仮想化サーバ **仮想マシン** 拡張

基本設定

VM 名プレフィックス: UDPVM_

復旧ポイント スナップショット: 5 (1~24)

CPU 数: 1 (1~4)

メモリ: 512MB 15359MB **4096** MB

バス

☒ すべての仮想ディスクは同じバスを共有します。

D:\UDPVM 参照

ネットワーク

スタンバイ仮想マシンに接続するネットワーク アダプタの数と種類を指定します。また、アダプタを仮想ネットワークに接続する方法を指定します。

☒ 前回のバックアップのソースと同じ数のネットワーク アダプタ

アダプタの種類: Network Adapter 接続先: 192.168.10.0/24

各ノードに指定されたカスタマイズ済みネットワーク設定は、プランで指定されたカスタム ネットワーク設定より優先されます。

Hyper-V の場所の選択

フォルダの選択

- C:\
- D:\
- UDPVM**

フォルダ名: D:\UDPVM

OK キャンセル

⑤ プランの作成と展開を確認

プランが作成され、対象ノードに展開されたことを確認

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

プラン: すべてのプラン

アクション | プランの追加

プラン名	合計	保護ノード			ステータス
		✓	!	✗	
✓ 仮想マシンのバックアップ-レプリケート-仮想スタンバイ	2	0	2	0	✓ 変更: 成功 (2)

ノード

- すべてのノード
- プランのないノード
- Hyper-V グループ
- プラン グループ

プラン

- すべてのプラン

デスティネーション

- 復旧ポイント サーバ
- Arcserve Backup サーバ
- 共有フォルダ
- クラウド アカウント
- リモート コンソール

インフラストラクチャ

- ストレージ アレイ
- インスタント VM
- サイト
- SLA プロファイル

仮想スタンバイ

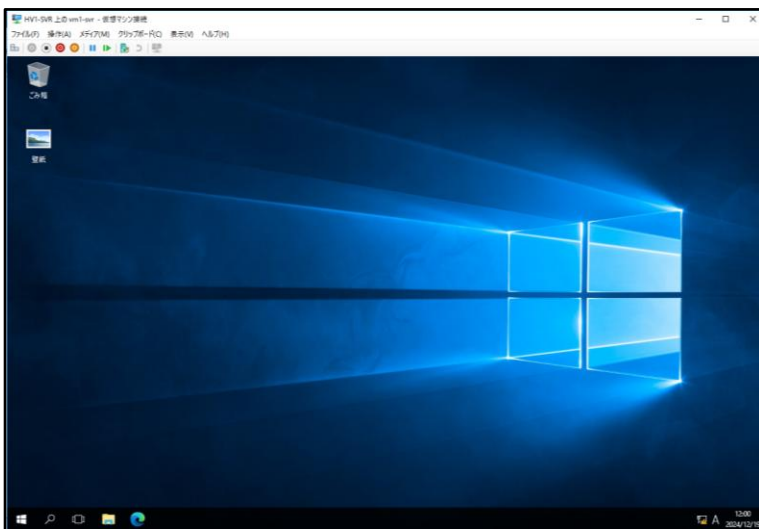
- すべてのノード
- 要アクション
- スタンバイ VM 実行中
- ソース実行中
- ソースおよび VM 実行中

⑥ 結果確認のためのソース調整

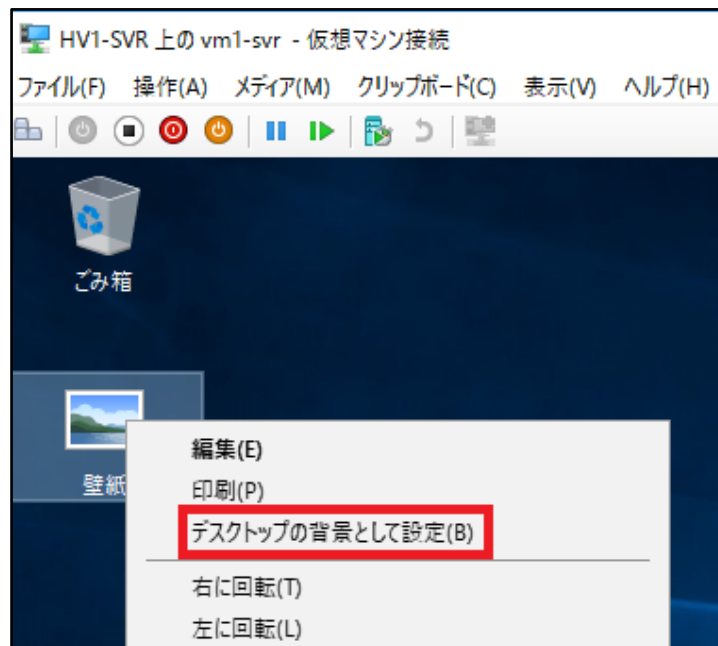
仮想マシンをバックアップしたことを判別しやすくするための準備：

- I. HV1-SVR の Hyper-V マネージャーから仮想マシン (**vm1-svr**) に接続
- II. 壁紙ファイルの右クリックから [デスクトップの背景として設定(B)] をクリック
- III. 壁紙が変更されたことを確認

I



II

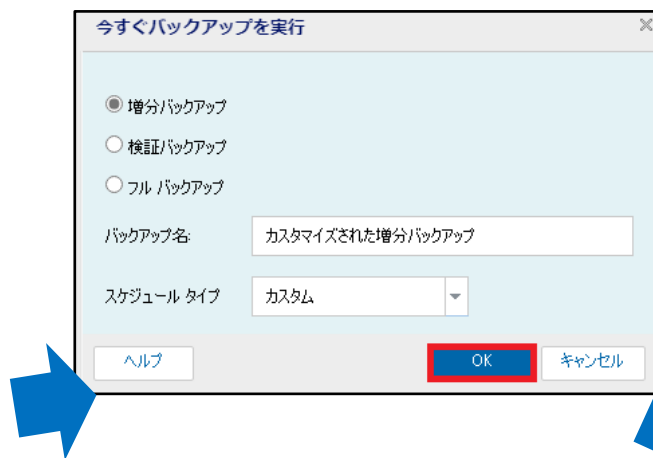


III



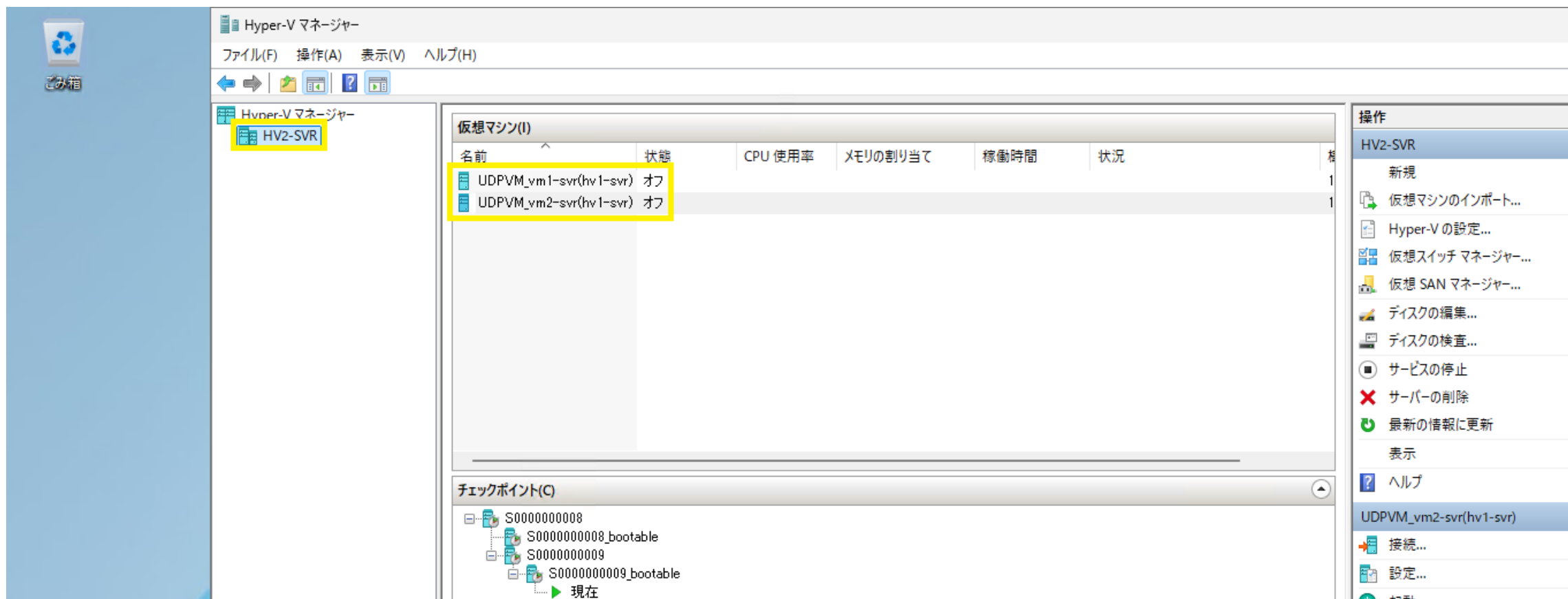
⑦ バックアップ+レプリケート+仮想スタンバイの実行

[すべてのプラン] から [仮想マシンのバックアップ-レプリケート-仮想スタンバイ] を右クリックし、[今すぐバックアップ] をクリック後、[OK] をクリック、進捗情報で[OK]をクリックしプランが実行されることを確認



⑧ スタンバイ VM の作成確認

HV2-SVR のHyper-Vマネージャーから **UDPVM_vm1-svr(hv1-svr)** と **UDPVM_vm2-svr(hv1-svr)** が、[オフ] 状態で作成されたことを確認



⑨ ソース ホストの強制停止

HV1-SVR の障害発生を想定し、BSOD（ブルースクリーン）を強制的に発生させホストの電源を切ります。

問題が発生したため、PC を再起動する必要があります。
エラー情報を収集しています。自動的に再起動します。

0% 完了



この問題と可能な解決方法の詳細については、<http://windows.com/stopcode> を参照してください。

サポート担当者に連絡する場合は、この情報を伝えてください。

停止コード: MANUALLY INITIATED CRASH

<参考> スタンバイ VM ネットワーク環境設定

災害時に備え、対象ノード毎にあらかじめ災害対策サイトのネットワーク環境にあわせたネットワーク設定を定義

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: 仮想マシンのバックアップレプリケート-仮想スタンバイ

ノード

- すべてのノード
- プランのないノード
- Hyper-V グループ
- プラン グループ
 - 仮想マシンのバックアップレプリケート-仮想
- 仮想スタンバイ
 - すべてのノード
 - 要アクション
 - スタンバイ VM 実行中
 - ソース実行中
 - ソースおよび VM 実行中
- プラン
 - すべてのプラン
- デスティネーション

アクション | ノードの追加

	ステータス	ノード名
☐		VM(vm2-sv
☒	✓	vm1-svr

ジョブ

- 今すぐバックアップ
- 一時停止
- リストア
- ハートビート
- 仮想スタンバイ
- スタンバイ VM
- スタンバイ VM ネットワーク環境設定

管理

- 更新
- プランの変更
- 削除
- エクスポート

ノード毎にネットワーク (IP、G/W、DNS、WINS、DNSの更新設定) の定義

<参考> スタンバイ VM ネットワーク環境設定

代替運用先での仮想ネットワーク、NICタイプ、IP、ゲートウェイ、DNS、WINS の定義やDNS更新設定が可能

ネットワークアダプタ設定DNS 更新設定

各ネットワーク アダプタの (仮想ネットワーク、仮想 NIC) または (サブネット、Elastic IP) と TCP/IP 設定を指定します。

仮想ネットワークおよび NIC

ソース マシン ネットワーク アダプタ	スタンバイ VM - 仮想ネットワーク	スタンバイ VM - NIC タイプ
Microsoft Hyper-V Network Adapter	プラン設定の使用 - 192.168.10.0/24	プラン設定の使用 - Network Adapter

TCP/IP 設定

ソース マシン

スタンバイ VM

アダプタ
Microsoft Hyper-V Network Adapter

IP アドレス/サブネット マスク
192.168.10.30/255.255.255.0

ゲートウェイ
自動

DNS サーバ
自動

WINS サーバ
自動

☐ ソース マシンの TCP/IP 設定を使用します。

☒ TCP/IP 設定を手動で設定します。

優先順位によってオブジェクトの順序を変更するには、グリッド内で上または下のボタンをクリックします。

IP アドレス

ゲートウェイ サーバ

☐ IP アドレス
自動 (DHCP 有効)

☐ サブネット マスク

☐ ゲートウェイ アドレス
自動

DNS サーバ

WINS サーバ

☐ DNS アドレス
自動

☐ WINS アドレス
自動

ネットワークアダプタ設定DNS 更新設定

クライアントをソース コンピュータから仮想スタンバイ仮想マシンにリダイレクトするには、新しい TCP/IP 設定に基づいて以下のリストの DNS サーバを更新します。

DNS サーバおよび IP アドレス

DNS サーバ	ソース マシン IP アドレス	スタンバイ VM IP アドレス
データなし		

DNS サーバ プロパティ

Time to Live は、ドメイン ネーム サーバ上の大量のレコードの有効期限を制限します。例: TTL が 60 秒である場合、キー レコードは 1 分後に期限切れとなります。

Time to Live (TTL) 60 秒 (1-86400)

DNS 認証

安全な動的 DNS 更新を有効にした場合、DNS 更新用の認証情報を定義する必要があります。定義された認証情報はすべての DNS サーバの更新に使用されます。

DNS サーバタイプ
Microsoft DNS

ユーザ アカウント

パスワード

パスワードの確認

注：『[Hyper-V 環境に VM の復旧または仮想スタンバイで作成された Windows VM に指定した静的 IP アドレスが反映されない](#)』

⑩ 複数のスタンバイ VM の起動

[プラン グループ] から [仮想マシン - レプリケート - 仮想スタンバイ] をクリック。
全てのノードを選択し、右クリックメニューから [スタンバイVM] をクリック



ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: 仮想マシンのバックアップ-レプリケート-仮想スタンバイ

アクション | ノードの追加

ノード	ステータス	ノード名	VM 名
すべてのノード			
プランのないノード			
Hyper-V グループ			
プラン グループ			
仮想マシンのバックアップ-レプリケート-仮想スタンバイ			
仮想スタンバイ			
すべてのノード			
要アクション			
スタンバイ VM 実行中			
ソース実行中			
ソースおよび VM 実行中			
プラン			
すべてのプラン			
デスティネーション			
復旧ポイント サーバ			
Arcserve Backup サーバ			
共有フォルダ			
クラウド アカウント			
リモート コンソール			
インフラストラクチャ			
ストレージ アレイ			
インスタント VM			

ジョブ

- 今すぐバックアップ
- 一時停止
- ハートビート
- 仮想スタンバイ
- スタンバイ VM

管理

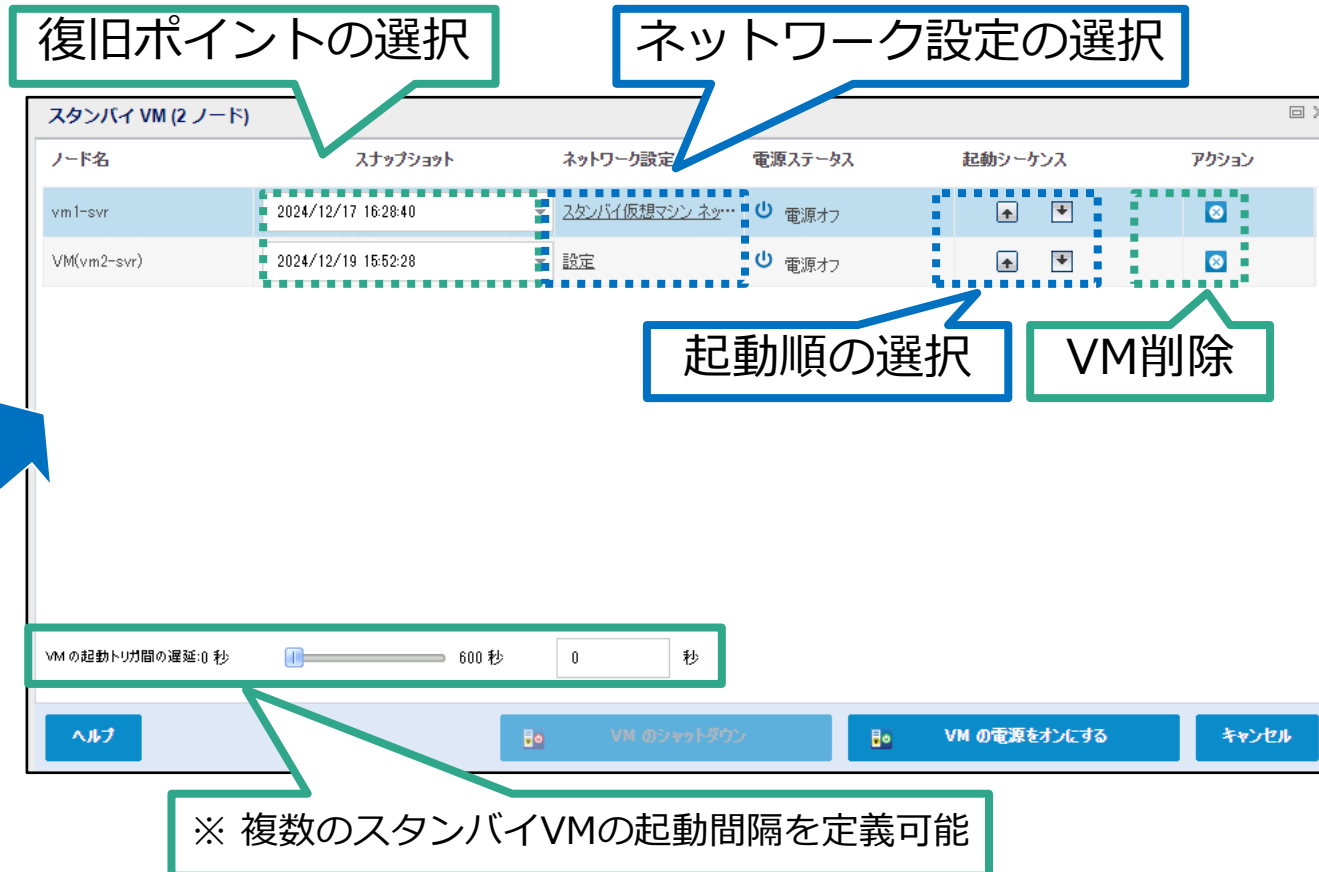
- 更新
- 削除
- エクスポート

実行

- エージェントのインストール/アップグレード
- 診断情報の収集
- プレフライト チェック

アクション

- インスタント VM の作成
- 今すぐレプリケート



スタンバイ VM (2 ノード)

ノード名	スナップショット	ネットワーク設定	電源ステータス	起動シーケンス	アクション
vm1-svr	2024/12/17 16:28:40	スタンバイ仮想マシン ネットワーク設定	電源オフ	1	削除
VM(vm2-svr)	2024/12/19 15:52:28	設定	電源オフ	2	削除

VM の起動トリガ間の遅延: 0 秒 600 秒 0 秒

ヘルプ VM のシャットダウン VM の電源をオンにする キャンセル

※ 複数のスタンバイVMの起動間隔を定義可能

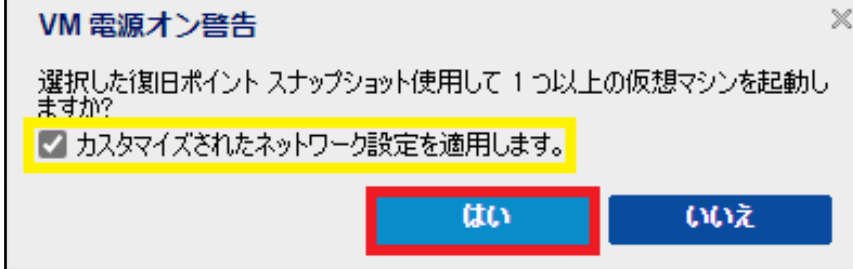
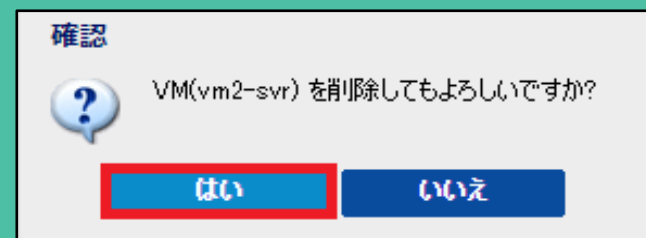
⑪ 複数のVM の電源をオンにする

直ちにVMを起動するため、[VMの電源をオンにする]をクリックし、[VM 電源オン警告] 確認画面で[はい]をクリック

※ 1台だけ起動する場合は、[アクション]の  ボタンをクリックすることで起動不要なVMを削除可能

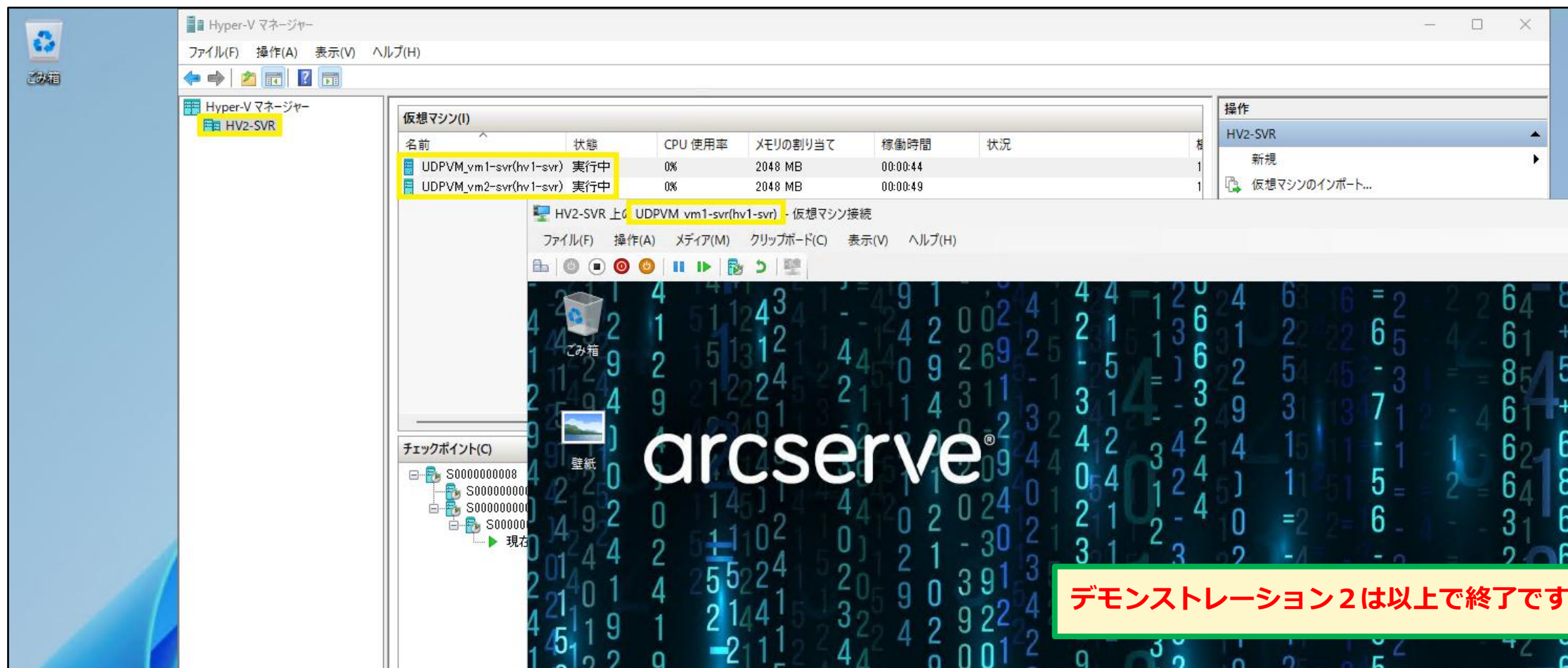


<参考> 仮想マシンを起動対象から削除



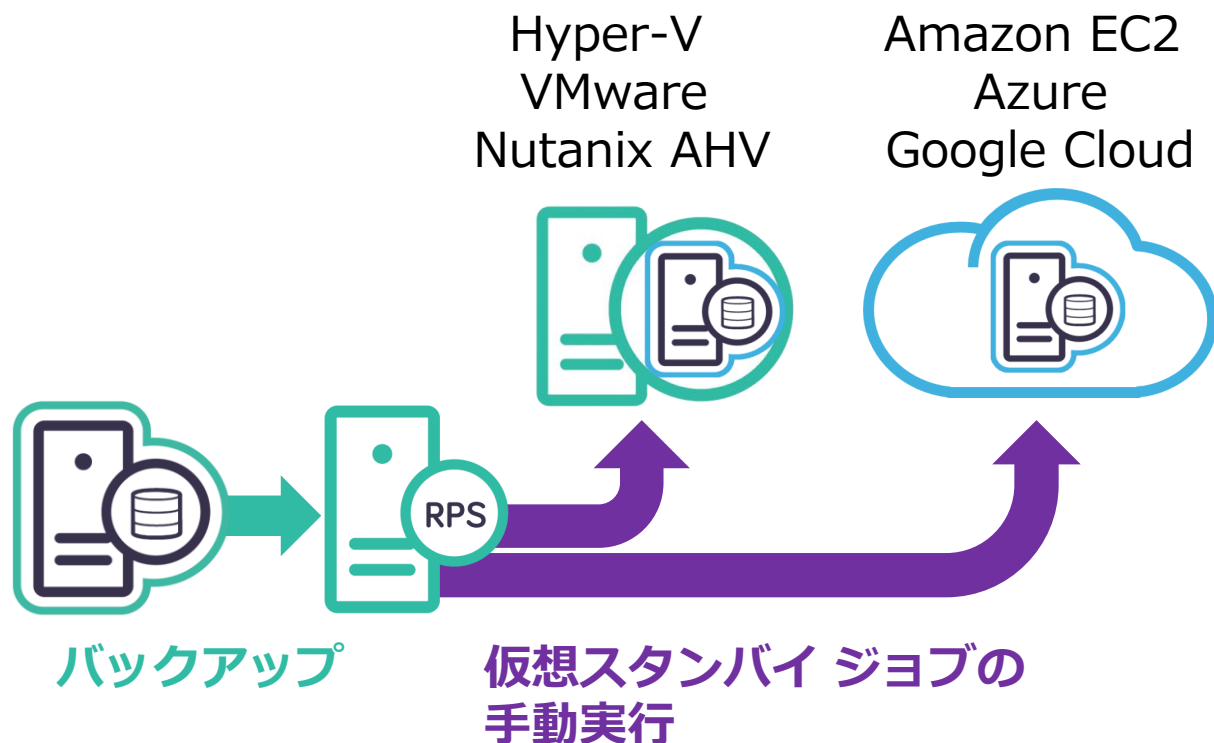
⑫ スタンバイ VM の動作確認

HV2-SVR の Hyper-V マネージャーから **UDPVM_vm1-svr** に接続し、デスクトップ壁紙が変更されたことを確認



仮想スタンバイ ジョブの手動実行 (アドホック仮想スタンバイ)

- パブリック クラウド(Amazon EC2, Azure, Google Cloud)上で簡単にシステム復旧が出来る



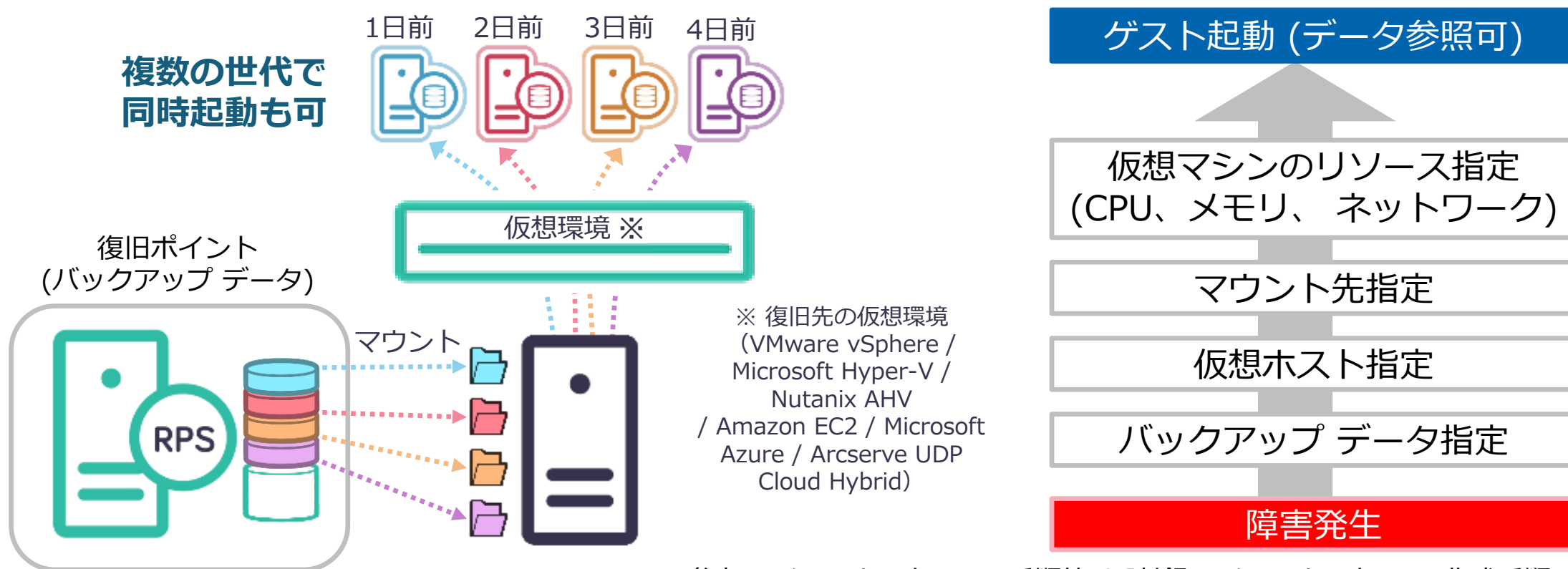
- ✓ 必要になった時点で、事前準備無しで仮想スタンバイを実行できる
- ✓ バックアップ元と仮想スタンバイ先が異なる仮想環境でも利用が可能
- ✓ バックアップ または レプリケートのデータで実行可
- ✓ 複数個所にスタンバイ VM を作成できる

※ 仮想スタンバイ ジョブの手動実行には RPS が必須

インスタント VM で本番サーバの替わりを即利用 (Windows, Linux)

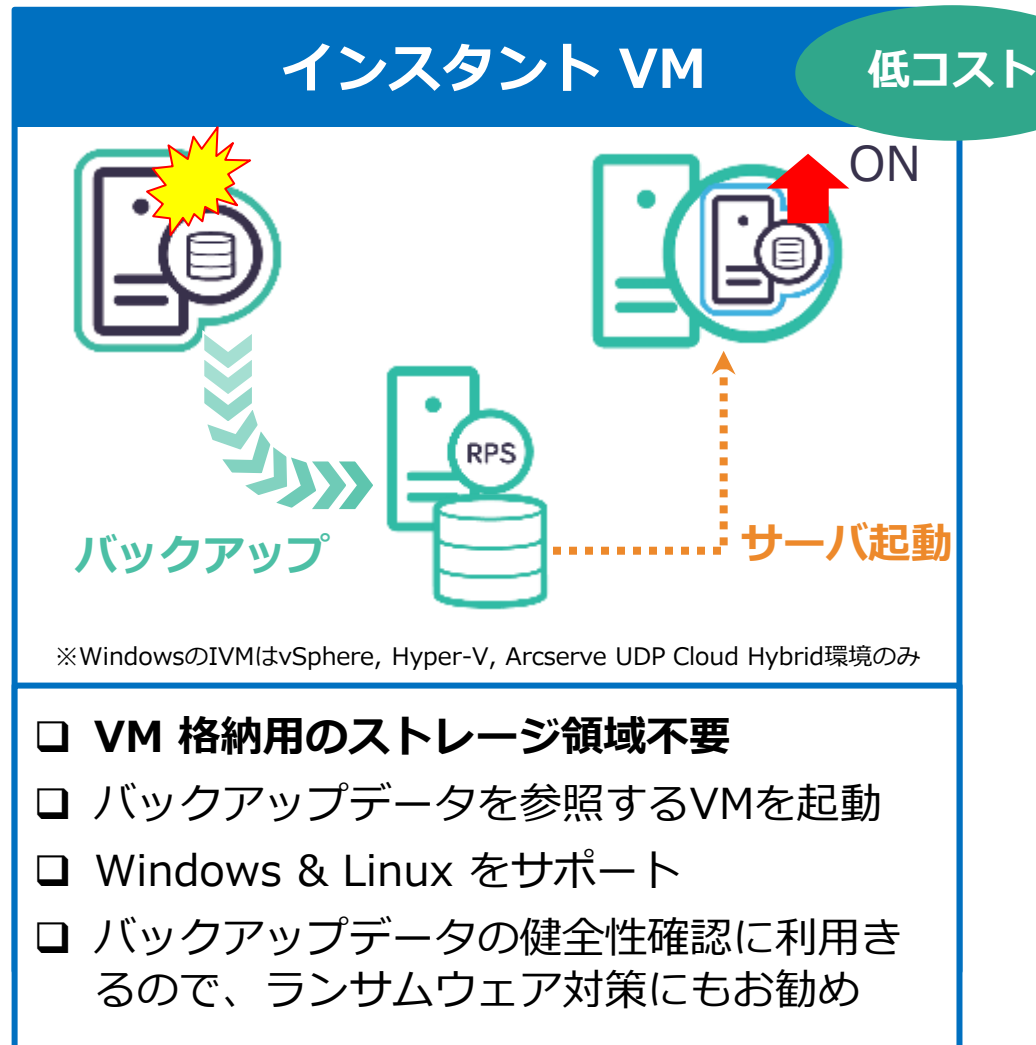
バックアップデータを参照しながら動作する仮想マシンを作成

事前準備不要、数ステップのウィザード操作で、**わずか数分で業務サーバを起動**



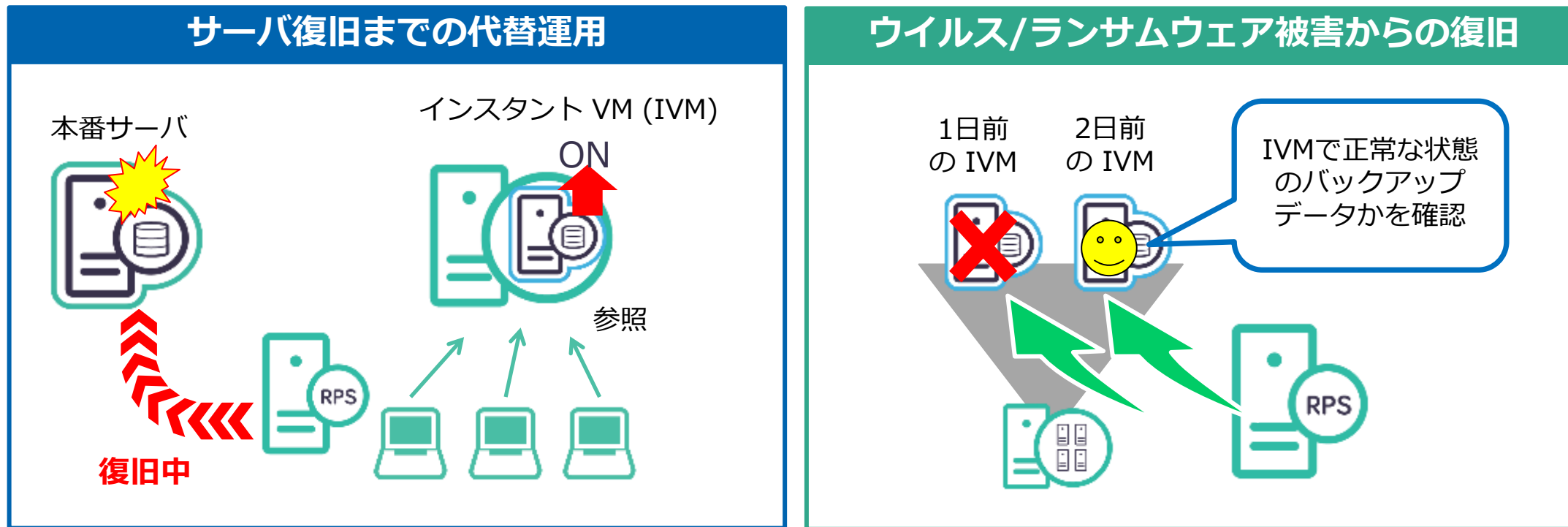
<参考> インスタントVM の手順等は [付録：インスタントVMの作成手順の紹介] で説明

インスタント VM と仮想スタンバイとの違い



インスタント VM の利用例

業務サーバの障害後、復旧ポイントから仮想マシンを**即作成**

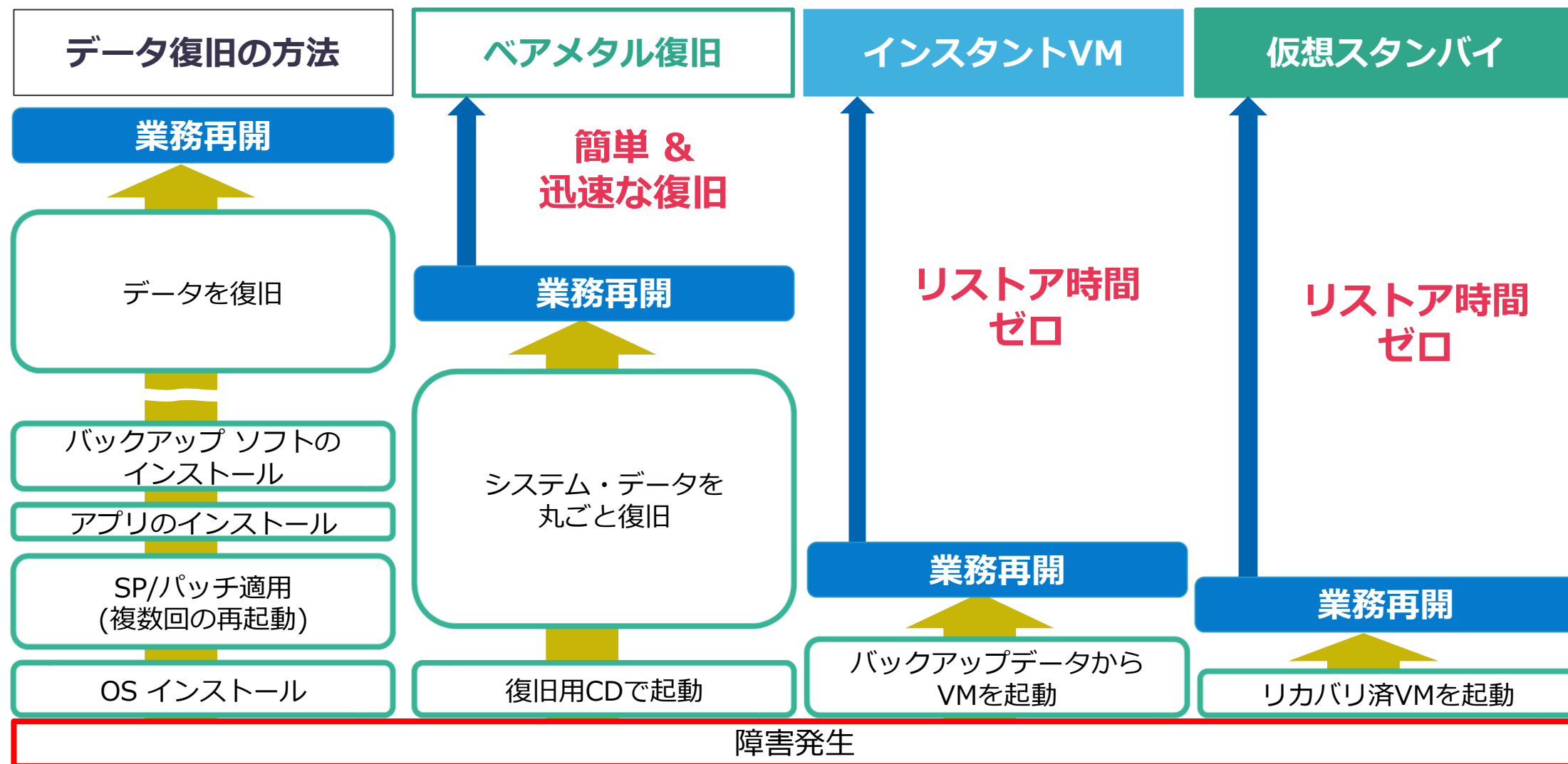


事前準備不要で
複数世代の起動可能

業務停止の影響を軽減

正常なバックアップ
データの特選

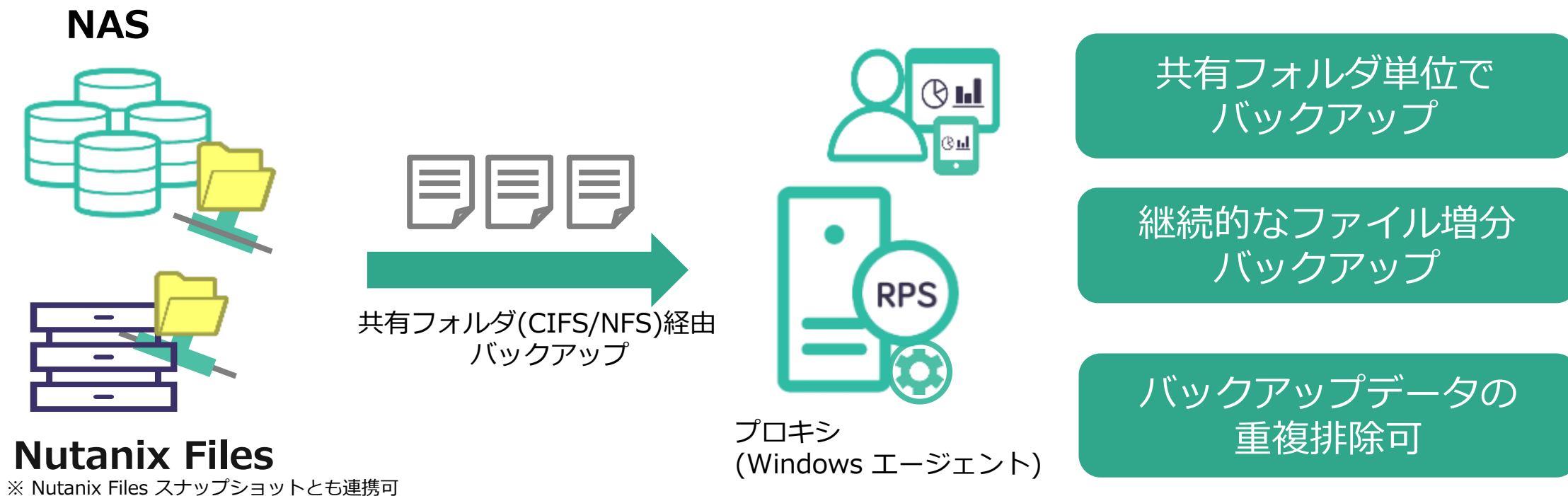
<参考> 業務再開までの時間で比較



4. Arcserve UDP の便利機能

共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ

エージェントが導入できない NAS やストレージ上のデータをバックアップ



大容量NASデータも最小化して保存！

Microsoft 365 のバックアップ

保持期間を過ぎたデータや退職者アカウントのデータ復旧が可能

Exchange Online



メール
ボックス



メール



予定表



連絡先



タスク
メモ



パブリック
フォルダ



会話の履歴

! -完全削除アイテム保持期間 => 14日
-削除済みメールボックス保持期間 => 30日

OneDrive



個人データ



個人会話履歴

! -ストレージ初期容量 1TB × ユーザ数
-削除済みアイテムの保持期間 => 93日

SharePoint Online



サイト



ドキュメント



チャネル
共有ファイル

! -テナント初期容量 1TB + 10GB × ユーザ数
-1サイトあたり最大25TB
-削除済みアイテムの保持期間 => 93日

Exchange Online

SharePoint Online

Teams

OneDrive

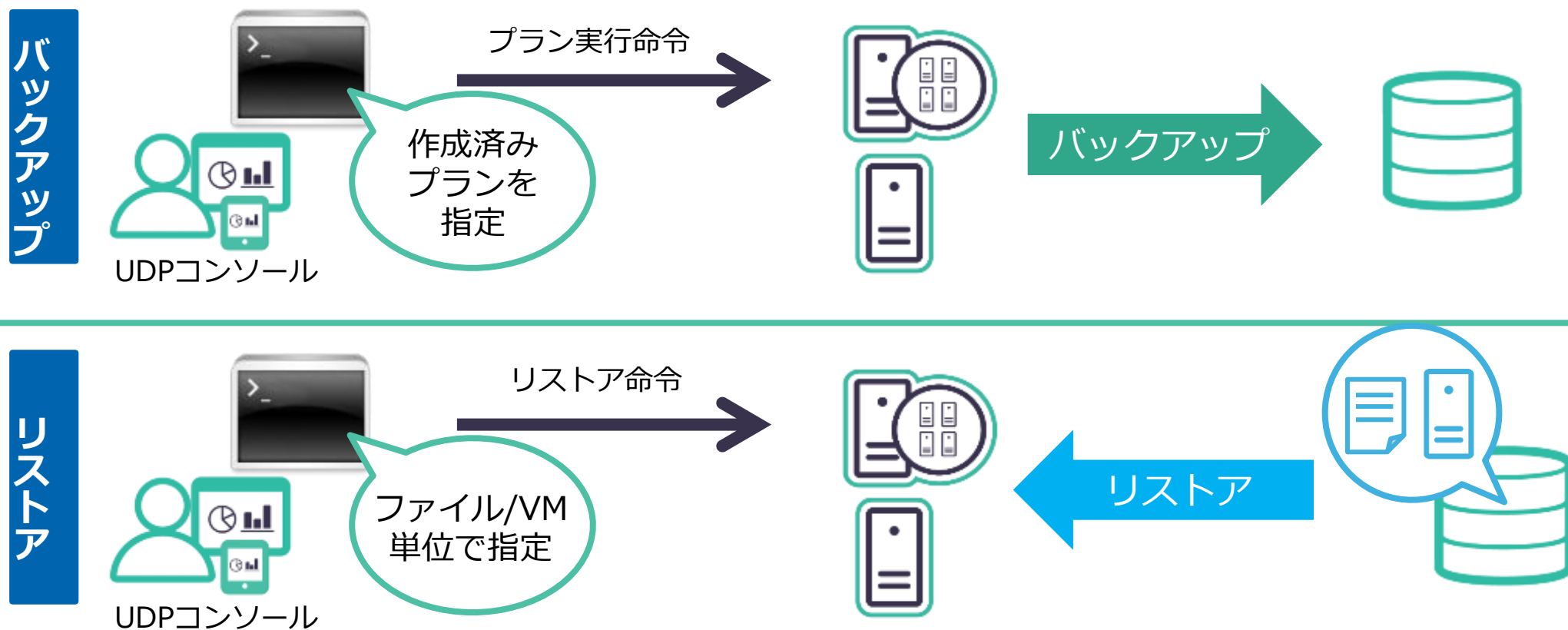
Teams

Exchange、SharePoint、OneDrive上
のTeamsデータのバックアップ

! -削除済みアイテム => 30日

コマンドライン インターフェース

管理ツールとの連携し**バックアップ運用の自動化**に対応。
Windows / Linux 物理サーバ、エージェントレス バックアップで利用可能



イベント ログへの通知

バックアップやレプリケートの結果を**イベント ログへ通知**し、
他社管理ツールと連携することが可能

コマンド プロンプトを「管理者」として実行し、以下のコマンドで設定

C:¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Engine¥BIN¥CmdUtil.exe

設定例：「エラー/警告」を登録

「**CmdUtil.exe /evtlog /reg /ew**」

```
C:¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Engine¥BIN>CmdUtil.exe /evtlog /reg /ew
Successfully to register event source of UDP.

C:¥Program Files¥Arcserve¥Unified Data Protection¥Engine¥BIN>
```

参考情報:

[Arcserve UDP のアクティビティ ログを Windows イベント ログに登録する方法](#)

※ その他「CmdUtil.exe」の活用方法

[Arcserve UDP の関連サービスとプロセスを再起動する方法](#)

[Arcserve UDP のアクティビティ ログをファイルに保存する方法](#)

[Arcserve UDP の問題発生時の採取情報](#)

Arcserve UDP コンソールの多要素認証対応

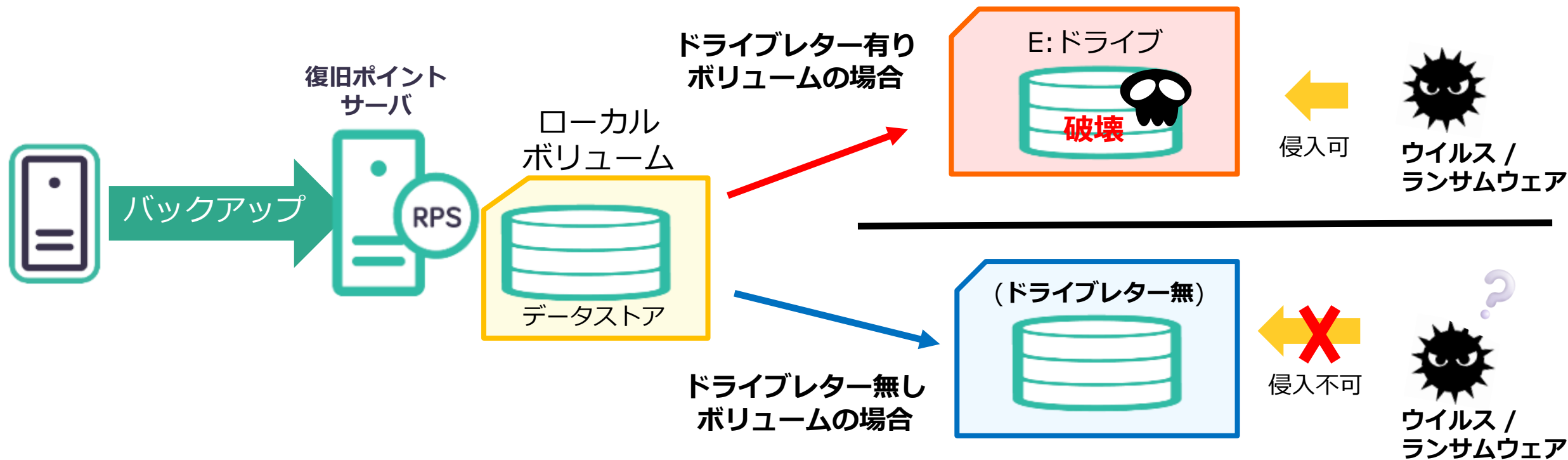
管理画面へのログオン方法として多要素認証（MFA）が利用可能 ※



パスワード入力に加えて、確認コードの受信/入力を必要とすることで
不正アクセス リスクを低減

データストアをドライブレター無しボリューム上に作成

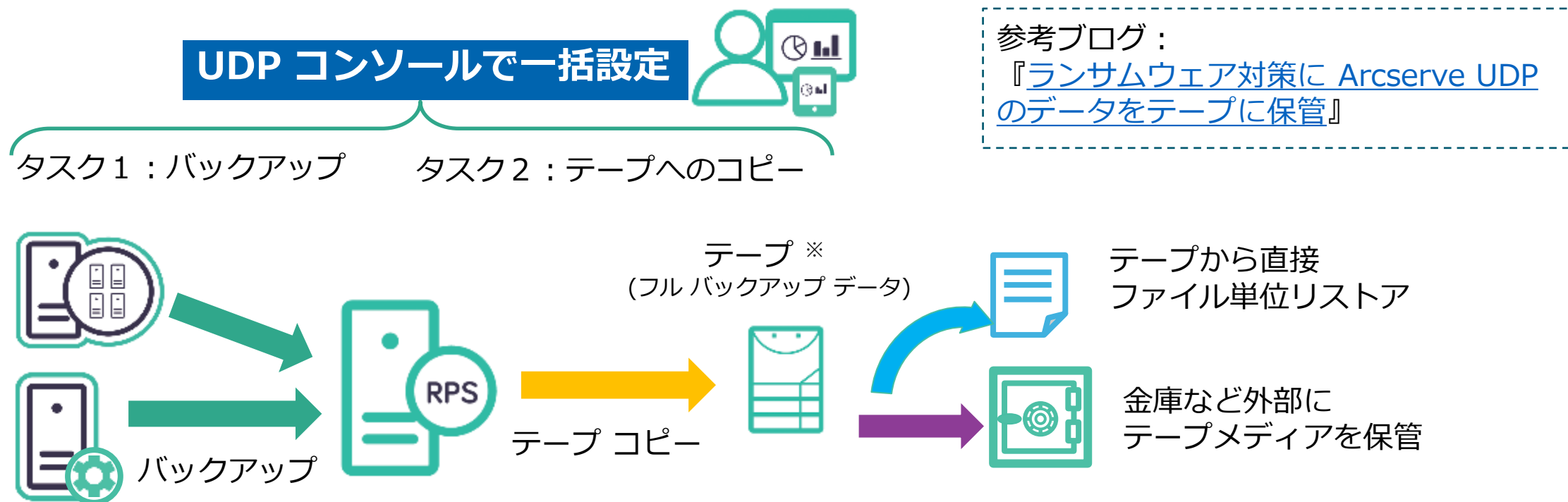
復旧ポイントサーバ（RPS）がマルウェアに感染してもエクスプローラーから隠すことでデータストアへの攻撃リスクを軽減します。



※ ドライブレター無しボリューム上のデータストア作成方法は以下のArcserve ブログの記事をご参照ください
『[Arcserve UDP 8.0 新機能紹介 \(6\) : ランサムウェア対応の強化](#)』

テープへのコピー : Arcserve Backup との連携

テープへ復旧ポイントのコピーを保存し、データ保護を強化
監査対応のため**長期間**バックアップ データ保管や、**災対**サイトへの移送、
ランサムウェア対策にも有効



※ シングル テープ ライブラリ利用可

アシュアード リカバリ：バックアップ データ の健全性を自動確認

バックアップ データが**リストア可能であること**を手間をかけずに**自動で確認**



バックアップから確認処理の後始末までを全自動化

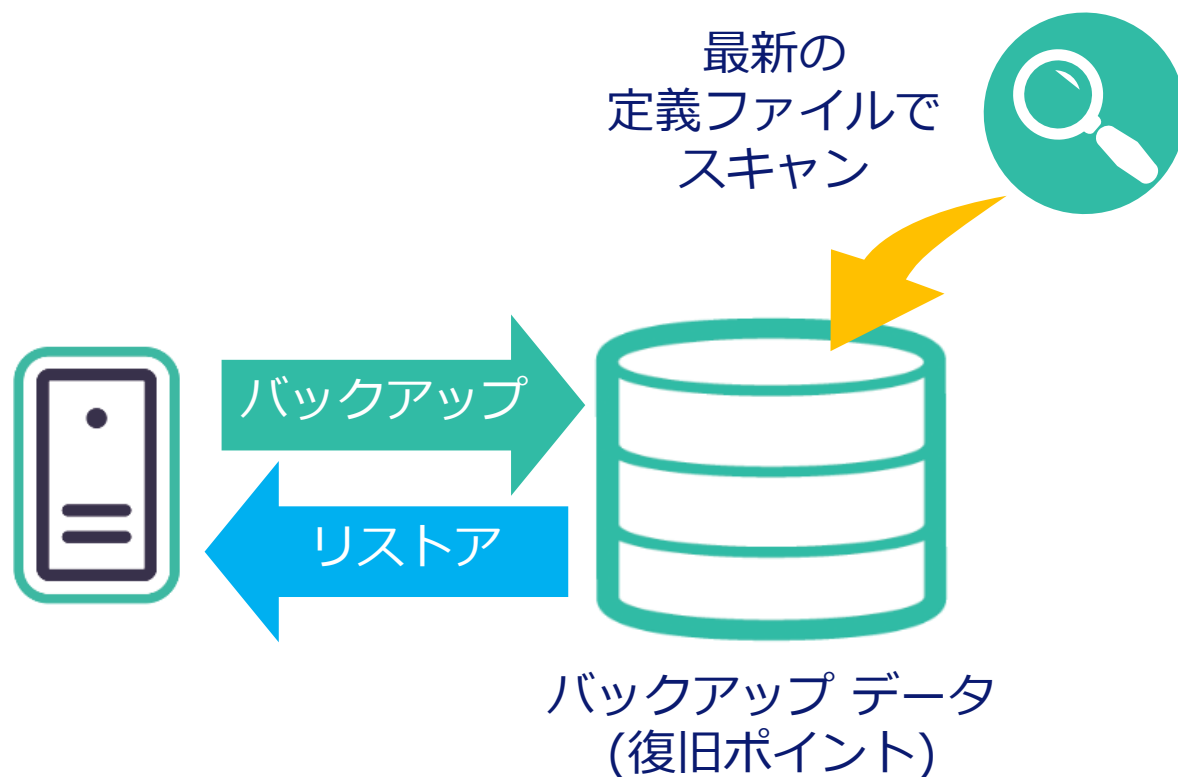
バックアップとレプリケート
後のデータを確認

手動、もしくは曜日・時間
を指定して実行

確認結果を
メールで通知

アシュアード セキュリティ スキャン

安全確認が取れたバックアップ データでリストアが実施できる



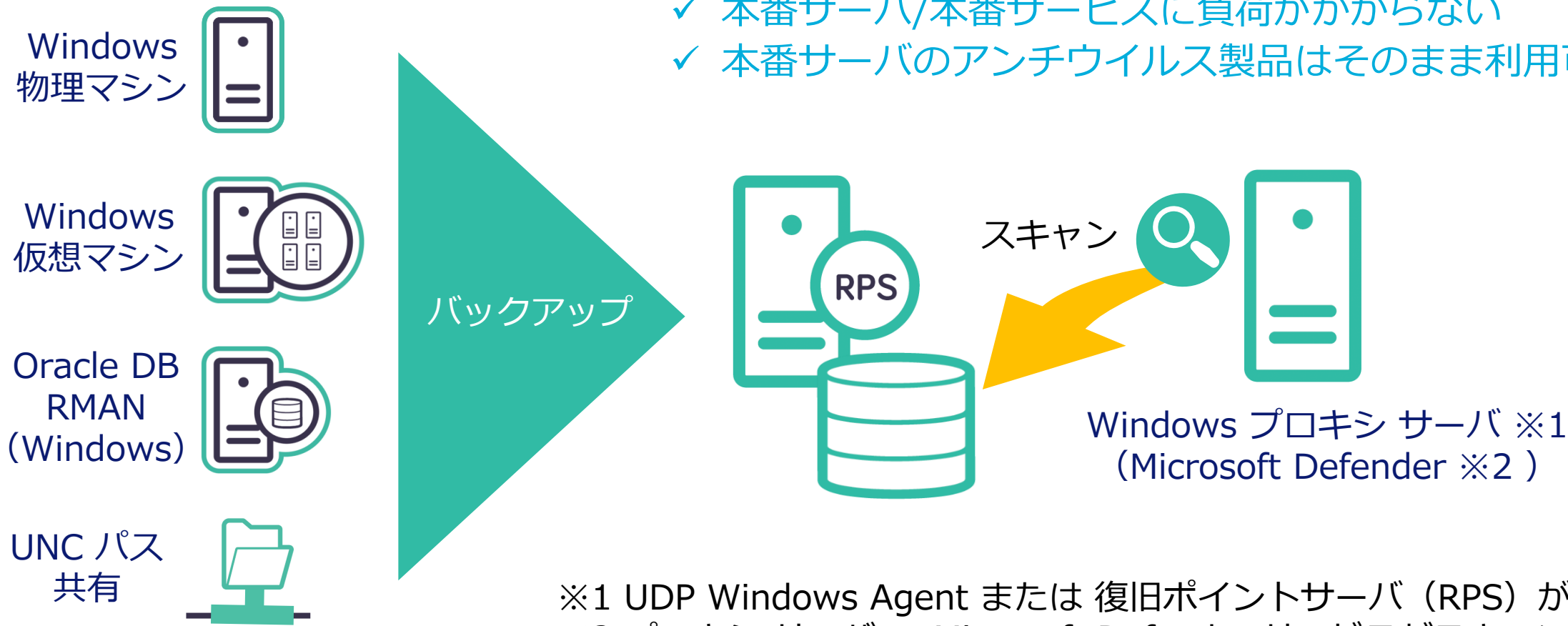
- ✓ バックアップ後に自動、またはリストア前など手動でバックアップ データのウイルススキャンが可能
- ✓ スキャンは安心の Microsoft Defender を利用
- ✓ 最新のセキュリティ定義ファイルでウイルスやワームの侵入検知

※ Arcserve UDP Premium Edition 以上が必要

アシュアード セキュリティ スキャンの構成例

- バックアップ データのスキャンは「プロキシ」が実行

- ✓ 本番サーバ/本番サービスに負荷がかからない
- ✓ 本番サーバのアンチウイルス製品はそのまま利用可



※1 UDP Windows Agent または 復旧ポイントサーバ (RPS) が兼務可

※2 プロキシ サーバ の Microsoft Defender サービスがスキャン

<参考> アシュアード セキュリティ スキャンのよくある質問

Q マルウェア検知後、バックアップ データ（復旧ポイント）からマルウェアを削除したり、復旧ポイント自体を隔離しますか？

いいえ、マルウェアの削除や復旧ポイントの隔離は行いません。マルウェアを検知した場合、アシュアード セキュリティ ジョブは失敗扱いとなり、対象の復旧ポイントに記録が残ります。これにより、マルウェアを含む危険な復旧ポイントが把握できます。

Q 復旧ポイントサーバがアシュアード セキュリティ スキャンの Windows プロキシサーバを兼務する場合、何か注意することはありますか？

使用する復旧ポイントサーバのシステム要件(CPU やメモリの要件は[Arcserve UDP 10.x 動作要件](#)を参照)に以下の Windows プロキシ サーバのシステム要件を合算したサーバをご利用ください。

[Windows プロキシ サーバのシステム要件]

- サーバ**： Windows Server 2012 以降
- CPU**： 4 コア 2.2 GHz 以上のプロセッサ
- RAM**： 8 GB 以上

※ この他のアシュアード セキュリティ スキャンに関する FAQ は「[アシュアード セキュリティ スキャンのよくある質問と回答](#)」にも記載

演習内容：アシュアード セキュリティ スキャン

予め取得済みのバックアップデータを選択し、アシュアード セキュリティ スキャンを実行します。

対象のバック
アップデータ
を選択

- データストア “M-DS” からバックアップデータを選択

アシュアード
セキュリティ
スキャンの実行

- アシュアード セキュリティ スキャン を手動実行

結果の確認

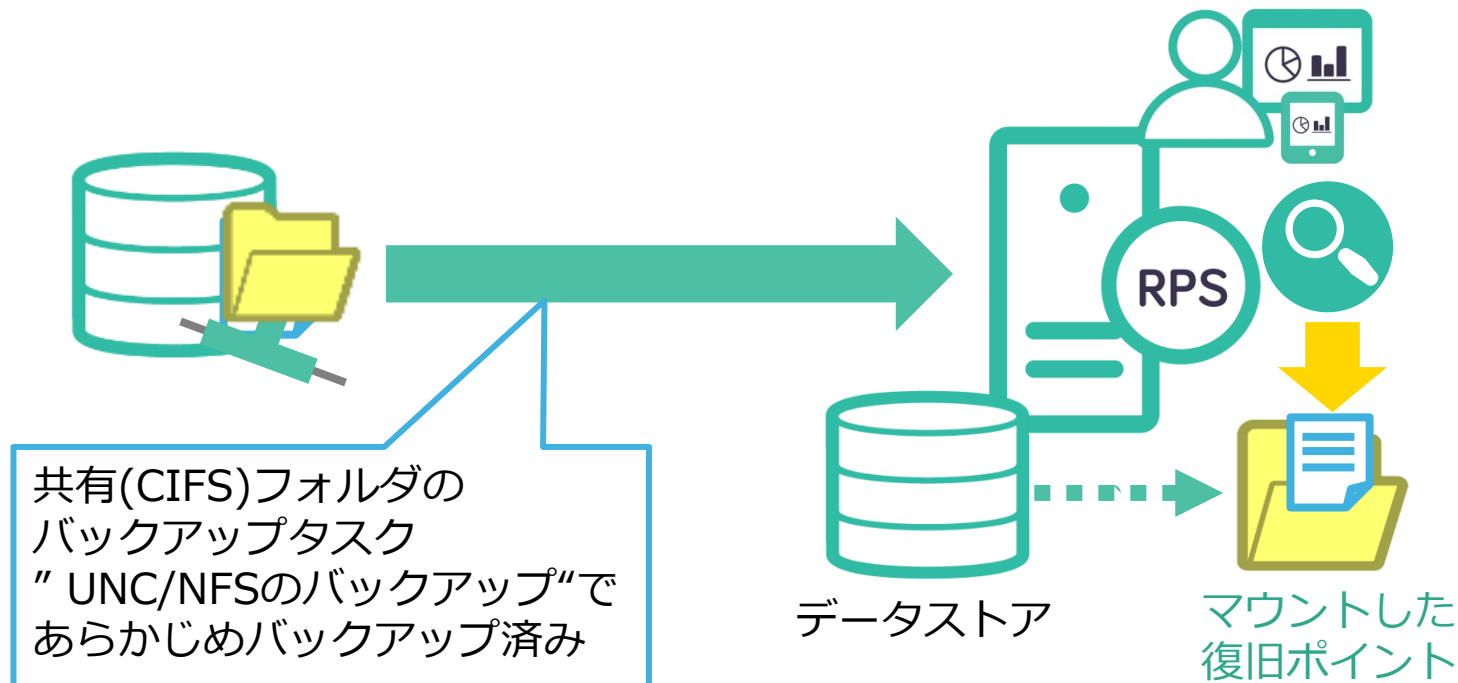
- スキャン結果の確認

演習環境

■ バックアップ対象データ ¥¥nas-svr¥share

■ udp-svr (統合管理サーバ)

- ・ Arcserve UDP エージェント
(アシュアード セキュリティ スキャン用プロキシ)
- ・ Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ
- ・ Arcserve UDP 管理コンソール



アシュアード セキュリティ スキャンによって
データストアから確認対象の復旧ポイントを
統合管理サーバ (プロキシ サーバ) にマウン
トし、Microsoft Defender で検査を実施

① 復旧ポイントサーバからM-DSを選択

[リソース] タブから [復旧ポイントサーバ] を選択し、[udp-svr]配下の [M-DS] をクリック。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

◀ デスティネーション: 復旧ポイントサーバ

アクション | 復旧ポイントサーバ の追加

	名前	ステータス	プラン数	保存されたデータ
ノード				
すべてのノード				
プランのないノード				
▶ プラン グループ				
プラン				
すべてのプラン				
デスティネーション				
復旧ポイント サーバ				
Arcserve Backup サーバ				
共有フォルダ				
クラウド アカウント				
リモート コンソール				
	udp-svr			
	M-DS	✓	1	26 GB
	I-DS	✓	0	0 バイト
	win-agt			
	R-DS	✓	1	22.61 GB

② 対象ノードを選択してアシュアード セキュリティ スキャンを実行

[プラン(非保護)]下にある[**nas-svr!share**]を選択し、右クリックメニューから[**アシュアード セキュリティ スキャンを今すぐ実行**]をクリック

<ローカル サイト> デスティネーション: udp-svr > M-DS

復旧ポイント

サマリ

アクション ▼

ノード名	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
▲ プラン:物理サーバのバックアップ - レプリケート		3
win-agt	2024/12/13 14:49:26	3
▲ プラン:(非保護)		2
nas-svr!share	2024/12/08 1:06:12	2

復旧ポイント

サマリ

アクション ▼

ノード名	最新の復旧ポイント
▲ プラン:物理サーバのバックアップ - レプリケート	
win-agt	2024/12/13 14:49
▲ プラン:(非保護)	
nas-svr!share	2024/12/08 1:06:12

リフレッシュ
リストア
アシュアード セキュリティ スキャンを今すぐ実行
削除
今すぐマージ

Copyright © 2014-2024, Arcserve,

③ スキャン対象の復旧ポイントのステータス確認と選択

アシュアード セキュリティ スキャンのウィザード画面で最新の復旧ポイントの[アシュアード セキュリティ スキャン]の結果が未実行であることを確認し、[次へ]をクリック

ノード <nas-svr!share> の アシュアード セキュリティ スキャン

ソース復旧ポイント サーバを選択します。(ステップ 1 / 2)

このノードが使用されている場所から復旧ポイントを参照します。

ロケーション タイプ RPS 上のデータストア

復旧ポイントサーバ udp-svr

データストア M-DS

アシュアード セキュリティ スキャンを実行する復旧ポイントを選択します

日付	セッション名	時刻	アシュアード セキュリティ ス...	アシュアード リカバリ	バックアップの種類
最新					
2024/12/08	S00000000002	2024/12/08 1:06:12	?	!	増分
今日					
昨日					
...					

ヘルプ 次へ キャンセル

アシュアード セキュリティ スキャンのステータスが " ? " (未実行) で表示

④ プロキシ サーバを設定

[Windows プロキシ サーバ] はドロップダウンリストから「**udp-svr**」を選択

ノード <nas-svr!share> の アシュアード セキュリティ スキャン

アシュアード セキュリティ スキャンの詳細 (ステップ 2 / 2)

Windows プロキシ サーバ   追加 クリア

仮想ハード ディスク ファイル フォルダ  win-agt
udp-svr 参照 クリア

アンチウイルス スキャナ 

タイムアウト 1 (1 ~ 30 日)

電子メール アラート ☐ 成功したジョブのアラートを送信
☐ 失敗したジョブに対するアラートの送信
電子メール設定

ヘルプ 前に戻る 完了 キャンセル

⑤ 復旧ポイントのマウント先の指定

復旧ポイントのマウント先となる [仮想ハードディスク ファイル フォルダ] の指定フォルダをドライブ ツリーから選択するには [参照] をクリック
ここでは「**D:¥AS-Mount**」を選択し [OK] をクリック



※ [アンチウイルス スキャナ] はプロキシ サーバ指定後に [Windows Defender] が自動で表示される

⑥ アシュアード セキュリティ スキャンのジョブ実行

それぞれ設定した内容を確認後に[完了]をクリックし、情報のメッセージで[OK]をクリック

ノード <nas-svr!share> の アシュアード セキュリティ スキャン

アシュアード セキュリティ スキャンの詳細 (ステップ 2 / 2)

Windows プロキシ サーバ

udp-svr

追加

クリア

仮想ハード ディスク ファイル フォルダ

プロキシ サーバ (udp-svr) 上

D:\AS-Mount

参照

クリア

アンチウイルス スキャナ

Windows Defender

タイムアウト

1

(1 ~ 30 日)

電子メール アラート

☐ 成功したジョブのアラートを送信

☐ 失敗したジョブに対するアラートの送信

電子メール設定

ヘルプ

前に戻る

完了

キャンセル

情報

 アシュアード セキュリティ スキャン ジョブは正常にサブミットされました。

OK

⑦ アシュアード セキュリティ スキャン実行状況の確認

[ジョブ]タブに移動して [進行中のジョブ]を選択し、アシュアード セキュリティ スキャン タスクの実行状況を確認

The screenshot displays the Arcserve UDP web interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード', 'リソース', 'ジョブ', 'レポート', 'ログ', and '設定'. The 'ジョブ' tab is selected. Below it, the '進行中のジョブ' (In Progress Jobs) section is highlighted with a red box. On the left sidebar, the '進行中のジョブ' option is also highlighted with a red box. The main table shows a single job: 'アシュアード セキュリティ' (Assured Security) on node 'nas-svr1share', scheduled for '2024/12/13 15:36:47'. The progress bar shows '0% (0/235 項目)' and a '詳細' (Details) button is visible. A detailed status window for this task is open, showing the following information:

アシュアード セキュリティ ステータス モニタ - nas-svr1share	
アシュアード セキュリティ	
進捗状況	
フェーズ	アシュアード セキュリティ スキャンを実行しています
0% (0/234 項目)	
開始時刻	2024/12/13 15:38:02
経過時間	00:00:41
プロキシ サーバ	UDP-SVR
仮想ハード ディスク ファイル フォルダ	D:\AS-Mount
復旧ポイントサーバ	udp-svr
データ ストア	M-DS
復旧ポイント	S0000000000002

⑧ アシュアード セキュリティ スキャン実行結果の確認

[進行中のジョブ]に[表示する実行中のジョブはありません]と表示されたらアシュアード セキュリティ スキャンのタスクが終了したため、[ログ]タブに移動して**アシュアード セキュリティ スキャンの失敗を確認**



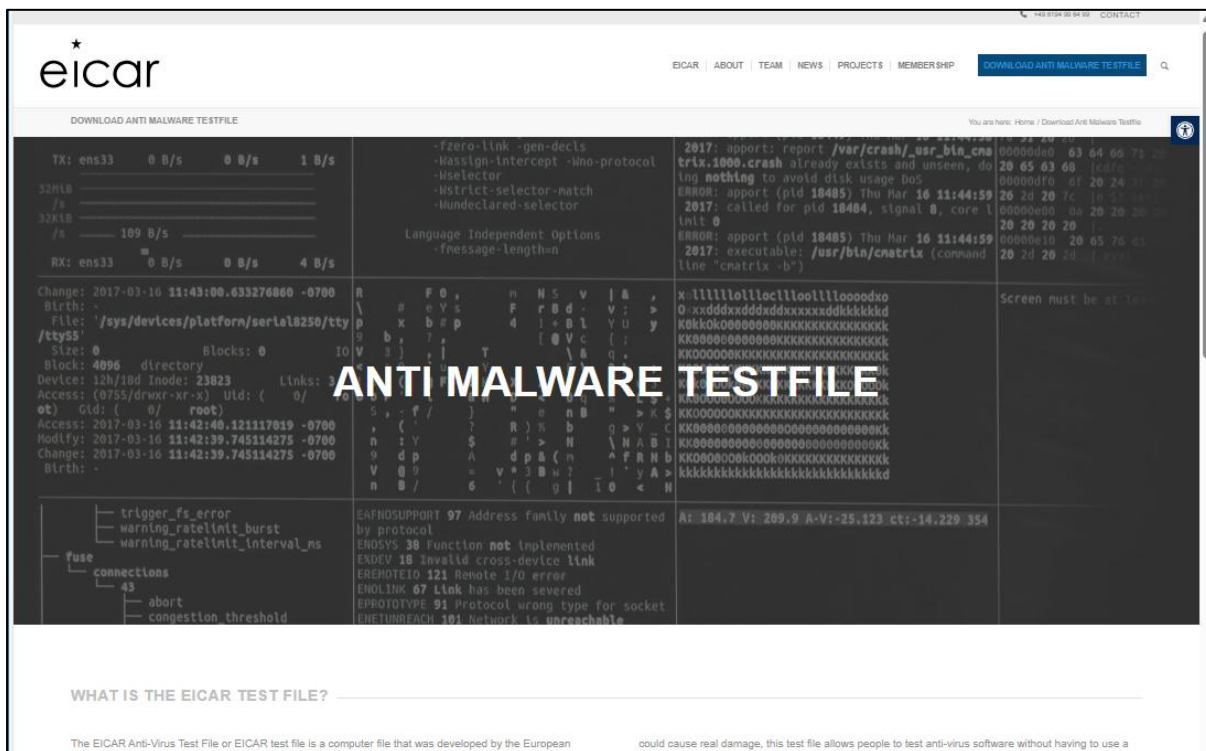
The screenshot shows the Arcserve UDP interface with the 'Log' tab selected. The table displays the following data:

重大度	時刻	サイト名	ノード名	生成元	ジョブ ID	ジョブの種類	メッセージ ID	メッセージ
×	2024/12/13 15:38:...	ローカル サイト		udp-svr	5	アシュアード セキュリティ	10817	アシュアード セキュリティ ジョブが失敗しました。
!	2024/12/13 15:38:...	ローカル サイト		udp-svr	5	アシュアード セキュリティ	20770	悪質なフォルダ/ファイルが見つかりました。詳細については、復旧ポイント サーバの [¥¥udp-svr¥UDP_M-DS0000¥nas-svrshare[63050691-99d3-bb1 4-19ef-a2eb7c54e6ff]¥VStore¥S0000000002¥AntivirusScanResult.CSV] ファイルを参照してください。
×	2024/12/13 15:38:...	ローカル サイト		udp-svr	5	アシュアード セキュリティ	11080	ボリューム [Volume¥¥?¥Volume[b9170d5e-f4c3-11e5-976b-000c298cc68d]¥] は悪質です。
!	2024/12/13 14:49:...	ローカル サイト	win-agt	win-agt	7	バックアップ	20054	ボリューム [D:] にはデータストア [R-DS] 用の共通パスが含まれます。そのため、これはバックアップ ジョブから除外されます。

<アシュアード セキュリティ スキャン失敗の種明かし>

今回の演習環境は、以下のサイトから入手したウイルススキャンのテスト用ファイルをバックアップ対象の共有フォルダ内に置き、増分バックアップを行っています。

このため、当該復旧ポイントのアシュアード セキュリティ スキャン中に疑似ウイルスを検知し、ジョブが失敗しました。



[Download Anti Malware Testfile – EICAR](https://www.eicar.org/download-anti-malware-testfile/)
(<https://www.eicar.org/download-anti-malware-testfile/>)

※ このサイトで提供されているウイルススキャンのテスト用ファイルを使用する場合は、提供サイトに記載された注意事項を確認ください。

⑨ 失敗のログを確認するため、再度スキャンを実行

[リソース]タブの[復旧ポイント サーバ]から[M-DS]を開いて[**nas-svr!share**]を選択し、右クリックメニューから[**アシュアード セキュリティ スキャンを今すぐ実行**]をクリック

<ローカル サイト> デスティネーション: udp-svr > M-DS

復旧ポイント		
サマリ		
アクション ▼		
ノード名	最新の復旧ポイント	復旧ポイントの数
▶ プラン:物理サーバのバックアップ - レプリケート		3
win-agt	2024/12/13 14:49:26	3
▶ プラン:(非保護)		2
nas-svr!share	2024/12/08 1:06:12	2

復旧ポイント	
サマリ	
アクション ▼	
ノード名	最新の復旧ポイント
▶ プラン:物理サーバのバックアップ - レプリケート	
win-agt	2024/12/13 14:49
▶ プラン:(非保護)	
nas-svr!share	2024/12/08 1:06:12
リフレッシュ	
リストア	
アシュアード セキュリティ スキャンを今すぐ実行	
削除	
今すぐマージ	

Copyright © 2014-2024, Arcserve,

⑩ 前回のスキャン結果の反映を確認

アシュアード セキュリティ スキャンのウィザード画面で前回確認した増分の復旧ポイントの**[アシュアード セキュリティ スキャン]**の結果が**エラーのステータス**であることを確認

ノード <nas-svr!share> の アシュアード セキュリティ スキャン

ソース復旧ポイント サーバを選択します。(ステップ 1 / 2)

このノードが使用されている場所から復旧ポイントを参照します。

ロケーション タイプ RPS 上のデータ ストア

復旧ポイントサーバ udp-svr

データ ストア M-DS

アシュアード セキュリティ スキャンを実行する復旧ポイントを選択します

日付	セッション名	時刻	アシュアード セキュリティ スキャン	アシュアード リカバリ	バックアップの種類	バックアップ スケジュー
最新						
2024/12/08	S00000000002	2024/12/08 1:06:12	× ダウンロード	!	増分	カスタム
今日						
昨日						
過去 7 日間						

ヘルプ 次へ キャンセル

アシュアード セキュリティ スキャンのステータスが "× ダウンロード" と表示

⑪ 失敗した結果ログのダウンロード

[ダウンロード]をクリックして、ブラウザのダウンロードが実行されることを確認

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection management console in a web browser. The browser's download bar is open, showing a file named "AntivirusScanResult_nas-svr!share_S00000000002_17363..." with a "ダウンロード" (Download) button. A blue arrow points from the "ダウンロード" button in the table below to the download bar.

ノード <nas-svr!share> の アシユアード セキュリティ スキャン

ソース復旧ポイント サーバを選択します。(ステップ 1 / 2)

このノードが使用されている場所から復旧ポイントを参照します。

ロケーション タイプ RPS 上のデータ ストア

復旧ポイントサーバ udp-svr

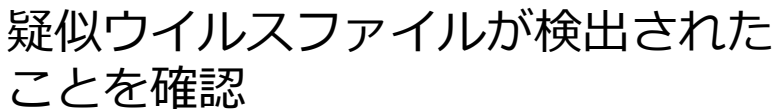
データ ストア M-DS

アシユアード セキュリティ スキャンを実行する復旧ポイントを選択します

日付	セッション名	時刻	アシユアード セキュリティ ス...	アシユアード リカバリ	バックアップの種類	バ...
最新						
2024/12/08	S00000000002	2024/12/08 1:06:12	× ダウンロード	!	増分	

※この演習では Edge を使用していますが、ダウンロードしたファイルが表示される場所は、ブラウザによって異なります。

ダウンロードしたCSVファイルをワードパットなどで開いて内容を確認



⑬ 正常な復旧ポイントのデータで再度ジョブを実行

右側のスクロールバーを下げて、[30日経過]を開き、[2024/12/08]からフルバックアップの復旧ポイント[セッション名: **S0000000001**]を選択し、[次へ]をクリック

ノード <nas-svr!share> の アシュアード セキュリティ スキャン

ソース復旧ポイント サーバを選択します。(ステップ 1 / 2)

日付	セッション名	時刻	アシュアード セキュリティ スキャン	アシュアード リカバリ	バックアップの種類	バックアップ スケジュール
2024/12/08	S0000000002	2024/12/08 1:06:12	× ダウンロード	!	増分	カスタム
▶ 今日						
▶ 昨日						
▶ 過去 7 日間						
▶ 過去 30 日間						
▲ 30 日経過						
2024/12/08	S0000000002	2024/12/08 1:06:12	× ダウンロード	!	増分	カスタム
	S0000000001	2024/12/08 0:39:16	?	!	フル	カスタム

ヘルプ 次へ キャンセル

⑭ アシュアード セキュリティ スキャンのジョブ実行

それぞれ前回と同じ内容を指定後に[完了]をクリックし、情報のメッセージで[OK]をクリック

ノード <nas-svr!share> の アシュアード セキュリティ スキャン

アシュアード セキュリティ スキャンの詳細 (ステップ 2 / 2)

Windows プロキシ サーバ ⓘ

仮想ハード ディスク ファイル フォルダ ⓘ プロキシ サーバ (udp-svr) 上

アンチウイルス スキャナ

タイムアウト (1 ~ 30 日)

電子メール アラート
☐ 成功したジョブのアラートを送信
☐ 失敗したジョブに対するアラートの送信

情報

アシュアード セキュリティ スキャン ジョブは正常にサブミットされました。

⑮ アシュアード セキュリティ スキャン実行の確認

[ジョブ]タブに移動して [進行中のジョブ]を選択し、アシュアード セキュリティ スキャン タスクの実行が問題無く終了することを確認

ダッシュボード リソース **ジョブ** レポート ログ 設定

進行中のジョブ

最新のジョブ

完了したすべてのジョブ

正常に完了したジョブ

失敗したジョブ

キャンセルされたジョブ

進行中のジョブ

アクション

☐ ジョブをプラン別にグループ化

☒	ステータス	タスク	ノード名	ジョブ時間	プラン名	進捗状況	
☒		アシュアード セキュリティ	nas-svr1share	2024/12/13 15:56:02	N/A	0% (0/234 項目)	詳細

アシュアード セキュリティ ステータス モニタ - nas-svr1share

アシュアード セキュリティ

進捗状況

フェーズ アシュアード セキュリティ スキャンを実行しています

キャンセル

0% (0/234 項目)

開始時刻 2024/12/13 15:56:02

経過時間 00:00:41

プロキシ サーバ UDP-SVR

仮想ハード ディスク ファイル フォルダ D:\AS-Mount

復旧ポイントサーバ udp-svr

データストア M-DS

復旧ポイント S00000000001

閉じる ヘルプ

⑩ 成功した結果のステータスを確認

ジョブ終了後、再度アシュアード セキュリティ スキャン の実行画面を開き、[2024/12/08]からフルバックアップの復旧ポイント[セッション名: **S0000000001**] のアシュアード セキュリティ スキャン のステータスが “” 成功していることを確認

ノード <nas-svr!share> の アシュアード セキュリティ スキャン

ソース復旧ポイント サーバを選択します。(ステップ 1 / 2)

アシュアード セキュリティ スキャンを実行する復旧ポイントを選択します

日付	セッション名	時刻	アシュアード セキュリティ スキャン	アシュアード リカバリ	バックアップの種類	バックアップ スケジュール
2024/12/08	S0000000002	2024/12/08 1:06:12	 ダウンロード		増分	カスタム
▷ 今日						
▷ 昨日						
▷ 過去 7 日間						
▷ 過去 30 日間						
◀ 30 日経過						
2024/12/08	S0000000002	2024/12/08 1:06:12	 ダウンロード		増分	カスタム
	S0000000001	2024/12/08 0:39:16			フル	カスタム

【チェックポイント】 成功した実行結果のログを確認

[ログ]タブに移動し、[重大度]で[すべて]を選択して[ジョブの種類]から[アシュアードセキュリティ]を選択
アシュアード セキュリティ スキャンの成功メッセージ[アシュアード セキュリティ スキャンが正常に完了しました]を確認

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定								
重大度	すべて	ノード名	ジョブ ID	ジョブの種類	アシュアード セキュリティ	更新	リセット	エクスポート 削除
時刻	すべて	生成元	メッセージ	メッセージ ID				
重大度	時刻	サイト名	ノード名	生成元	ジョブ ID	ジョブの種類	メッセージ ID	メッセージ
i	2024/12/13 15:57:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	30688		アシュアード セキュリティ ジョブが正常に完了しました。
i	2024/12/13 15:57:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	30689		アシュアード セキュリティ ジョブを停止しています。
i	2024/12/13 15:57:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	32189		スキャン済みアイテムの総数 = 234。
i	2024/12/13 15:57:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	32181		ボリューム [Volume¥¥¥¥Volume{b9170d5e-f4c3-11e5-976b-000c298cc68d}¥] のアンチウイルス スキャンが完了しました。
i	2024/12/13 15:57:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	32183		ボリューム [Volume¥¥¥¥Volume{b9170d5e-f4c3-11e5-976b-000c298cc68d}¥] は リーンです。
i	2024/12/13 15:56:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	32188		スキャンするアイテムの総数 = 234。
i	2024/12/13 15:56:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	32180		ボリューム [¥¥¥¥Volume¥¥¥¥Volume{b9170d5e-f4c3-11e5-976b-000c298cc68d}¥¥] のアンチウイルス スキャンを開始しています。
i	2024/12/13 15:56:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	30696		ノード: [nas-svr\share] に対するプレチェックが正常に完了しました。
i	2024/12/13 15:56:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	30681		リモート パス [¥¥udp-svr¥UDP_M-DS0000¥nas-svr\share[63050691-99d3-bb14-19ef-a2eb7c54e6ff]] に正常に接続されました。
i	2024/12/13 15:56:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	30664		テストの種類は [インスタント] です。
i	2024/12/13 15:56:...	ローカル サイト	udp-svr	7	アシュアード セキュリティ	30697		現在のプロセス ID は [16688 (svrshare)-(S0000000001)-JID(7)-PID(16688).log] です。

シナリオ 4 のハンズオンは以上で終了です

<参考> スキャン結果のエラーログファイルの作成場所

アシュアード セキュリティ スキャンでマルウェアが見つかった場合、以下の場所にエラーログのファイルが作成されます。

¥データストア フォルダ¥バックアップ対象ノード名¥VStore¥セッション名¥**AntivriusScanResult.CSV**

また、エラーログファイルの場所については各スキャンジョブのイベントログにも記録されます。

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定								
重大度	警告およびエラー	ノード名	×	ジョブ ID	×	ジョブの種類	すべて	
時刻	すべて	生成元	×	メッセージ	×	メッセージ ID	×	
								更新 リセット エクスポート 削除
重大度	時刻	サイト名	ノード名	生成元	ジョブ ID	ジョブの種類	メッセージ ID	メッセージ
×	2024/12/13 15:38:...	ローカル サイト		udp-svr	5	アシュアード セキュリティ	10817	アシュアード セキュリティ ジョブが失敗しました。
!	2024/12/13 15:38:...	ローカル サイト		udp-svr	5	アシュアード セキュリティ	20770	悪質なフォルダ/ファイルが見つかりました。詳細については、復旧ポイント サーバの [¥¥udp-svr¥UDP_M-DS0000¥nas-svr/share[63050691-99d3-bb14-19ef-a2eb7c54e6ff]¥VStore¥S0000000002¥AntivirusScanResult.CSV] ファイルを参照してください。

5. Arcserve UDP のライセンス

ライセンスの課金対象

ライセンスは「**バックアップ対象**」にのみ必要です。
バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。
Arcserve UDP コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS : バックアップ保存先サーバ) に
ライセンスは不要です。

バックアップ対象



物理サーバ



仮想サーバ



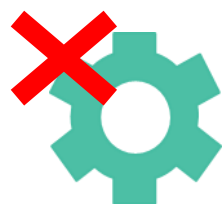
クライアントPC



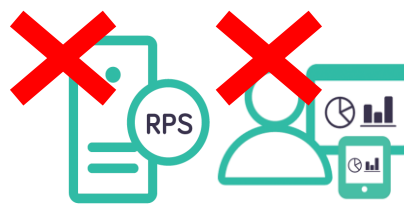
共有フォルダ



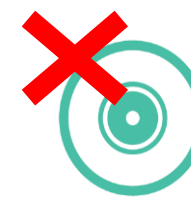
Microsoft 365 / IaaS



特定のオプション



管理コンポーネント



インストール

※ Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト) の両方にライセンスが必要です。

Edition の種類 と 含まれる機能

Edition	サーバ用			PC用
	Advanced/ for Nutanix	Premium	Premium Plus	Workstation
イメージ バックアップ / 共有フォルダ (CIFS/NFS ※1) のバックアップ	●	●	●	● ※6
バックアップ データの重複排除や転送 (レプリケート)	●	●	●	●
統合管理	●	●	●	●
仮想マシンのエージェントレス バックアップ (vSphere/Hyper-V/AHV ※1)	●	●	●	
仮想スタンバイ/インスタントVM	●	●	●	※2
VSS ライタを利用したアプリケーションのオンライン バックアップ ※3	●	●	●	※4
アシュアード リカバリ/SLAレポート	●	●	●	
バックアップ データのテープ保管 注:Arcserve Backupのインストールが必要です	●	●	●	●
アシュアード セキュリティ スキャン		●	●	
Oracle RMAN との連携バックアップ		●	●	
ハードウェアスナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / Nimble など)		●	●	
役割ベースの管理		●	●	
Arcserve Backup すべての機能 / 全エージェント/全オプションのライセンスが同梱 ※5		●	●	
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製用のライセンスが同梱		●	●	
Arcserve Replication/High Availability のすべての機能のライセンスが同梱 ※5			●	

※1 : AHV 上の仮想マシンまたは Nutanix Files のバックアップを行うには Advanced Edition for Nutanix を購入してください。

※2 : Workstation Edition では vSphere/Hyper-V への仮想スタンバイのみ行えます。

※3 : Microsoft 365 (Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams) の保護には、別途専用のサブスクリプションを提供しています。

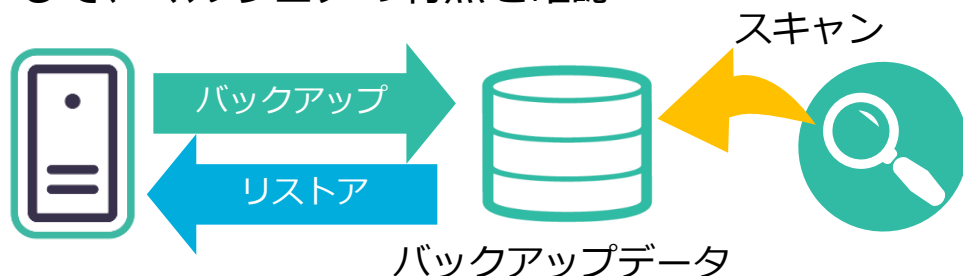
※4 : Microsoft SQL Server Express Editionのみオンライン バックアップをサポートします。

※5 : 「すべての機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品 (機能) が対象です。 ※6 : 共有フォルダのバックアップにはサーバ用ソケット ライセンスが必要です

Premium / Premium Plus Edition で 出来ること

アシュアード セキュリティ スキャン

自動または手動でバックアップデータをスキャンして、マルウェアの有無を確認



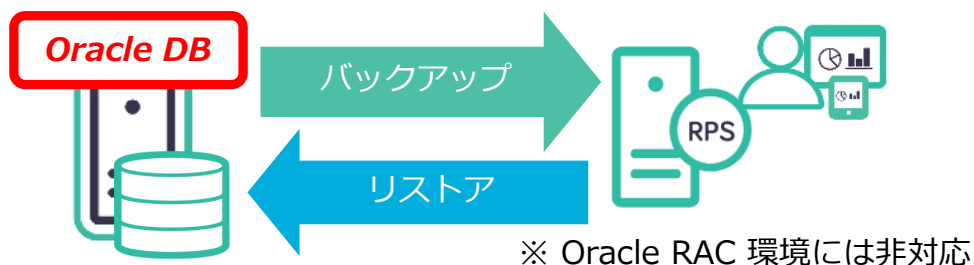
ハードウェア スナップショット対応

ストレージと連携して作成したスナップショットをSAN経由でバックアップ



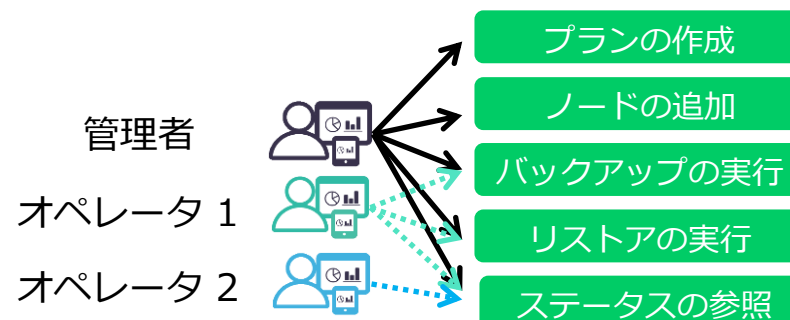
Oracle RMAN との連携バックアップ

Windows / Linux 上の Oracle データベース を Oracle RMANと連携し バックアップ/リストア



役割ベースの管理

ユーザごとに操作権限を設定してセキュリティを強化



Arcserve UDP Premium 特価キャンペーン

Arcserve UDP Premium 特価対応実施中！6月末まで

arcserve Japan合同会社

TEL: 0120-410-116 【平日 9:00~17:30】

お問い合わせはこちら

サイバー攻撃対策、必要なのは
データ復元力強化！

サイバー攻撃でサーバーがダウンしたら？

貴社のバックアップデータは万全ですか？復旧できますか？

Arcserve UDP Premium Edition で、もしもの時に、安全、安心、迅速
にデータ復旧を出来る体制を構築しましょう。

相談
受付中！

https://infojp.arcserve.com/lp_data_resilience

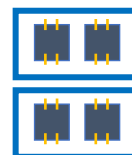
課金方法の選択



サーバ台数 課金 (per Server)

保護対象の物理サーバ台数分の
ライセンスを購入する
(物理サーバに適用)

Advanced



CPU ソケット数 課金 (per Socket)

保護対象サーバのCPUソケット
数分のライセンスを購入する
(未使用ソケット分は不要)

Advanced/
Premium/Premium Plus



データ容量 課金 (per Terabyte)

保護対象サーバの総データ容
量分のライセンスを購入する

Advanced/
Premium/Premium Plus

注 :

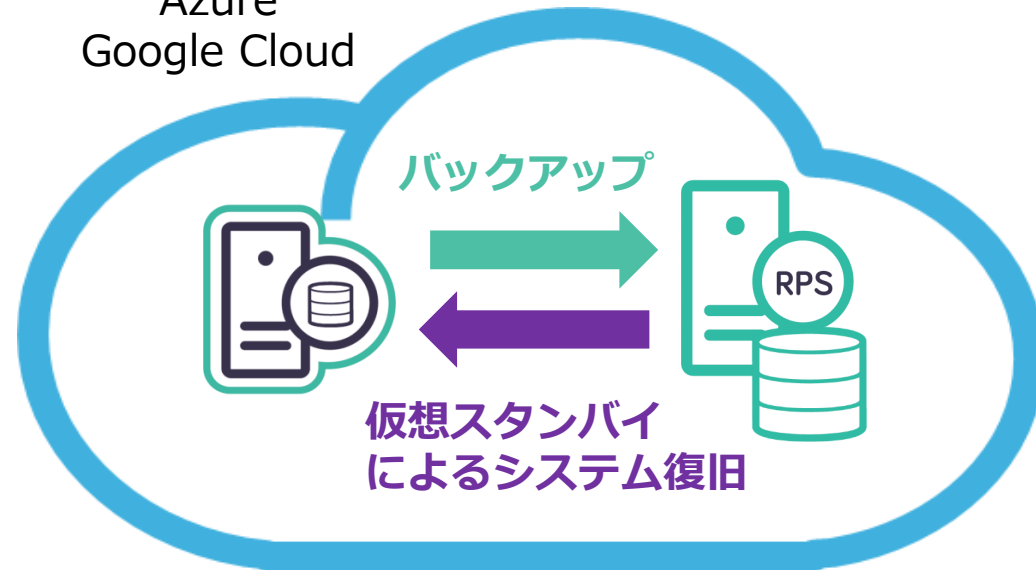
1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金
2. Exchange Online、SharePoint Online、OneDrive および Teams はユーザ数での課金

6. 参考情報

アドホック仮想スタンバイ ジョブ手動実行の利用例

クラウド VM のシステム復旧で利用

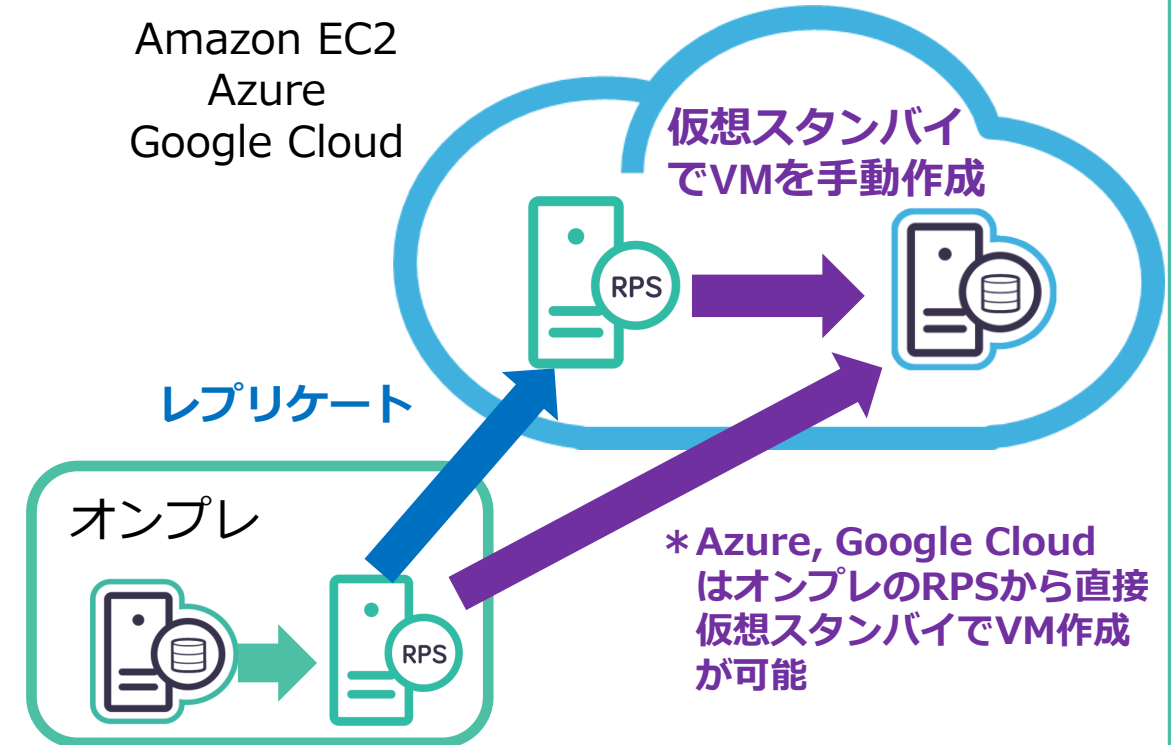
Amazon EC2
Azure
Google Cloud



Arcserve UDP コンソールから簡単な操作でクラウド VM のシステム復旧が可能

必要時のみクラウドインスタンスを作成

Amazon EC2
Azure
Google Cloud



必要時のみ代替えVM用のクラウドリソースを利用して課金を抑えることが可能

アシュアード リカバリ：復旧ポイントを確認する2つの方法

インスタントVM方式



インスタントVM

[確認できるポイント]

- システムが起動可能か？
- サービス実行が可能か？
- アプリケーション サービスの整合性は取れているか？
(カスタムスクリプトを利用)

[利用条件]

- インスタントVMの実行条件を満たす物理/仮想OS
- インスタントVMの仮想基盤は vSphere / Hyper-V / AHV (Linux VM のみ)

本番ネットワーク
とは分断して起動できる！
確認用ディスク スペース
は不要！

インスタント仮想ディスク方式



インスタント仮想ディスク

[確認できるポイント]

- ファイル システムの整合性が取れているか？
- ディスクに破損はないか？
 - ✓ chkdsk による確認も可能
- 特定ファイルの読み出しが可能か？
(カスタムスクリプトを利用)

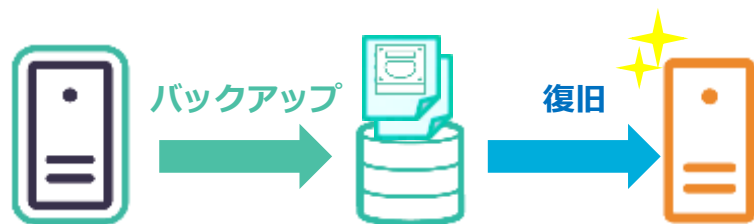
[利用条件]

- Windows のデータ ボリューム、共有フォルダ、Microsoft 365、Oracle RMAN のバックアップ

仮想環境不要！
確認用ディスク
スペースも不要！

管理コンポーネントの保護方法

Arcserve UDP を使ってバックアップ



- OSとコンソールを丸ごとバックアップ / リストア
- P2P、P2Vも可能

-OSを含めてコンソールの復旧が簡単

-Arcserve UDPのライセンスが必要

※ Arcserve UDP Appliance (後述) では、自身をバックアップするための Arcserve UDP のライセンスがバンドルされています

ConsoleMigration (※) を利用



- コンソールDBデータのバックアップ やリストア
- UDPコンソールの移行に利用

- ツールの活用でUDPライセンス不要
- コンソールサーバの更改時の工数削減

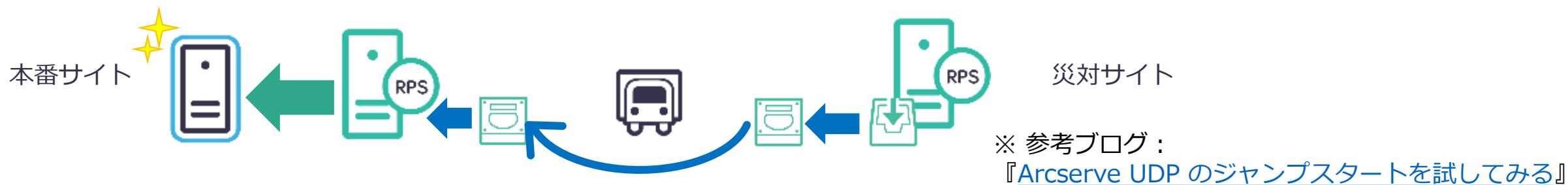
- コマンドラインでの実行
- リストア先のOSやコンソールの準備

※ Console Migration の詳細は以下マニュアルをご参照ください
[Arcserve UDP コンソールの移行を実行する方法](#)

災害対策サイトのバックアップデータを使った復旧

1. RPS ジャンプスタート機能を利用

バックアップデータを USB ディスクなどの媒体を使って本番サイトに搬送し、本番サイトの RPS に取り込んで BMR 等で復旧



2. レプリケート機能を使い、本番サイトに転送

災害対策サイトで仮運用した業務サーバをバックアップし、本番サイトへ逆向きにレプリケート後、本番サーバを BMR 等で復旧

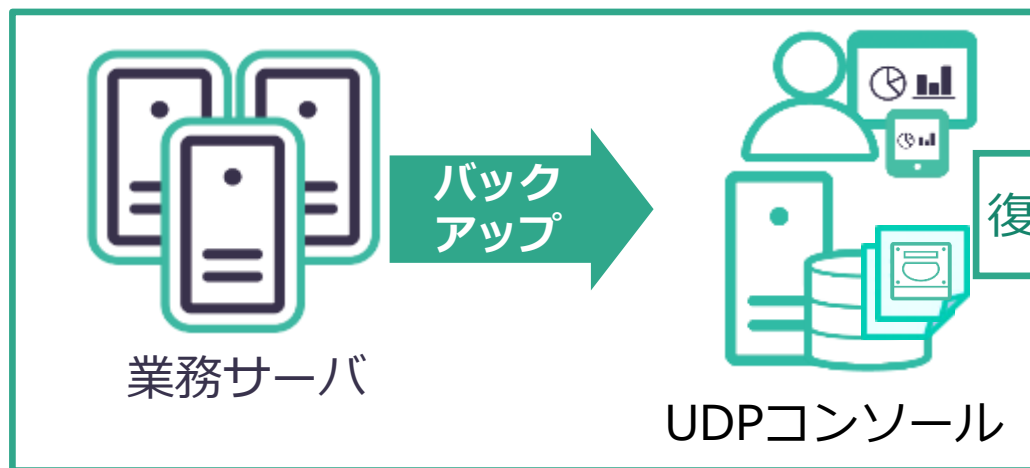


オブジェクトロック クラウドストレージへの対応

不変（オブジェクト ロック機能）が有効なクラウド ストレージに対応し、バックアップ データの改ざんを防止

- Amazon S3
- Wasabi Hot Cloud Storage

オンプレミス



オブジェクト ロック
有効のバケット



- Nutanix Objects

法規制やコンプライアンス
などのデータ保持に利用

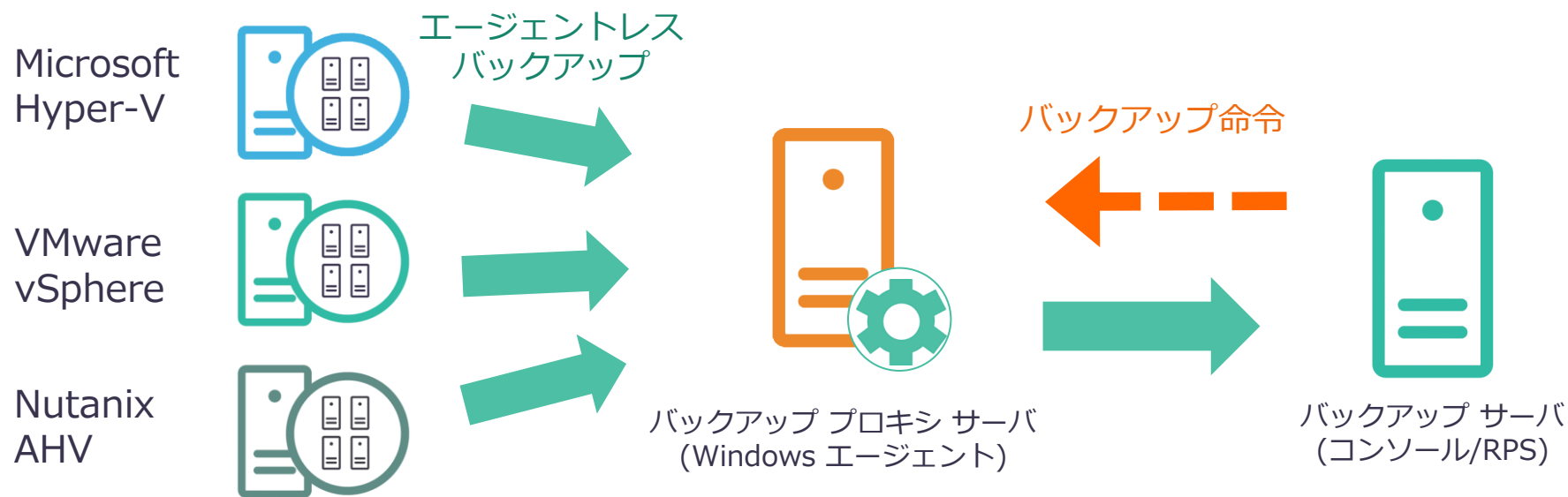
ストレージ側の設定で
保持期間後の削除も可能

フルイメージを戻して
システム復旧の利用が可

バックアップ プロキシ サーバ

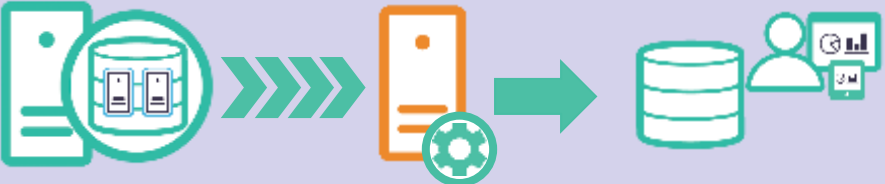
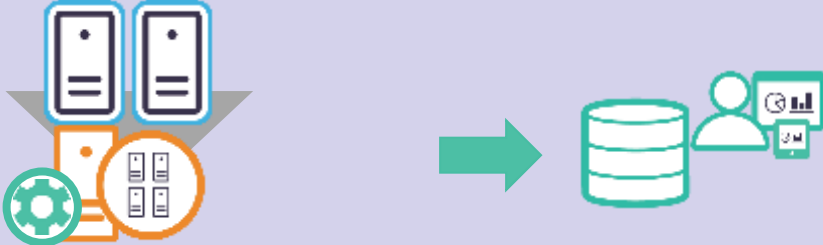
バックアップ プロキシ サーバとは

仮想ホストから仮想マシンの情報を受け取り、バックアップおよびリストアの処理を行う、**Arcserve UDP Windows エージェント**を導入した物理または仮想サーバ



バックアップ プロキシ サーバは **UDPコンソールまたは RPS と同居可**

バックアップ プロキシ サーバの配置場所

プロキシの配置場所 \ 仮想環境	VMware vSphere	Microsoft Hyper-V	Nutanix AHV
物理サーバにプロキシを構築 	✓	✓	✓
仮想サーバにプロキシを構築 (Hot-Add) 	✓	✓	✓
仮想ホストにプロキシを構築 		✓	

バックアップデータのネットワーク指定

複数の NIC を使用して業務用とバックアップ用 LAN を構成している場合、バックアップやリストア、レプリケートで使用するネットワークの指定が可能！

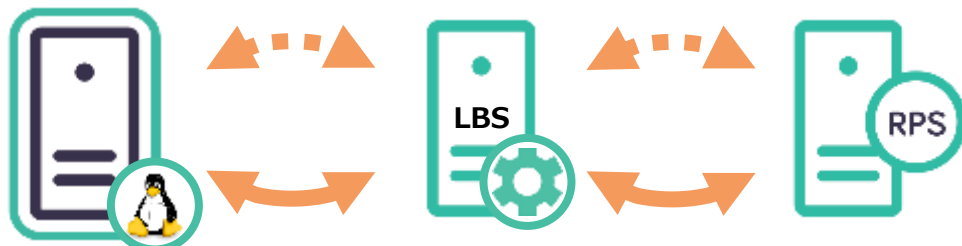
Windows のバックアップ/リストア



RPS 間のレプリケート

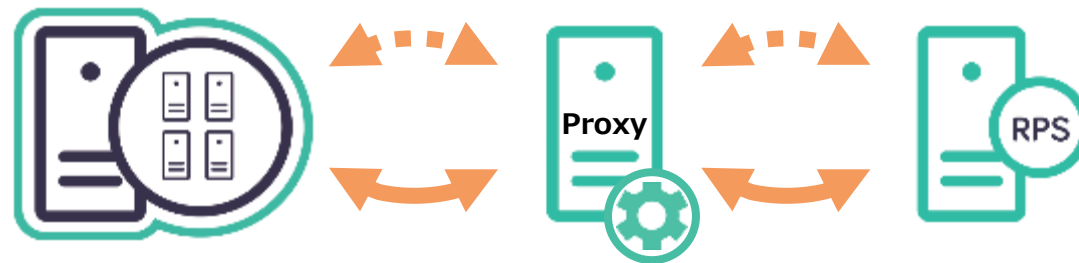


Linux Agentのバックアップ / ファイルリストア



※Linux環境のファイル単位のリストアを行う場合は、Agent / AgentLess に関わらず Linux Backup Serverが必要です。

エージェントレスバックアップ / VM の復旧



ネットワーク指定の設定例

- バックアップやレプリケートタスクの設定や、リストアのウィザード画面で指定が可能
- [選択したネットワークに接続できない場合でも、ジョブを開始する] オプションを有効にすると、バックアップ用 LAN で接続が失敗した時、自動で業務用 LAN を使ってジョブを実行

ソース デスティネーション スケジュール 拡張

デスティネーションの種類 ☐ ローカルディスクまたは共有フォルダ ☒ Arcserve UDP 復旧ポイントサーバ

復旧ポイント サーバ

データストア

パスワードによる保護 ☐

セッション パスワード

セッション パスワードの確認

☒ バックアップトラフィックに選択したネットワークを使用

☒ 選択したバックアップ ネットワークに接続できない場合でも、ジョブを開始します

192.168.15.0/24 ←業務用
192.168.10.0/24 ←バックアップ用

リストア

リストア オプション

デスティネーション
リストア先を選択します。

☒ 元の場所にリストアする

☐ 別の場所にリストアする

☒ リストア トラフィックに選択したネットワークを使用

☒ 選択したデスティネーション ネットワークに接続できない場合でも、ジョブを開始する

さまざまなタスク

タスク 1 で主にバックアップ系のタスクを設定し、タスク 2 以降で後続の管理タスクを設定

プラン

タスク 1

タスク 2

タスク 3

...

Windows / Linux
バックアップ

エージェントレス
バックアップ

UNC/NFSの
バックアップ

M365の
バックアップ

レプリケート

仮想スタンバイ ※1

復旧ポイントのコピー ※2

ファイル コピー ※3

ファイル アーカイブ ※3

テープへのコピー

アシュアード リカバリ テスト

リモートで管理された RPS へのレプリケート

※1 Windows のみ

※2 Linux エージェント ベースでは利用不可

※3 Windows エージェント ベースのみ

リモート RPS からの
データのレプリケート

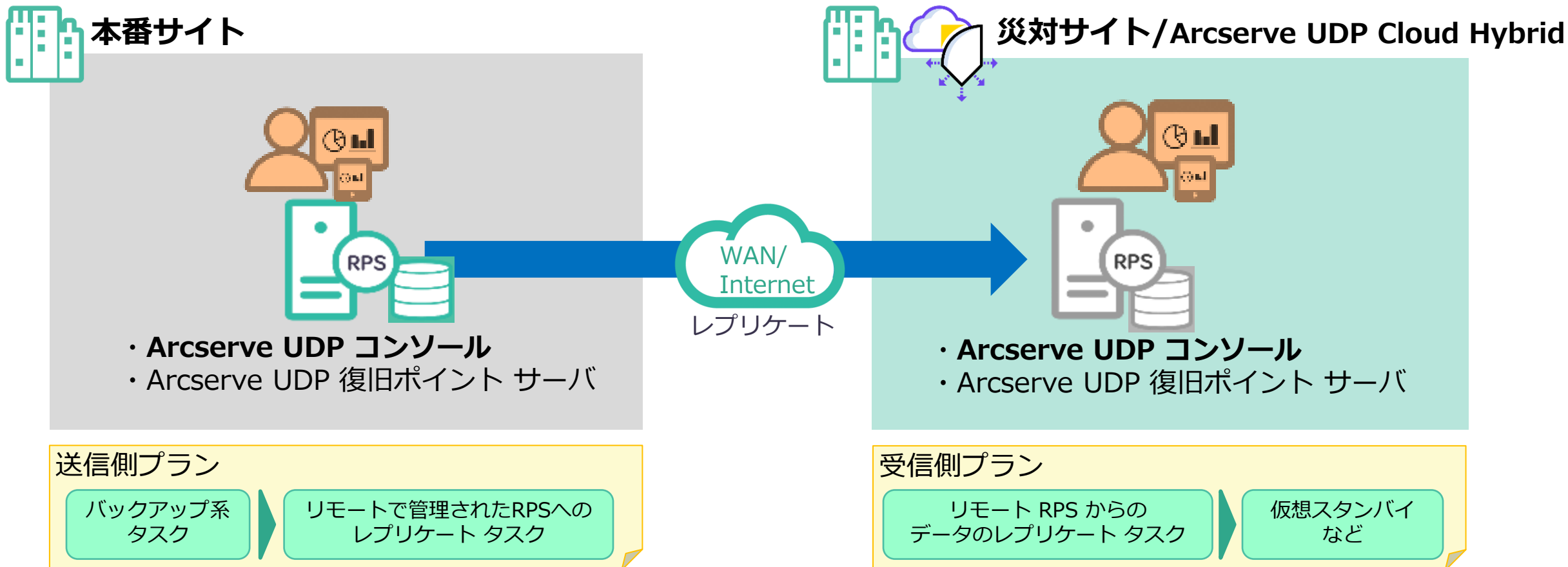
仮想スタンバイ、レプリケート、アシュアードリカバリ テスト、
リモートで管理されている RPS へのレプリケート

複数コンソール環境の
レプリケート先で利用

参考資料 (ソリューション ガイド) : [プランおよびタスクについての理解](#)

複数のコンソールを使用したレプリケート

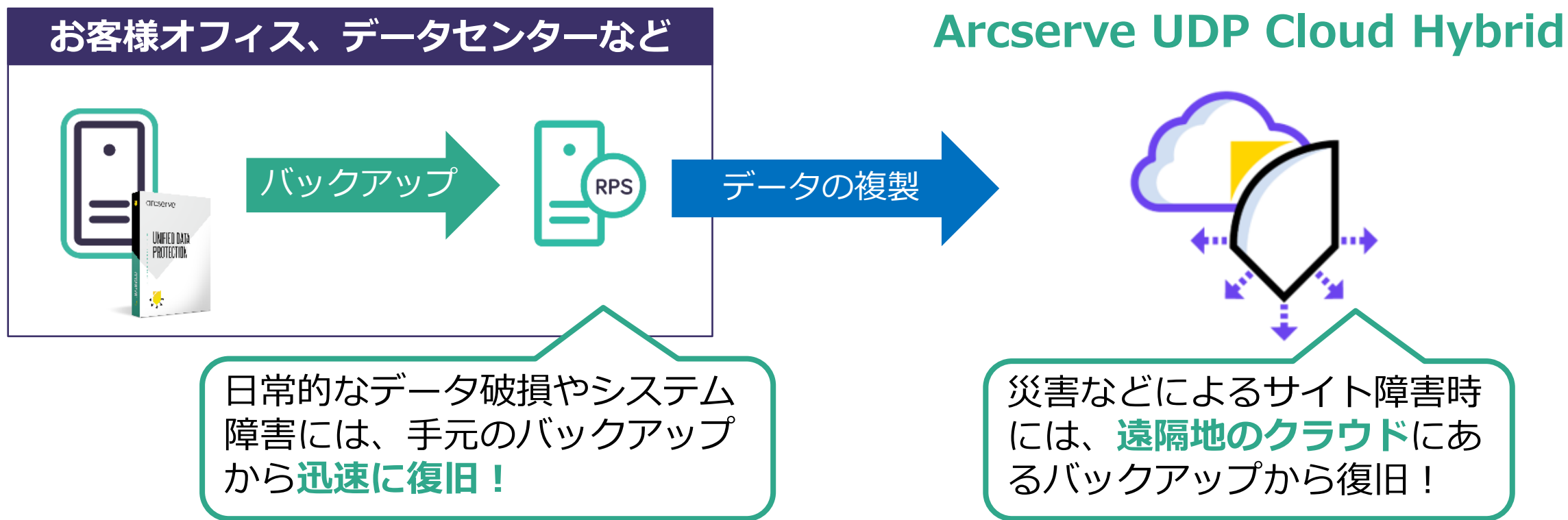
本番サイトが全損しても、災対サイトやArcserve UDP Cloud Hybridに配置した異なるUDP コンソールで復旧操作が可能





Arcserve クラウドサービス ～ Arcserve UDP Cloud Hybrid とは ～

Arcserve UDP / Arcserve UDP Appliance が持つ復旧ポイントサーバ（RPS）間のレプリケート（複製）機能を活用し、オンプレミスでの利便性の高いバックアップと、災害に備えた遠隔バックアップの「**ハイブリッド**」を実現するサービスです。

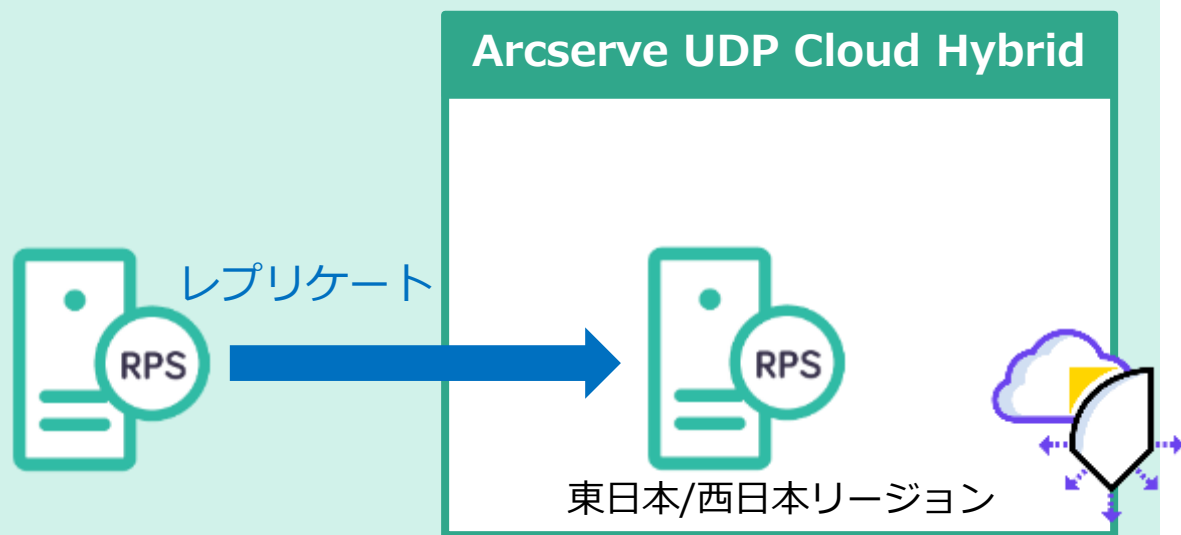


年額固定料金で簡単見積もり！

Arcserve UDPに特化した2つのクラウドサービス

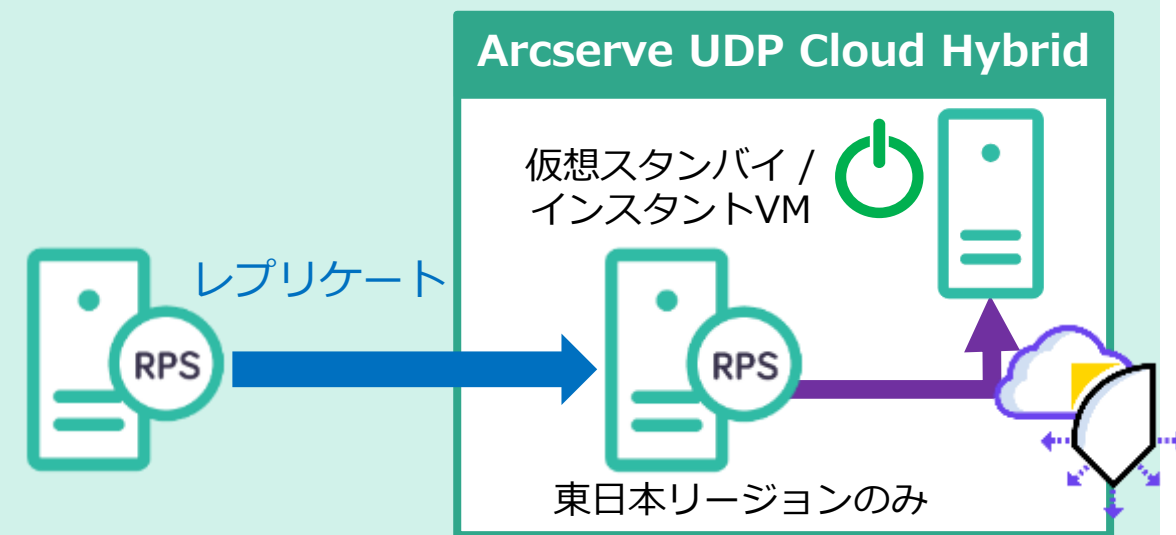
BaaS (Backup as a Service : バックアップ サービス)

Arcserve UDP Cloud Hybrid に復旧ポイントサーバ (RPS) 内のバックアップデータを複製する方式。



DRaaS (Disaster Recovery as a Service : 惨事復旧サービス)

バックアップデータの複製に加えて、本番システムの代替仮想マシンを起動できる方式。



※ DRaaSをご希望の場合は、新規契約時に1つ以上のコンピュータリソースサブスクリプションの購入が必要です。

簡単見積もり Arcserve UDP Appliance (アプライアンス製品)

サイジング不要で設定も簡単、バックアップ対象が増えてもライセンスの心配無し！

バックアップ
ソフトウェア



バックアップ用
ハードウェア



5年間
メンテナンス付

Arcserve UDP **プリインストール**
ライセンスフリー

ハードウェア**検討が不要**

2年目以降の**更新費用不要**

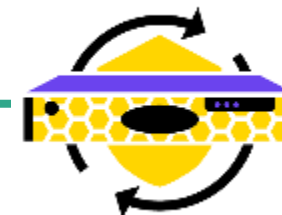


1U モデル	価格(税込)
9200 v2 (RAID-5: 12TB)	6,490,000 円
9200-6 v2 (RAID-6: 8TB)	5,390,000 円
9220 v2 (RAID-5: 24TB)	9,790,000 円
9220-6 v2 (RAID-6: 16TB)	8,690,000 円
2U モデル	価格(税込)
9400 v2 (RAID-6: 40TB)	14,190,000 円
9420 v2 (RAID-6: 80TB)	19,690,000 円

サポート対応

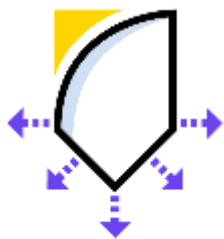
- ✓ **Arcserve テクニカルサポート**にて窓口対応。
Arcserveでワンストップサービスを提供
- ✓ ハードウェア故障は**オンサイト**（現地訪問）対応
部品交換が必要な場合、現地訪問は問題特定から4時間駆けつけ目標（※1）
- ✓ メンテナンス期間内であれば、Arcserve UDP の**無償アップグレード**が可能
（アップグレード作業はお客様にて実施いただきます）

※1 サービス拠点(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)より30km圏内での目標となります。



ご案内

Arcserve 無償ハンズオン トレーニング



Arcserve UDP <前編> 簡単、まるごと、イメージバックアップ

Arcserve UDP <後編> 災害対策、業務継続を適切なコストで実現

Arcserve UDP for Linux



Arcserve Backup 「入門コース」



Arcserve Replication/HA <前編> 災害対策・業務継続に！

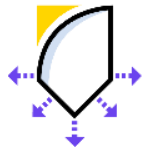
Arcserve Replication/HA <後編> 災害対策・業務継続に！

Arcserve オンライン トレーニング

弊社オフィスにて定期開催している、ハンズオン トレーニングへの参加が困難な方向けに、同等の内容を録画した **オンライン トレーニング**を実施しております。

実際に構築作業を控えているエンジニアの皆様から「簡単だった！」と好評頂いている無償ハンズオン トレーニングの内容をそのままに、**ご自席で、いつでも視聴**いただけます。

ぜひご参加ください。



- ・ Arcserve UDP <前編>
- ・ Arcserve UDP <後編>
- ・ Arcserve UDP for Linux

[お申込はこちらから](#)

[お申込はこちらから](#)

[お申込はこちらから](#)



- ・ Arcserve Backup 「入門コース」
- ・ Arcserve Backup 「Disaster Recovery Option コース」

[お申込はこちらから](#)

[お申込はこちらから](#)



- ・ Arcserve Replication/HA <前編>
- ・ Arcserve Replication/HA <後編>

[お申込はこちらから](#)

[お申込はこちらから](#)



- ・ Arcserve Cloud Direct はじめてみよう！クラウドバックアップ

[お申込はこちらから](#)

Arcserve 無償 Web セミナー

Web セミナー (ライブ配信)

- ・ ランサムウェア攻撃後にビジネスを早期再開している組織の共通点
- ・ 業界別 BCP 最適解：業界特有の課題に対応したデータ保護ソリューションとは？
- ・ データを災害から守る！クラウド バックアップと活用事例
- ・ 仮想基盤移行を全方位で考える
～失敗しない計画立案から移行後のバックアップまで～

Web セミナー (アーカイブ配信)

- ・ 新製品 Arcserve UDP 10 説明会 ～サイバー レジリエンスを次の段階へ～
- ・ Arcserve UDP復旧ポイントサーバ (RPS) のサイジング

他にもあります！

Arcserve セミナー

検索



製品情報とお問い合わせ窓口



Arcserve ポータルサイト : www.arcserve.com/jp
カタログセンター（カタログ、技術資料）

Arcserve カタログセンター

検索



Arcserve ジャパン ダイレクト（購入前のお問い合わせ）

例：「この構成に必要なライセンスを教えてください」、
「Arcserve UDP はXXXに対応していますか？」、
「XXXはサポートされますか？」



フリーダイヤル : **0120-410-116**

（平日 9：00～17：30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます）

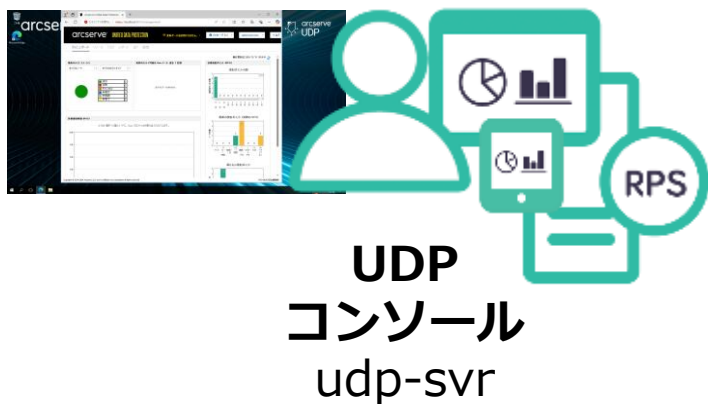
Webフォーム : <https://www.arcserve.com/jp/contact-us>

付録：インスタントVMの作成手順の紹介

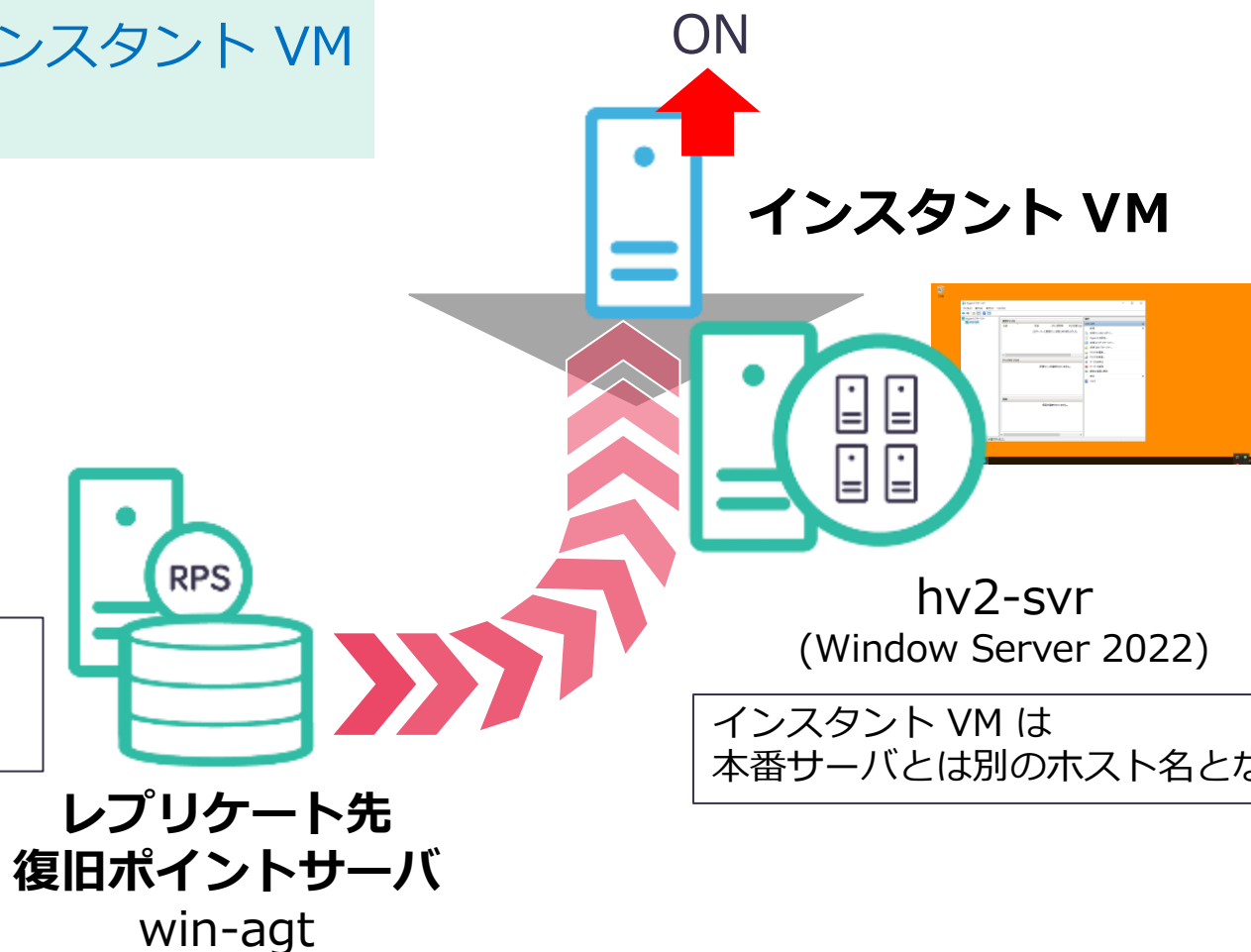
インスタント VM の作成手順

この資料の手順ではレプリケート先の復旧ポイントを使用し、Hyper-V 上にインスタントVMを作成し実行します

- ① 対象サーバを選択して、インスタント VM のウィザードを実行



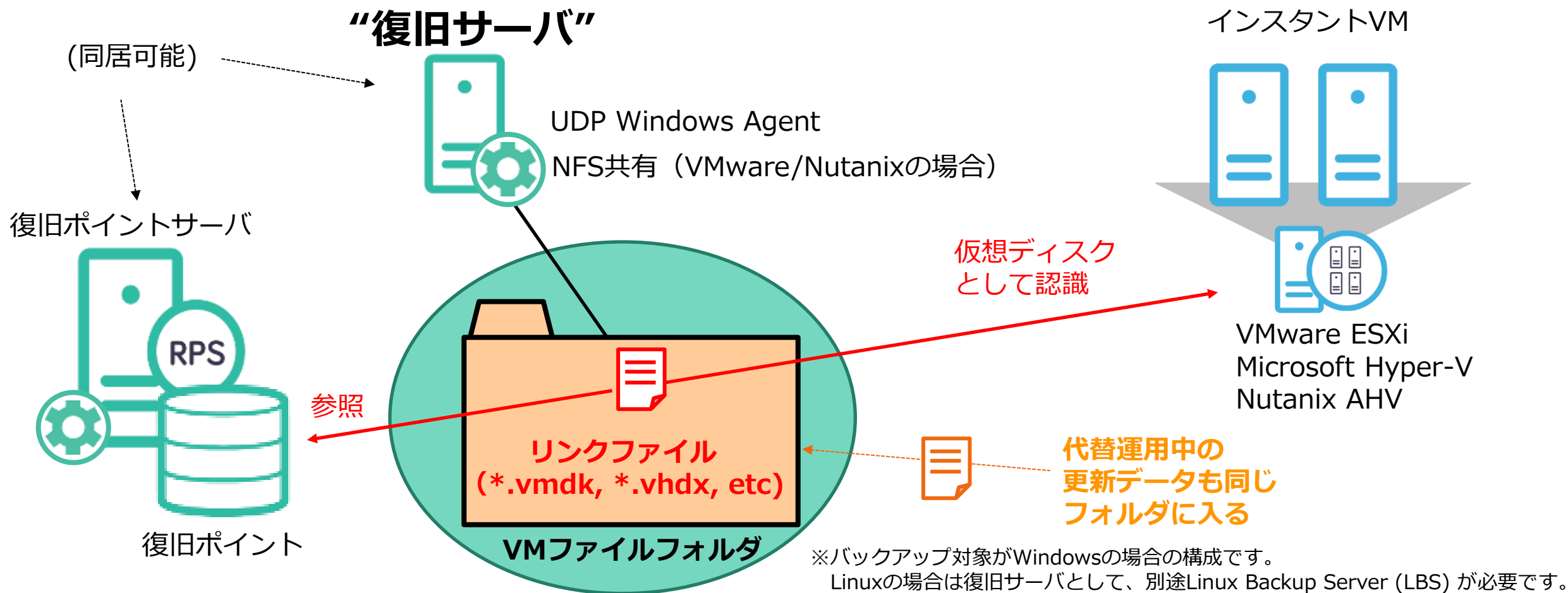
こちらの手順では
レプリケート先の復旧ポイントから
インスタント VM を作成し実行します



インスタント VM は
本番サーバとは別のホスト名となるよう指定します

インスタント VM の構成

“復旧サーバ” が復旧ポイントと仮想環境を仲介



① インスタント VM ウィザードの開始

[プラン グループ] を展開し、[仮想マシンのバックアップ-レプリケート-仮想スタンバイ] を選択
対象ノードの右クリックメニューから [インスタント VM の作成] をクリック

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

ノード: 仮想マシンのバックアップ-レプリケート-仮想スタンバイ

アクション | ノードの追加

ステータス	ノード名	VM 名
✓	VM(vm2-svr)	vm2-svr
✓	vm1-svr	vm1-svr

ジョブ

- 今すぐバックアップ
- 一時停止
- ハートビート
- 仮想スタンバイ
- スタンバイ VM

管理

- 更新
- 削除
- エクスポート
- 確認済みアラート

実行

- エージェントのインストール/アップグレード
- 診断情報の収集
- プレフライト チェック

アクション

- インスタント VM の作成
- 今すぐレプリケート

② ステップ 1/5 - ソース復旧ポイント サーバの選択

[復旧ポイントサーバ] より 2 次複製された復旧ポイントからインスタントVMを作成するため **win-agt** を選択し、[データストア] や 起動させる 復旧ポイントの [RPS 日付] , [セッション名]を確認し、[次へ] をクリック

インスタント VM (2 ノード) の作成

ソース復旧ポイント サーバを選択します。(ステップ 1 / 5)

このノードが使用されている場所から復旧ポイントを参照します。

ノード名	VM 名	VM タ...	復旧ポイント サーバ	データ ストア	RPS 日付	セッション名	アクシ...
VM(vm2-svr)	vm2-svr		win-agt	R-DS	2024/12/20 14:26:52	S00000000001	
vm1-svr	vm1-svr		udp-svr win-agt	M-DS	2024/12/20 14:26:52	S00000000001	

ヘルプ 次へ キャンセル

③ ステップ 2/5 – VMの場所の指定

インスタントVMを実行する各ノードで [ハイパーバイザの種類] から [Microsoft Hyper-V] を選択、新しいハイパーバイザの追加から、インスタントVMを実行するハイパーバイザの接続情報を入力または、選択後 [次へ] をクリック

インスタント VM (2 ノード) の作成

VM の場所 (ステップ 2 / 5)

ハイパーバイザまたはクラウドを インスタント VM のホストの場所として指定します。

ノード名	VM 名	VM タイプ	ハイパーバイザの種類	ホスト	VM ストレージの場所
VM(vm2-svr)	vm2-svr		Microsoft Hyper-V		設定
vm1-svr	vm1-svr		Microsoft Hyper-V	+ 新しいハイパーバイザの追加 hv1-svr	設定

※ 仮想ホストがプルダウンリストから見つからない場合、
[新しいハイパーバイザの追加]をクリックして登録

ヘルプ 前に戻る 次へ キャンセル

ハイパーバイザの追加

Hyper-V サーバまたはクラスタの情報を入力する

Hyper-V ホスト名/IP アドレス hv2-svr

ユーザー名 administrator

パスワード 

クラスタの場合、クラスタ管理権限を持つドメイン アカウントが必要です。

ヘルプ OK キャンセル

④ ステップ 3/5 – 復旧サーバの指定

復旧サーバ（インスタントVMプロキシ）が利用要件を満たしているか確認し、[次へ] をクリック

インスタント VM (2 ノード) の作成

復旧サーバ (ステップ 3 / 5)

次の各ノードのマシンを復旧サーバとして指定するか割り当てます:

ノード名	VM 名	VM タイプ	復旧サーバ	プランの詳細
VM(vm2-svr)	vm2-svr		hv2-svr	
vm1-svr	vm1-svr		hv2-svr	

※ VMware vSphere や Nutanix AHV の場合は、RPSもしくはUDP Windows Agent 導入済みサーバを「復旧サーバ」として指定 (NFS機能が有効化されます)

※ Hyper-V の場合は、Hyper-V ホストが復旧サーバを兼用するため指定不要

※ Linuxサーバ の IVM では、Linux Backup Server を復旧サーバとして指定

ヘルプ

前に戻る

次へ

キャンセル

⑤ ステップ 4/5 – 仮想マシンの設定

それぞれの仮想マシン タブから、[VM ファイル フォルダ] を指定します。[参照] から任意のフォルダ（デモでは事前作成した [IVM] フォルダ）を指定するか、新規にフォルダを作成し選択後、[OK] をクリック

インスタント VM (2 ノード) の作成

仮想マシン設定 (ステップ 4 / 5)

ゲスト オペレーティング システムの仮想マシン ハードウェア設定を構成します。

vm1-svr vm2-svr

VM 名 UDPIVM_vm1-svr

説明

VM ファイル フォルダ 復旧サーバ上 (hv2-svr)
D:\IVM 参照

CPU 数 1

メモリ サイズ 512 MB 15359 MB 4096 MB
(使用可能: 10435 MB)

ネットワーク アダプタ + アダプタの追加 | DNS の更新

仮想ネットワーク 種類 IP アドレス アクション

VM ファイル フォルダ

フォルダの選択

- C:
- VM_Vol (D:)
 - IVM
 - UDPVM

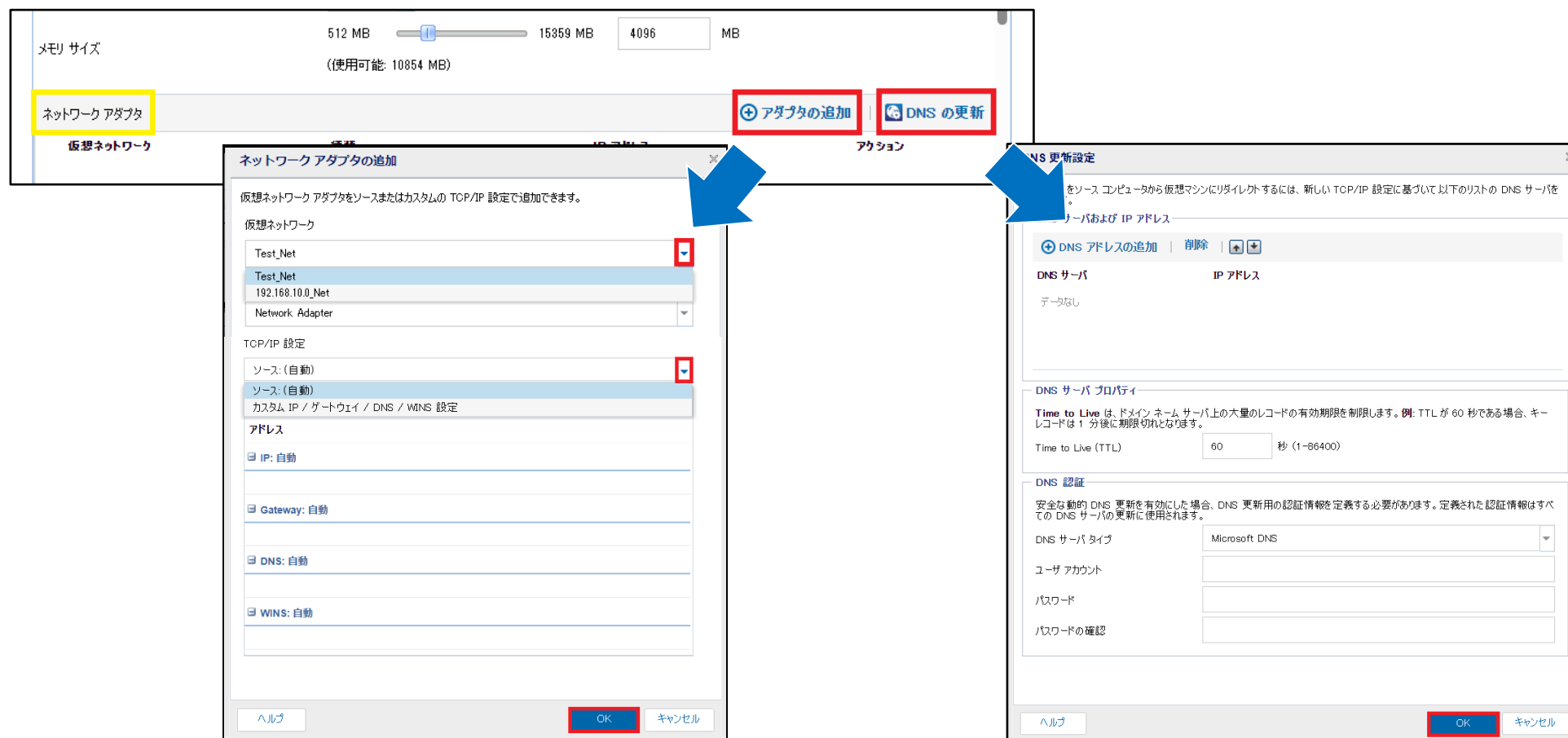
フォルダ名 D:\IVM

OK キャンセル

フォルダの新規作成

⑥（ステップ 4/5 仮想マシンの設定） ネットワークアダプタ

ネットワークへ接続する場合は、[アダプタの追加]、[DNSの更新] より、環境に合わせて設定が可能



⑦（ステップ 4/5 仮想マシンの設定）ホスト名の変更

ホスト名を変更する場合は、[ホスト名の変更] にチェックを入れ、ドメインに参加が必要であれば、ドメインアカウント情報を入力し [次へ] をクリック

The screenshot shows a wizard window titled 'Host Name Change' with a red checkmark in the top-left corner. The window contains the following elements:

- Host Name Change:** A checkbox that is checked.
- Informational Messages:**
 - A blue box with an 'i' icon: 'ホスト名を変更した後は、再起動が必要です。仮想マシンは自動的に再起動されます。'
 - A blue box with an 'i' icon: 'ドメインにすでに参加している仮想マシンのホスト名を変更すると、元のホスト名がドメインから削除されます。その結果、ソース マシンは、ドメインに再度追加しない限り、ドメインにログインできなくなります。'
- New Host Name:** A text input field containing 'vm1-ivm', which is highlighted with a red rectangle.
- Domain Participation Note:** A text block stating: 'ドメインに参加したマシンのホスト名を変更する場合には、ホスト名の変更用の認証情報を定義する必要があります。定義された認証情報は、ドメイン内のホスト名の変更に使用されます。'
- Account Fields:** Three text input fields labeled 'ユーザ アカウント', 'パスワード', and 'パスワードの確認'.
- Navigation Buttons:** At the bottom, there are three buttons: 'ヘルプ' (Help), '前に戻る' (Back), and '次へ' (Next), with the '次へ' button highlighted in red. A 'キャンセル' (Cancel) button is also present.

※ ホスト名変更やドメイン参加を行う場合は、再起動が発生します

⑧ ステップ 5/5 サマリの確認と起動の設定

[完了] をクリック、VM の起動確認のポップアップが表示されるので、すぐに起動しない場合は [後で起動] をクリック

サマリ (ステップ 5 / 5)

ノード名	VM タイプ	インスタント VM 名	ハイパーバイザの種類	ホスト	ソース RPS	復旧サーバ	起動シーケンス
VM(vm2-svr)		UDPIVM_vm2-svr	HYPERV	hv2-svr	win-agt	win-agt	 
vm1-svr		UDPIVM_vm1-svr	HYPERV	hv2-svr	win-agt	win-agt	 

VM の起動トリガ間の遅延: 0 秒  600 秒 0 秒

※複数のインスタントVMの起動間隔を定義

VM の起動

? 作成が成功した場合にすぐインスタント VM を起動しますか?

今すぐ起動 **後で起動** キャンセル

ヘルプ 前に戻る **完了** キャンセル

⑨ インスタント VM の起動

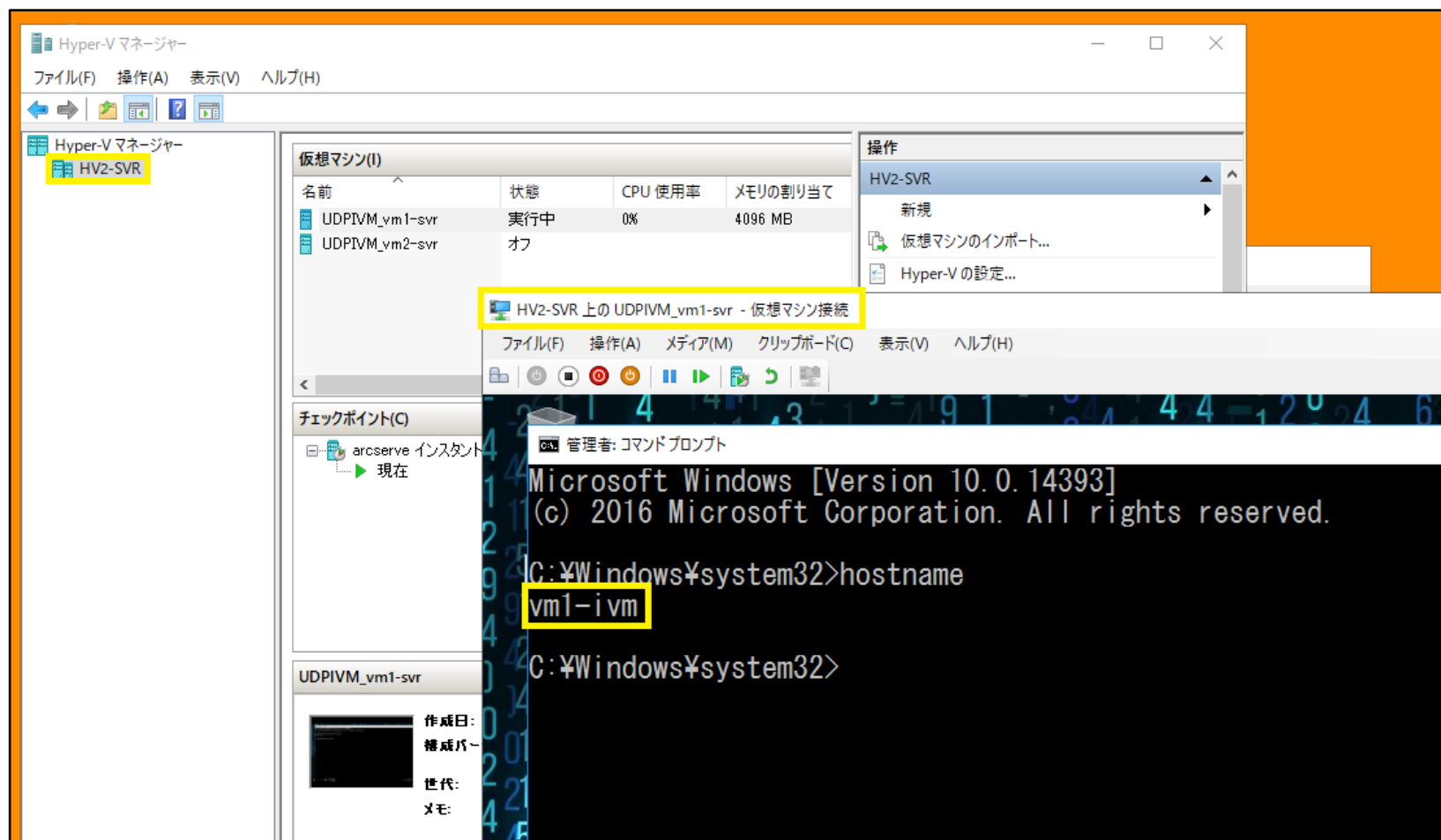
[リソース] - [インフラストラクチャ] - [インスタント VM] から 起動したいインスタント VM を右クリックし [電源オン] をクリック

The screenshot shows the Arcserve UDP web interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード', 'リソース' (highlighted with a yellow box), 'ジョブ', 'レポート', 'ログ', and '設定'. Below the navigation bar, the breadcrumb path is 'インフラストラクチャ > インスタント VM'. The left sidebar shows a tree view with 'インフラストラクチャ' expanded, and 'インスタント VM' selected (highlighted with a red box). The main content area displays a table of Instant VMs. The first VM, 'UDPIVM_vm1-svr', is selected (checkbox checked, highlighted with a red box). A context menu is open over this VM, showing the '電源オン' (Power On) option highlighted with a red box. The table has columns: 'ステータス', 'VM 名', 'VM ステータス', '復旧ポイント', and 'VM の場所'.

ステータス	VM 名	VM ステータス	復旧ポイント	VM の場所
☒	UDPIVM_vm1-svr	電源オフ	2024/12/20 14:26:52	hv2-svr(Microsoft Hyper-V)
☐	UDPIVM_vm2-svr	電源オフ	2024/12/20 14:26:52	hv2-svr(Microsoft Hyper-V)

⑩ インスタント VM の動作確認

Hyper-V マネージャーからインスタント VM 作成先の仮想ホストにアクセスし、起動したインスタントVMにリモート コンソールで接続。ホスト名が変更されていることを確認





arcserve Japan合同会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング

購入前のお問い合わせ:

Tel: 0120-410-116 (営業時間 : 平日 9 : 00~17 : 30)

E-mail : JapanDirect@arcserve.com

Webフォーム: [お問い合わせフォーム](#)

arcserve.jp   

This document could include technical inaccuracies or typographical errors. Changes are periodically made to the information herein. These changes may be incorporated in new editions of this document. Arcserve may make improvements in or changes to the content described in this document at any time.

© 2025 Arcserve. All rights reserved. All Arcserve marks referenced in this presentation are trademarks or registered trademarks of Arcserve in the United States. All third party trademarks are the property of their respective owners.